

アルモノトス (大正九、一、四)

○刑法第九十七條第一項後段ニ所謂不正ノ行爲ヲ爲シタリト認定スルニハ必スシモ法規又ハ例規ヲ引用セサルモ犯人ノ所屬課長カ其主管事務ニ付其取扱手續ニ關シ爲シタル供述記載ヲ引用シテ之ヲ認定スルコトヲ得ヘキモノトス (大正一〇、一、一七)

○騙取ノ目的物ノ權利ノ歸屬ヲ判斷セスシテ詐欺罪ノ成立ヲ認メタル判決ハ違法ナリ (大正一〇、三、二四)

○被告訊問調書カ刑事訴訟法第二十一條ノ二第三項ノ規定ニ從ヒ作成セラレタルトキハ假令該調書ニ被告捺印シタリト附記セルニ拘ラス其捺印ナキトキト雖其訊問調書ハ有效ナリトス (大正一〇、五、二六)

○刑法第二百四十六條第一項ト同條第二項トハ同一罪質タル同一犯罪ヲ規定シタルモノナルカ故ニ縱令第一審ハ同條第一項ニ該當スヘキ事實ヲ認定シ同一公訴事實ニ付第二審ハ同條第二項ニ該當スヘキ事實ヲ認定スルモ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ (大正一〇、六、二五)

○告訴ヲ俟テ論スヘキ罪ニ在リテハ告訴ハ訴追條件ニシテ處罰條件ニ非サルヲ以テ其罪ヲ斷スルニ當リ告訴アリタルコトヲ明示シテ其證據ヲ說示スル要ナシ (大正一〇、六、三〇)

| | | |
|----|---|-----|
| 九 | 七 | 一三七 |
| 二〇 | 八 | 八 |
| 二〇 | 八 | 二〇五 |
| 二〇 | 八 | 一七三 |
| 二〇 | 八 | 二〇五 |
| 二〇 | 八 | 二〇五 |

○親告罪ノ告訴ハ訴追條件ニシテ處罰條件ニ非サレハ判文上證據ニ依リ告訴アリタルヤ否ヤヲ確定セサルヘカラサルモノニ非ス (大正一〇、六、三〇)

○一回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ意思繼續シテ數回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ一罪トシテ處斷スル點ニ於テ異ル所ナケレハ前者ノ行爲ニ對シ連續犯ニ問擬シタル違法アルモ判決破毀ノ理由トナスニ足ラサルモノス (大正一一、一、二六)

○國有地賣拂代金中驛屯土賣拂代金ニ付テハ法令中面ヲシテ收納セシムル場合アリト雖驛屯土以外ノ國有地賣拂代金ハ面ヲシテ收納セシムヘキ旨ノ法令ナク又面ノ會計員カ業務トシテ之ヲ取扱フヘキモノトスル法令又ハ慣例ノ認ムヘキモノナキヲ以テ單ニ面ノ會計員カ國有地賣拂代金ヲ橫領費消シタル事實ノミヲ認メ其驛屯土賣拂代金ナルコトヲ明示セスシテ輒ク刑法第二百五十三條所定ノ業務上橫領罪ニ問擬シタル判決ハ理由不備ノ不法アルヲ免レサルモノトス (大正一一、三、一六)

○犯罪ノ場所ハ裁判管轄竝ニ適用スヘキ法律ヲ定ムルノ標準ト爲ルヘキヲ以テ少クトモ判文記載ノ事實關係ニ依リ之ヲ推知シ得ルノ程度ニ於テ之ヲ判示セサルヘカラス (大正一一、四、二二)

| | | |
|----|---|----|
| 二 | 九 | 五 |
| 二 | 九 | 三六 |
| 二 | 九 | 二 |
| 二〇 | 八 | 二七 |

- 朝鮮鐵道ノ機關庫長以下鐵道係員職制第九十三條ノ規定ハ火夫ニ對シ同條ニ規定スル焚火ノ任務以外ニ於テ慣行ニ依ル他ノ任務ヲ認ムヘカラサルモノトスル趣旨ノ規定ニ非サルハ勿論焚火ノ任務ト停車場構内常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ任務トハ事實上併行シ得ヘカラサルモノニ非サルヲ以テ事實裁判所カ火夫ニ對シ證據ニ依リ慣行上停車場構内常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ任務ヲ有スルモノト判示シタルモ之ヲ以テ職制上ノ規定ヲ無視シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法アリト謂フヲ得ス (大正一一、五、二二)
- 全羅北道原蠶種製造所書記カ同製造所ノ庶務及會計ニ従事スル職務權限ヲ有スル道令ノ規定アル以上ハ判文上特ニ其道令ヲ掲ケ其公務員タルコトヲ說示スルノ要ナシ (大正一一、七、二二)
- 被告ノ行爲カ刑法第三十七條所定ノ緊急避難行爲ナルヤ否ヤハ事實裁判所ノ確定スヘキ職權事項ナリトス (大正一一、二、二六)
- 犯罪ノ日時又ハ場所ハ刑事訴訟法ニ所謂罪トナルヘキ事實ニ非サレハ必スシモ證據ニ依リ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要セサルモノトス (大正一一、六、七)

第二百五條

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 二 | 三 | 二 | 二 |
| 九 | 〇 | 九 | 九 |
| 五 | 八 | 九 | 五 |

- 刑事訴訟法第二百五條ノ規定ハ事件ノ審判ニ干與シタル檢事數名アル場合ニ必スシモ其總テノ檢事ノ官氏名ヲ原本ニ記載スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス其一人ノ檢事ノ官氏名記載アル以上ハ同條ノ規定ハ遵守セラレタルモノトス (大正七、七、八)
- 公判始末書ニ記載シタル立會檢事ト判決書ニ記載シタル立會檢事トノ氏名ヲ異ニスル判決ハ刑事訴訟法第二百五條ニ違背シタル不法アルモノトス (大正七、一、一一)

第二百八條

- 公判始末書中證人カ宣誓ヲ爲シタルコトヲ記載セサルハ刑事訴訟法第二百八條ニ違背スルモ同始末書ノ末尾ニ宣誓書ヲ添附シアレハ宣誓ヲ爲サシメサリシモノト云フヲ得ス又斯クノ如キ記載ノ欠缺ハ該始末書ヲシテ無効タラシムルモノニ非ス (大正元、一一、一八)
- 朝鮮人ニハ士族又ハ平民ト稱スル族稱存セサルモノトス (大正元、一一、一八)
- 公判始末書中所載ノ證人ノ族稱カ眞實ニ合セストスルモ之レカ爲メニ無効トナラサルモノトス (大正元、一一、一八)
- 讀聞ケタル證據中ニ通譯生ノ署名捺印ヲ缺キタル無効ノ調書アリトス

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 元 | 元 | 元 | 七 | 七 |
| 二 | 二 | 二 | 五 | 五 |
| 五 | 五 | 五 | 二 | 三 |

○ルモ調書ノ無効タルニ止リ之ヲ讀聞ケタル旨ヲ記載セル公判始末書ノ無効ニ歸スヘキ理由ナシ (大正二、一、二四)

○公判カ數回ニ亘リ開廷セラレタル場合ニ一通ノ公判始末書トシテ之ヲ作成スルニ當リ審理ニ更新アリタルトキノ審理手續ヲ記載スルニ付前回ノ公判始末書ノ部分ニ記載シタル所ト同一ノ審理手續ナル以上ハ其ノ記載ヲ引用シテ同一ノ記載ヲ爲スコトヲ省略スルヲ得ルモノトス (大正五、一〇、九)

○公判始末書中或文字ヲ挿入削除シタルトキハ作成者タル裁判所書記ハ一箇ノ認印ヲ以テ其挿入削除ノ兩者ニ兼用シ得ルモノトス (大正八、七、三一)

○公判始末書中文字ノ挿入ハ之ニ認印スルヲ以テ有效トシ其字數ヲ記載スルコトヲ要セス (大正八、七、三一)

○數回ニ亘ル公判手續ヲ一通ノ文書ニ記載スルトキハ其末尾ニ裁判長及裁判所書記ノ署名捺印アルヲ以テ足り各個ノ公判手續毎ニ其署名捺印ヲ要スルモノニ非ス (大正九、七、八)

第二章 區裁判所公判

| | | | | | |
|---|---|----|---|---|----|
| 二 | 二 | 五 | 八 | 八 | 九 |
| 二 | 二 | 三 | 六 | 六 | 七 |
| 二 | 二 | 五〇 | 六 | 六 | 一〇 |
| 二 | 二 | 九 | 六 | 六 | 五 |

○證人ヲ訊問スルニ當リ刑事訴訟法第二百二十三條第二百四條ノ各項ニ牴觸セサルコトヲ確メ式ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメタルコト公判始末書ノ記載ニ依リテ明ナルトキハ裁判所カ其證人ノ適格者タルコトヲ認ムルニ付テハ右兩條ノ規定ニ基キ訊問ヲ爲シ又調査ヲ爲シタルモノト推定スルニ足ルハ勿論右裁判所ノ訊問及調査竝ニ之ニ對スル證人ノ供述ハ必スシモ公判始末書ニ具體的ニ明示スルコトヲ要セサルモノトス (大正二、五、二一)

第二百十三條

○裁判長カ公判廷ニ於テ指定シタル期日ハ當日出頭シタル者ニ於テ知了スルヲ得ヘキニ依リ出頭シテ其指定期日ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ者ニ對シテハ別ニ之ヲ通知セサルモ違法ニ非ス (大正五、二、七)

○裁判長カ公判廷ニ於テ指定シタル期日ハ當日出頭シタル者ニ於テ之ヲ知了スルコトヲ得ヘキモノナルカ故ニ出頭シテ其指定期日ヲ知ルコトヲ得ヘカリシ者ニ對シテハ別ニ之ヲ通知セサルモ違法ニ非ス從テ上告人ノ代理人カ原審ニ於テ當初告知ヲ受ケタル大正十年六月二十四日午前八時ノ期日ニ出頭シタランニハ同期日ニ公判廷ニ於テ本件判決言渡期日カ同月二十七日午前八時ニ變更セラレタルコトヲ知リ得ヘカリシ

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 三 | 三 | 五 | 五 | 五 | 五 |
| 一〇 | 一〇 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 五 | 五 | 二七 | 二七 | 二七 | 二七 |

モノナルニ該期日ニ出頭セスシテ之ヲ知ラサリシハ同代理人懈怠ノ結果ニ外ナラスシテ原審カ二十四日ノ期日ニ變更シタル期日ヲ上告人ノ代理人ニ通知スルコトナク右期日ニ判決ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニ非ス (大正一〇、九、一七)

第二百十八條

○ 檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ規定ハ第一審ノ公判ニ於テハ常ニ之ヲ嚴守セサルヘカラスト雖第二審ノ公判ニ於テハ必スシモ之ニ準據スルヲ要スルモノニ非サルハ事件カ檢事ノ控訴ニ依リ第二審ニ繫屬シタル場合ニ於テモ異ナルナシ (大正八、一〇、六)

第二百二十條

○ 辯護人ハ公判ニ於テ證據調後辯論ヲ爲ス權利ヲ有スルモ之ヲ行使スルト否トハ辯護人ノ隨意ナルヲ以テ裁判所ハ辯護人ニ辯論ヲ爲スノ機會ヲ與フルヲ以テ足レリトシ必スシモ之ヲ強フルノ要ナシ是レ刑事訴訟法第二百二十條ノ法意ナリトス (大正一一、一二、二二)

第五編 上訴

第一章 通則

大 一〇 八 二五五

大 八 六 三七

大 二 九 一三一

第二百四十二條

○ 檢事カ第一審判決ニ於テ某者カ被告ノ共犯ナリト認定シタルヲ不當トシ控訴シタルトキハ被告人ノ利益ノ爲メ爲シタル控訴ニ非ス (明治四四、五、一)

○ 檢事ハ公判廷ニ於テ開陳シタル刑ノ量定ニ關スル意見ニツキ羈束ヲ受クヘキ理由ナキカ故ニ判決カ該意見ト同一途ニ出テタルトキト雖檢事カ初思ニ反シ其刑ヲ以テ輕キニ失スルモノト認メタルトキハ其理由ニ基キ該判決ニ對シ控訴ノ申立ヲ爲スハ固ヨリ法ノ禁スル所ニアラス (大正八、一〇、六)

○ 起訴事實中不穩文書ヲ印刷シタル行爲ト其印刷シタル不穩文書ヲ配付シタル行爲トハ手段結果ノ關係アリ刑法第五十四條第一項後段ヲ適用スヘキモノ又其朝鮮ノ獨立運動ヲ促ス趣旨ヲ内容トスル不穩文書ノ配布行爲ト其獨立運動ヲ爲スヘキコトヲ煽動シタル行爲トハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸レ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトシテ起訴セラレタルモノナルコト明ナル案件ニアリテハ其起訴事實中ノ數個ノ行爲ハ之ヲ一罪トシテ起訴セラレタルモノト觀ルヘキモノナレハ其數個ノ行爲中其一部ヲ無罪ト認メ他ノ部分ヲ有罪ト認メタル

大 四 一 一〇〇

大 八 六 三七

トキト雖モ一罪中ノ一部ヲ無罪ト認メタルニ外ナラサレハ主文ニ於テ特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス (大正八、一一、一五)

○ 敘上ノ場合ニ於テ假令主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スモ其部分ハ分離シテ確定スヘキモノニ非サルヲ以テ有罪ヲ言渡シタル部分ノミニ對シテ控訴ノ申立アリタルトキト雖モ全部ニ付移審ノ效ヲ生スルモノトス (大正八、一一、一五)

第二章 控訴

第二百五十一條

○ 豫審判事カ數個ノ犯罪事實ヲ併合罪ノ關係アルモノトシテ公判ニ付スル決定ヲ爲シ第一審裁判所カ審理ノ結果其數個ノ公訴事實中ノ一ヲ有罪ト認メ罰金刑ノ言渡ヲ爲シ其他ノ公訴事實ニ付證據十分ナラストシ無罪ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ第一審ノ檢事カ其無罪ト爲リタル部分ニノミ限定シ控訴ノ申立ヲ爲シタルトキハ其有罪ノ部分ハ確定シ無罪ヲ言渡シタル公訴事實ノミ控訴審ニ繫屬スルモノトス (大正一〇、三、二四)

第二百五十八條

○ 檢事ハ被告事件ヲ陳述スヘシトノ規定ハ第一審ノ公判ニ於テハ常ニ之

ヲ嚴守セサルヘカラスト雖第二審ノ公判ニ於テハ必スシモ之ヲ準據スルモノニ非サルハ事件カ檢事ノ控訴ニ依リ第二審ニ繫屬シタル場合ニ於テモ異ナルナシ (大正八、一〇、六)

第二百五十九條

○ 二個以上ノ犯罪行為カ實質上牽連關係ヲ有スルトキト雖モ檢事ノ起訴若クハ豫審判事ノ豫審終結決定ニ依リ併合罪トシテ公判ニ繫屬シタル場合ニ於テ第一審裁判所カ其一部ニ付有罪ノ判決ヲ爲シ他ノ部分ニ付無罪ノ判決ヲ爲シ被告ヨリ有罪ノ部分ニ付控訴申立アリタルトキハ其控訴申立アリタル部分ニ付移審ノ效力ヲ生スルモ他ノ無罪ノ部分ハ移審ノ效力ナキモノトス從テ檢事カ有罪ノ部分ニ牽連關係アリトシテ無罪ノ部分ノ犯罪事實ニ付テモ附帶控訴ヲ爲スモ無罪ノ部分ニ關シテハ期間内檢事ノ控訴ナキニ依リ確定シタル公訴事實ニ對スルモノナレハ其附帶控訴ハ不適法ナリ (大正八、一、二五)

○ 被告人ノ控訴ト檢事ノ附帶控訴トアル場合ニ被告人ノ控訴ニ對シテノミ判決ヲ爲シ檢事ノ附帶控訴ニ對シ何等ノ判決ヲ爲ササルハ刑事訴訟法第二百六十九條第七號前段ニ該當スル違法アルモノトス (大正一〇、八、一一)

八 六三七六

八 六三七六

一〇 八 七五

八 六三七二

八 六二六

一〇 八 二四六

○被告ノ上告ニ因リ上告審カ甲覆審法院ノ第二審判決ヲ破毀シテ事件ヲ乙覆審法院ニ移送シタル場合ニ在リテモ曩ニ甲覆審法院ニ於テ檢事ヨリ爲シタル附帶控訴ハ被告ノ不利益ノ爲ニ爲シタルモノト雖依然トシテ其效力ヲ有スルヲ以テ乙覆審法院ハ審理ヲ遂ケ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルコトヲ妨ケサルモノトス (大正一〇、一一、一九)

第二百六十一條

○控訴裁判所ニ於テ勞役場留置期間ノ言渡ヲ遺脱シタル第一審判決ヲ取消サスシテ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ違法ナリトス (明治四三、一一、九)

○控訴裁判所ニ於テ被告ハ刀ヲ執リタルモ對手者ノ爲メニ打落サレ且同人カ之ヲ拾ヒ取ラントシタルヨリ被告ハ更ニ拳銃ヲ執リ發射シタル事實ヲ認メタルニ拘ハラス對手者カ打落シタル刀ヲ拾ヒ被告ニ斬リ付ケントシタリト認メタル第一審判決ヲ取消ササリシハ相當ナリトス (明治四四、三、三一)

○公訴費用負擔ノ如キ刑ニアラサルモノハ控訴審ニ於テ更ニ被告ニ歸セシムルモ被告ノ不利益ト爲シタルモノニ非ス (明治四四、五、一)

○第二審判決ニ於テ第一審判決ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキニ非サレハ被告人ニ不利益ナル變更ト謂フヲ得サルモノトス (明治四四、八、七)

| | | | | | |
|-----|----|----|-----|-----|-----|
| 大 | 四三 | 一〇 | 四四 | 四四 | 四四 |
| 一 | 一七 | 八 | 一 | 一 | 一 |
| 二七五 | 二七 | 八 | 一七五 | 一〇〇 | 一四八 |

○控訴裁判所ニ於テ請求却下ノ言渡ヲ爲シタル第一審判決ヲ相當ナリトスルニ拘ハラス再ヒ請求却下ノ言渡ヲ爲スハ妥當ナラスト雖破毀ノ原因タラサルモノトス (大正三、九、二一)

○第一審裁判所カ二個ノ行爲ヲ以テ連續犯ナリト認メ刑法第五十五條ヲ適用セル場合ニ第二審裁判所ハ其一個ノ行爲ヲ認メ他ノ一個ノ行爲ハ罪ヲ構成セサルモノトシ刑法第五十五條ヲ適用スヘカラサルモノトスルモ何レモ一罪トシテ處斷スル點ニ於テ異ナル所ナク其處罰規定及刑ノ量定ニモ變更ヲ生セサルヲ以テ第二審裁判所ハ第一審裁判所ノ判決ヲ取消スノ要ナシ (大正六、八、二〇)

○一回ニ横領シタルモノトシテ處斷スルモ意思繼續シ數回ニ横領シタルモノトシテ處斷スルモ其一罪トナル點ニ於テ同一ニ歸スルヲ以テ第二審判決ニ於テ刑法第五十五條ヲ適用シタルニ拘ラス之ヲ適用セサル第一審判決ヲ取消ササリシハ不法ニアラス (大正七、三、九)

○常習賭博ニ於ケル數回ノ行爲ハ集合的一罪ヲ構成スルニ依リ第一審判決ト第二審判決トノ間其行爲ノ個數ニ付差異アルモ等シク同種ノ犯罪ヲ認メタル以上ハ第二審判決ヲ以テ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス (大正七、四、四)

| | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 大 | 三 | 六 | 大 | 大 | 大 |
| 七 | 二 | 四 | 七 | 七 | 七 |
| 三〇一 | 三〇一 | 三三四 | 四七 | 四七 | 一三三 |

○第一審ハ千九百九十二圓ノ現金ヲ騙取シタリト爲シ第二審ハ千二百九十
 二圓ノ小切手ヲ騙取シタリト爲スモ共ニ詐欺ノ行爲ニシテ適用法條亦
 同一ナルヲ以テ第一審判決ヲ取消スノ要ナキモノトス (大正七、六、八)
 ○檢事カ二個以上ノ犯罪行爲ヲ連續又ハ牽連ノ一罪トシテ起訴シ又ハ豫
 審判事カ豫審終決決定ニ依リ連續又ハ牽連ノ一罪トシテ公判ニ付シタ
 ル場合ハ其二個以上ノ犯罪行爲ハ一罪トシテ公判ニ繫屬シ爾後如何ナ
 ル事由アルモ公訴事實ノ性質ニ變更ヲ來スモノニ非スシテ一審裁判所
 カ其一部ヲ無罪ト認メ他ノ部分ヲ有罪ト認メタルトキハ其無罪ト認メ
 タル部分ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非サルカ故ニ若シ第一審
 裁判所カ其無罪ノ言渡ヲ爲シ第一審檢事カ其部分ニ限定シ控訴ノ申立
 ヲ爲シタリトスルモ該控訴ノ申立ニ依リ犯罪全部ニ付移審ノ效力ヲ生
 スルモノトス (大正七、七、二七)
 ○控訴審及第一審間ニ於ケル事實認定ノ相異カ犯罪ノ構成ニ影響ナキト
 キハ之カ爲刑ノ量定ニ變更ナキ以上ハ第一審判決ヲ取消ス要ナシ
 (大正八、七、三一)
 ○控訴ノ審理ハ控訴ノ申立ニ依リ事實ノ覆審ヲ爲スモノニシテ控訴理由
 ノ當否ヲ審査スルモノニ非サルヲ以テ苟モ審理ノ結果第一審判決ハ不

| | | |
|---|---|---|
| 七 | 七 | 八 |
| 五 | 七 | 六 |
| 二 | 五 | 二 |
| 一 | 二 | 七 |

當ニシテ取消スヘキトキハ取消ノ理由如何ニ拘ラス控訴ハ理由アリ故
 ニ假令被告ノ控訴ノミニ依リテハ第一審判決ハ取消スヘカラス檢事ノ
 附帶控訴ニ依リ取消スヘキモノナルトキト雖モ被告ノ控訴モ亦理由ア
 リ (大正九、六、二八)
 ○刑法第二百四十六條第一項ト同條第二項トハ同一罪質タル同一犯罪ヲ
 規定シタルモノナルカ故ニ縱令第一審ハ同條第一項ニ該當スヘキ事實
 ヲ認定シ同一公訴事實ニ付第二審ハ同條第二項ニ該當スヘキ事實ヲ認
 定スルモ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ (大正一〇、六、二五)

第二百六十五條

○一審ニ於テ死刑ニ處シ二審ニ於テモ死刑ニ處スヘキモノト認メタルト
 キハ判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタル場合ニ該當セス (大正四、一、二八)
 ○第一審判決ニ於テ刑法第十八條第四項ノ規定ヲ遵守セサル違法アルト
 キハ控訴審ニ於テハ宜シク正當ナル擬律ヲ爲シテ第一審判決ヲ取消シ
 且被告ノミニ控訴ニ係ル場合ニ於テハ刑事訴訟法第二百六十五條ノ規
 定ニ則リ第一審判決ノ主文ヲ被告ノ不利益ニ變更セサル程度ニ於テ相
 當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス (大正四、一〇、七)
 ○刑事訴訟法第二百六十五條第一項ニ所謂原判決ヲ變更シテ被告人ノ不

| | | |
|---|---|----|
| 九 | 四 | 一〇 |
| 七 | 三 | 八 |
| 九 | 七 | 二 |
| 四 | 七 | 五 |

利益ト爲スコトヲ許サストハ判決主文ニ於テ科刑其他被告人ノ負擔ヲ第一審判決ニ比シ重カラシムルコトヲ許ササルノ趣旨ニ外ナラサルモノトス (大正一〇、二、二四)

○第二審カ第一審ニ於テ言渡ササル沒收刑ヲ新ニ言渡スハ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノトス (大正一三、三、一〇)

○舊刑事訴訟法第二百六十五條ニ所謂被告人ノ不利益ニ變更ヲ爲スコトヲ許サストハ被告人ノ各自ニ付テノミ之ヲ謂フモノニシテ第二審判決カ第一審判決ニ比シ共同被告人ノ一人ノ不利益ニ歸スルノ故ヲ以テ之ヲ他ノ被告人ニ及ホシ他ノ被告人ヲシテ之カ爲ニ其ノ利益ヲ喪失セシムルモ可ナリトスル趣旨ニアラズ (大正一三、三、一〇)

第二百六十六條

○控訴裁判所ニ於テ私訴關係人出頭セサルトキハ公訴事件ト同シク職權審理ニ因リ請求ノ當否ヲ判定スヘキモノニシテ民事訴訟法ニ於ケルカ如キ法律上ノ推定ヲ下シ出頭セサル相手方ノ不利益ニ判定スヘキモノニ非ス (大正一一、八、三〇)

第三章 上告

| | | |
|----|----|----|
| 一〇 | 八 | 四五 |
| 二三 | 二 | 五 |
| 三三 | 二〇 | 九七 |

○被告事件上告審ニ繫屬スル場合ニ於テハ保釋申請ハ控訴裁判所ニ差出スヘキモノニシテ上告裁判所ニ於テ許否スヘキモノニアラス (大正元、一一、六)

○併合罪ノ場合ニ刑法第四十八條第一項ニ依リ刑ヲ併科シタルトキハ數個ノ併合罪ニ對シ一個ノ刑ヲ言渡シタル場合ト異リ其併合罪ノ一ニ付上告理由アリ他ノ併合罪ニ付其理由ナキトキハ之ヲ分離シ裁判ヲ爲シ得ヘキモノトス (大正七、一一、一四)

第二百六十七條

○上訴ハ訴訟關係人各自ノ利益ノ爲前裁判ヲ矯正スルコトヲ得セシムル趣旨ニ出テタルモノナレハ訴訟關係人ト雖モ檢事被告ノ法律上代理人ノ如ク法律ニ特ニ規定アルモノノ外他人ノ利益ノ爲メニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス從テ被告人カ共同被告ハ犯罪行爲ヲ爲シタルコトナク刑罰ヲ受クヘキモノニ非サルコトヲ理由トスル上告ハ不適法ナリトス (大正七、四、一五)

第二百六十八條

○第二審ニ於テ連續ノ一罪ト認メタルニ對シ之ヲ併合罪ナリト主張スルハ自己ノ不利益ニ歸シ上告ノ理由ト爲スヲ得ス (大正二、一一、二四)

| | | |
|---|---|-----|
| 元 | 二 | 三五 |
| 七 | 五 | 二九 |
| 七 | 五 | 二九 |
| 二 | 二 | 一三六 |

○沒收ノ言渡ナキヲ以テ不當ナリトスル論旨ハ被告人ノ不利益ニ歸スル

モノナルヲ以テ上告適法ノ理由トナラス (大正五、六、一九)

○控訴審ニ於テ第一審判決ヲ取消シタル場合ニ於テ被告ノ未決拘留日數

ヲ本刑ニ算入スルト否トハ控訴審ノ職權ニ屬スルヲ以テ其算入ヲ爲サ

サリシヲ不當ナリトスル論旨ハ上告理由トナラス (大正五、九、一八)

○押收ニ係ル物件カ果シテ阿片ナルヤ又ハ阿片煙ナルヤハ事實裁判所ノ

職權ヲ以テ認定スヘキ事實ナリトス從テ之ヲ論争スルモ上告ノ理由ト

ナラス (大正六、七、九)

○再起訴ヲ許ス決定ニ對シテハ刑事訴訟法上異議ヲ許ス規定ナキヲ以テ

再起訴許可アリタル以上ハ該決定ノ違法ナルコトヲ理由トシ上告ノ理

由ト爲スヲ得ス (大正六、一一、一五)

○公訴不受理ヲ言渡シタル判決ニ對シテハ被告ヨリ上告ヲ爲スモ何等利

益ナキモノナレハ斯ル判決ニ對シテハ被告ヨリ上告ヲ爲スヲ得ス

(大正六、一一、一五)

第二百六十九條

○原審カ被告ノ所爲ニ對シ刑法大全ヲ適用シタルハ原判決當時ニ在リテ

ハ相當ナリシモ其後同法ハ廢止セラレ明治四十五年四月一日朝鮮刑事

大 五 三 四五

大 五 三 四六九

大 六 四 三四九

大 六 四 四五四

大 六 四 四五五

○令ニ依リ刑法ヲ適用シ處罰スヘキモノナルヲ以テ原判決ハ結局廢止セ

ラレタル法律ヲ適用シ被告ヲ處罰セシ違法アルニ歸スルモノトス

(明治四五、四、一五)

○罰金刑ニ該當スル併合罪ヲ認定シアラサル以上刑法第四十八條ヲ適用

スルモ破毀ノ原因タル瑕瑾トナラス (大正二、九、四)

○第二審判決ノ認メタル事實ト起訴事實トノ間多少其範圍ニ廣狹アルモ

同一ノ犯罪ニ關シ事實ノ認定ヲ同ウセサルニ止ルトキハ之ヲ以テ訴ヲ

受ケサル事實ヲ判決シタルモノト云フヲ得ス (大正七、三、二三)

○虛無ノ證據ニ依リテ犯罪事實ヲ認定シタル判決ハ不法ニシテ破毀ヲ免

レス (大正七、一一、一一)

○乗客ヲ乗セタル自動車ヲ渡船ニ依リ此岸ヨリ彼岸ニ上陸セシメントス

ル場合ニ於テ渡船ト陸上トノ杭トニ結付ケアル繫留繩カ其重量及機關

ノ強壓ニ堪ヘ得ルノ牽引力ヲ有スルヤ否ヤノ如キハ繫留繩ヲ繫留スル

コトカ自動車運轉手タル被告ノ業務ノ範圍ニ屬スルヤ否ヤヲ區別シテ

其注意義務者ノ如何ヲ判斷セサルヘカラス然ルニ之ヲ區別セスシテ直

ニ被告ヲ業務上ノ過失致死罪ニ問擬シタル判決ハ理由不備ノ不法アリ

テ破毀ヲ免レス (大正八、七、一一)

大 四五 一 二二三

大 二 二 二二

大 七 五 六一

大 七 五 二九四

大 八 六 二〇六

○被告人ノ控訴ト檢事ノ附帶控訴トアル場合ニ被告人ノ控訴ニ對シテノミ判決ヲ爲シ檢事ノ附帶控訴ニ對シ何等ノ判決ヲ爲ササルハ刑事訴訟法第二百六十九條第七號前段ニ該當スル違法アルモノトス (大正一〇、八、一一)

○一回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ意思繼續シテ數回ニ誣告ヲ爲シタルモノトシテ處斷スルモ一罪トシテ處斷スル點ニ於テ異ル所ナケレハ前者ノ行爲ニ對シ連續犯ニ間擬シタル違法アルモ判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス (大正一一、一、二六)

第二百七十四條

○朝鮮刑事令第三十三條刑事訴訟法第二百七十四條ニ基キ第二審裁判所カ被告ノ上告ヲ棄却シタル決定ニ對シテハ檢事モ亦被告利益ノ爲抗告ヲ爲スコトヲ得 (大正八、一、一六)

第二百七十八條

(朝鮮刑事令參照)

○上告申立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ趣意書ヲ差出ササルトキハ上告申立ハ不成立ニ歸スルモノトス (明治四五、五、八)

○上告申立人カ其申立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ趣意書ヲ差出ササルト

| | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|-----|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 一〇 | 二 | 八 | 二 | 八 | 二 | 一〇 |
| 八 | 九 | 六 | 九 | 六 | 九 | 八 |
| 二四六 | 二 | 一 | 二 | 一 | 二 | 二四六 |

キハ上告申立ハ不成立ニ歸スヘキモノトス (大正七、三、二八)

○上告趣意書ヲ差出スヘキ五日ノ期間及其期間經過後追加趣意書ヲ差出スコトヲ得ヘキ十四日ノ期間ヲ計算スルニ該リ共ニ其期間ノ初日ハ之ヲ算入セサルモノトス (明治四五、六、一〇)

○附帶上告趣意書ヲ原裁判所ニ差出サスシテ直ニ上告裁判所ニ差出シタルトキハ其附帶上告ハ不適法ナリトス (明治四五、六、一〇)

○被告自ラ上告ノ申立ヲ爲シタル以上ハ其趣意書又ハ追加趣意書ハ其辯護人ヨリ提出スルモ妨ケナキモノトス (大正三、八、二六)

○公訴附帶ノ私訴事件ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルトキト雖公訴判決ニ對スル上告ト等シク上告趣意書ハ上告ノ申立ヲ爲シタル日ヨリ五日內ニ差出スヘキモノトス (大正五、四、六)

○上告趣意ノ内容ヲ表示セサル趣意書ハ趣意書タル效力ナク趣意書ヲ提出セサルト同一ナリ (大正七、三、二八)

○如上ノ場合ニ於テ上告趣意書提出期間經過後追加趣意書提出期間内ニ追加趣意書ノ提出アリタリトスルモ一旦不成立ニ歸シタル上告申立ヲ成立セシムルヲ得ス (大正七、三、二八)

○朝鮮刑事令第三十四條第一項ノ規定ハ上告申立人カ趣意書提出期間内

| | | | | | | |
|----|----|-----|-----|-----|-----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 七 | 七 | 五 | 三 | 四五 | 四五 | 七 |
| 五 | 五 | 三 | 二 | 一 | 一 | 五 |
| 二〇 | 二〇 | 三四五 | 二五三 | 二二三 | 二二三 | 二〇 |

○趣意書ヲ差出シ上告ノ成立シタル場合ニ之ヲ補充スル爲追加趣意書ヲ差出シ得ヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ上告趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出ササルモ其期間經過シタル後十四日内ニ追加趣意書ヲ差出セハ趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出シタルト同シク上告ハ成立ストノ旨趣ニ非ス (大正七、九、一七)

○上告狀カ適法ノ期間内ニ提出セラレ親告罪ニ付告訴ノ取下アリタル場合ニハ告訴ノ取下ニ依リ公訴權消滅シ被告ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナレハ縱令上告趣意書提出期間内ニ趣意書ノ提出ナキモ其上告ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノニ非ス (大正八、一、一六)

○被告人ハ已ニ提出セラレタル共同被告人ノ上告論旨ヲ援用スルコトヲ得ルモ其未タ提出ナキ論旨ハ其提出アルコトヲ豫期シ之ヲ援用スルモ援用ノ效ナキモノトス (大正九、一、一五)

○上告趣意書上告追加趣意書ノ提出ニ付テハ縱令被告カ拘束セラレサル場合ニ於テモ里程ノ猶豫ヲ與フヘキ限りニ非ス (大正一〇、二、一一)

○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲ス場合ニ於ケル申立書提出ニ關スル刑事訴訟法第二百四十五條ノ法則ハ上告趣意書提出ノ場合ニ在リテモ仍ホ適用セララルヘキモノニシテ從テ勾留ヲ受ケタル被告人ニシテ上告申

立ヲ爲シタル日ヨリ五日ノ期間内ニ上告趣意書ヲ監獄署長ニ提出シタル以上ハ該趣意書カ右期間内ニ裁判所ニ到達シタルト否トニ拘ラス提出ノ效力アルモノトス (大正一一、三、二)

第二百八十六條

○被告ノ上告ニ因リ上告審カ甲覆審法院ノ第二審判決ヲ破毀シテ事件ヲ乙覆審法院ニ移送シタル場合ニ在リテモ曩ニ甲覆審法院ニ於テ檢事ヨリ爲シタル附帶控訴ハ被告ノ不利益ノ爲ニ爲シタルモノト雖依然トシテ其ノ效力ヲ有スルヲ以テ乙覆審法院ハ審理ヲ遂ケ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルコトヲ妨ケサルモノトス (大正一〇、一一、一九)

第二百八十七條

○上告裁判所ニ於テハ原判決ヲ破毀シ自ラ判決スル場合ノ外刑ノ執行猶豫ヲ言渡シ得ヘカラサルモノトス (大正元、九、二七)

○上告審ニ於テハ擬律錯誤ノ理由ニ依リ原判決ヲ破毀シ自ラ裁判ヲ爲ス場合ニ非サレハ酌量減輕ヲ爲スノ職權ヲ有セス (大正五、九、一一)

○上告裁判所ニ於テハ原判決ヲ破毀シ自ラ判決スル場合ノ外酌量減輕刑竝ニ刑ノ執行猶豫ヲ言渡スコトヲ得サルモノトス (大正五、一〇、二)

第二百八十九條

| | | | | |
|-----|-----|---|-----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 五 | 五 | 元 | 一〇 | 二 |
| 三 | 三 | 二 | 八 | 九 |
| 四九八 | 四六二 | 二 | 二七五 | 一五 |

| | | | |
|-----|---|-----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 七 | 八 | 九 | 一〇 |
| 五 | 六 | 七 | 八 |
| 二六五 | 一 | 一七五 | 一六 |

○ 渡ヲ爲シタル第一審判決ヲ認可シ控訴棄却ヲ言渡シタルトキトテ問ハス何レモ第二審ニ於テ判決確定シタル場合ニハ第二審裁判所ノ判決ニ對シ第三上告審ニ於テ第二審判決ヲ破毀シ更ニ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキ若シクハ第二ニ掲ケタル第二審ノ判決ニ對スル上告ヲ棄却シタル場合ニハ何レモ第二審裁判所ノ判決ニ對シ各之ヲ爲スヘキモノト解スヘク從テ刑事訴訟法第三百四條ニ所謂原裁判所トハ第一ノ場合ニ於テハ第一審裁判所第二第三ノ場合ニ於テハ第二審裁判所ヲ指スモノト謂ハサルヘカラス (大正六、一〇、二九)

○ 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣旨書ニ原判決謄本ノ外證據書類ヲ添ヘテ之ヲ原裁判所ニ差出ササルヘカラス然ラサレハ其訴ハ不適法ニシテ成立セサルモノトス (大正六、一二、二七)

○ 原裁判所ニ顯レタル證據ハ再審ノ訴ニ於ケル證據トシテ採用スヘキモノニ非ス (大正七、九、二六)

○ 再審ノ訴ニ對シテ原裁判所ノ判決ニ對シ各之ヲ爲スヘキモノト解スヘク從テ刑事訴訟法第三百四條ニ所謂原裁判所トハ第一ノ場合ニ於テハ第一審裁判所第二第三ノ場合ニ於テハ第二審裁判所ヲ指スモノト謂ハサルヘカラス (大正六、一〇、二九)

| | | | |
|----|----|-----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 七 | 六 | 六 | 八 |
| 五 | 四 | 四 | 六 |
| 二六 | 五六 | 四三九 | 一一 |

諸法令

朝鮮刑事令

第一條

○明治四十五年制令第十一號朝鮮刑事令第一條ハ刑法其他ノ法律ト同一ノ内容ヲ有スル規定ヲ同令ニ於テ制定シタルモノナリト解スヘキモノトス (大正三、一一、五)

○朝鮮刑事令ハ明治四十四年法律第三十號第一條ニ基キ發セラレタルモノニシテ該法律ノ規定ニ違背スルモノニ非ス (大正三、一一、五)

第七條

○朝鮮刑事令第七條ニ規定スル書類ノ補正ハ書類作成ノ當該官吏公吏ニシテ補正ノ必要ヲ認メ且職務上補正ヲ爲シ得ルノ權限ヲ有スル場合ニハ時期ノ如何ヲ問ハス補正ヲ爲シ得ヘク且補正ハ書類作成ノ時ニ遡リ其效力ヲ生スルモノトス (大正四、二、八)

○勾引狀カ形式ニ違背スルカ爲メニ無効ニ歸スル場合ト雖檢事ノ爲シタル訊問ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス (大正四、二、八)

第十二條

○司法警察官カ現行犯ノ假豫審處分ヲ爲スニ當リテハ特別ノ規定アラサ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 四 | 四 | 三 | 三 |
| 三 | 三 | 二 | 二 |
| 二 | 二 | 三 | 三 |

ヲ算入セサルモノトス (明治四五、六、一〇)

○附帶上告趣意書ヲ原裁判所ニ差出サスシテ直ニ上告裁判所ニ差出シタルトキハ其附帶上告ハ不適法ナリトス (明治四五、六、一〇)

○被告自カラ上告ノ申立ヲ爲シタル以上ハ其趣意書又ハ追加趣意書ハ其辯護人ヨリ提出スルモ妨ケナキモノトス (大正三、八、二六)

○公訴附帶ノ私訴事件ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルトキト雖公訴判決ニ對スル上告ト等シク上告趣意書ハ上告ノ申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ差出スヘキモノトス (大正五、四、六)

○上告趣意ノ内容ヲ表示セサル趣意書ハ趣意書タル效力ナク趣意書ヲ提出セサルト同一ナリ (大正七、三、二八)

○如上ノ場合ニ於テ上告趣意書提出期間經過後追加趣意書提出期間内ニ追加趣意書ノ提出アリタリトスルモ一旦不成立ニ歸シタル上告申立ヲ成立セシムルヲ得ス (大正七、三、二八)

○朝鮮刑事令第三十四條第一項ノ規定ハ上告申立人カ趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出シ上告ノ成立シタル場合ニ於テ之ヲ補充スル爲追加趣意書ヲ差出シ得ヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ上告趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出ササルモ其期間經過シタル後十四日内ニ追加趣意書

| | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 七 | 七 | 五 | 三 | 四 | 四 |
| 五 | 五 | 三 | 二 | 一 | 一 |
| 二〇 | 二〇 | 四五 | 五三 | 三三 | 三二 |

ヲ差出セハ趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出シタルト同シク上告ハ成立ストノ旨趣ニ非ス (大正七、九、一七)

○上告狀カ適法ノ期間内ニ提出セラレ親告罪ニ付告訴ノ取下アリタル場合ニハ告訴ノ取下ニ依リ公訴權消滅シ被告ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノナレハ縱令上告趣意書提出期間内ニ趣意書ノ提出ナキモ其上告ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノニ非ス (大正八、一、一六)

○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲ス場合ニ於ケル申立書提出ニ關スル刑事訴訟法第二百四十五條ノ法則ハ上告趣意書提出ノ場合ニ在リテモ仍ホ適用セラレヘキモノニシテ從テ勾留ヲ受ケタル被告人ニシテ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ五日ノ期間内ニ上告趣意書ヲ監獄署長ニ提出シタル以上ハ該趣意書カ右期間内ニ裁判所ニ到達シタルト否トニ拘ラス提出ノ效力アルモノトス (大正一一、三、二)

○朝鮮刑事令第三十三條刑事訴訟法第二百七十四條ニ基キ第二審裁判所カ被告ノ上告ヲ棄却シタル決定ニ對シテハ檢事モ亦被告利益ノ爲抗告ヲ爲スコトヲ得 (大正八、一、一六)

第三十四條

| | | | |
|---|----|---|-----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 八 | 二 | 八 | 七 |
| 六 | 九 | 六 | 五 |
| 一 | 一五 | 一 | 二六五 |

○上告趣意書ヲ差出スヘキ五日ノ期間及其期間經過後追加趣意書ヲ差出スコトヲ得ヘキ十四日ノ期間ヲ計算スルニ當リ共ニ其期間ノ初日ハ之ヲ算入セサルモノトス (明治四五、六、一〇)

○被告自ラ上告ノ申立ヲ爲シタル以上ハ其趣意書又ハ追加趣意書ハ其ノ辯護人ヨリ提出スルモ妨ケナキモノトス (大正三、八、二六)

○上告趣意ノ内容ヲ表示セサル趣意書ハ趣意書タル效力ナク趣意書ヲ提出セサルト同一ナリ此ノ場合ニ於テ上告趣意書提出期間經過後追加趣意書提出期間内ニ追加趣意書ノ提出アリタリトスルモ一旦不成立ニ歸シタル上告申立ヲ成立セシムルヲ得ス (大正七、三、二八)

○朝鮮刑事令第三十四條第一項ノ規定ハ上告申立人カ趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出シ上告ノ成立シタル場合ニ於テ之ヲ補充スル爲追加趣意書ヲ差出シ得ヘキコトヲ定メタルニ過キスシテ上告趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出ササルモ其期間經過シタル後十四日内ニ追加趣意書ヲ差出セハ趣意書提出期間内ニ趣意書ヲ差出シタルト同シク上告ハ成立ストノ旨趣ニ非ス (大正七、九、一七)

第四十一條

○朝鮮刑事令第四十一條第一項及第二項ハ一旦廢止シタル法令カ同令ニ

| | | | |
|-----|-----|-----|---|
| 四五 | 三 | 七 | 大 |
| 一三三 | 二二五 | 七五 | 七 |
| | | 五 | 大 |
| | | 二六五 | 七 |

依リ新ニ制定シタルト同一ノ效力ヲ發生シタルモノニ非スシテ第二項ニ列記セル刑法大全ノ各條項ニ限り當分ノ内之ヲ存續シ從前ト同一效力ヲ有セシムルニ外ナラサルモノトス (大正三、六、一一)

○朝鮮刑事令第四十一條第二項ニ本令施行前ト同一ノ效力ヲ有ストアルハ單ニ朝鮮人タル人ニ對スル法令ノ效力ヲ規定セルニ止マラサルモノトス (大正三、六、一一)

第四十二條

○朝鮮刑事令第四十二條ハ之ヲ適用シタルコト明カナレハ判文上特ニ其適用ヲ明示セサルハ違法ニ非ス (大正二、三、五)

第四十五條

○朝鮮刑事令施行前ニ犯シタル統首洞長又ハ郡守ノ認證又ハ證明ニ關スル文書偽造行使ノ所爲ニシテ未タ確定判決ヲ經サルモノハ同令第四十五條ニ依リ刑法第五百五條第一項又ハ同第五百五十七條第一項及第五百五十八條第一項ヲ適用處斷スヘキモノトス (大正三、七、二三)

○朝鮮刑事令第四十五條ノ規定ニ依リ同令施行ノ日即チ明治四十五年四月一日以前ニ罪ヲ犯シ未タ確定判決ヲ經サル者ニ對シテハ公訴時効ノ完成セサル限り同令ヲ以テ引用シタル刑法ノ規定ヲ遡及シテ適用セシ

| | | | |
|-----|-----|-----|---|
| 三 | 二 | 三 | 大 |
| 二二九 | 二九三 | 二二一 | 三 |
| | | | 大 |
| | | | 三 |

ムルモノナレハ刑法第六條ノ規定ハ之ヲ除外スル旨趣ニシテ内地人ニ對シテモ新舊二法ノ刑ヲ比照シ輕キニ從ヒテ處斷スヘキモノニ非ス (大正四、三、一)

第四十七條

○刑法ノ適用上朝鮮人間ニ於ケル親族ノ範圍ハ朝鮮ニ於ケル一般慣習ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十五條以下ノ規定ニ依リテ定ムヘキモノニ非ス (大正一三、一二、四)

○朝鮮ノ一般慣習ニ依レハ其ノ相互間ノ誼禮ヲ本トシ親族ト汎稱スル本宗及異姓ノ有服親、祖免親及無服親ノ中特ニ血族ニ於テハ有服ノ近親ノミヲ以テ法令上親族ノ範圍ト爲シタルモノトス (大正一三、一二、四)

刑法施行法

第二條 第三條

○刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル刑罰法規相互間ニ刑ノ變更アリタル場合ニ在リテハ新舊兩方法何レモ刑法總則ノ適用ヲ受ケ單ニ法定刑ニ差異ヲ生スルニ過キサルヲ以テ其ノ刑ノ變更アリタル罪ニ付テノミ刑法第十條ニ依リ新舊法ニ於ケル法定刑ヲ比照シ輕キモノヲ適用

○スルヲ以テ足り刑法施行法第二條第三條等ノ規定ニ比照ヲ爲スノ要ナシ故ニ保安法ノ罪カ他ノ罪ト併合罪ノ關係ニ在ルトキハ刑法第六條第十條ニ依リ保安法ノ罪ニ付保安法及大正八年四月制令第七號ノ各法定刑ヲ比照シ其ノ輕キモノヲ適用シ然ル後他ノ罪トノ關係ニ於テ併合罪ノ規定ヲ適用スヘキモノトス (大正八、六、二一)

第五十三條

○判決確定後再犯者タルコトヲ發見シ其加重スヘキ刑ヲ定ムル裁判アリタルトキハ刑法施行法第五十三條第二項ノ規定ニ依リ被告ハ勿論檢事ヨリ抗告ヲ以テ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘク而シテ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ刑事訴訟法第二百九十四條第二項ニ依リ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモ該規定ハ其ノ相手方ヨリ更ニ抗告スルコトヲ得ヘキモノトス (大正六、六、二五)

第六十一條

○贓物犯人ノ手ニ在リ其被害者アルコト明ナル以上ハ刑法施行法第六十一條ニ則リ處分スヘキモノニシテ其被害者ノ何人ナリヤハ判文上具體的ニ之ヲ明ニセサルモ違法ニアラス (大正六、七、九)

○刑法第十九條第二項ニ「沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限

| | | |
|----|----|-----|
| 六 | 六 | 八 |
| 四 | 四 | 六 |
| 三五 | 三五 | 一八九 |

| | | |
|----|----|----|
| 一三 | 一三 | 四 |
| 二 | 二 | 三 |
| 四三 | 四三 | 七五 |

ルトアルハ沒收物ニ付犯人以外ノ者カ所有權其他ノ物權ヲ有スルト
キハ之カ沒收ヲ爲スヲ許ササル律意ニ出テタル規定ナリト解スヘキヲ
以テ窃盜行爲ニ因リ得タル贓物ノ如キ假令判決當時ニ在リテ其被害者
ノ氏名不詳ナルトキト雖犯人以外ノ者ニ於テ所有權其他ノ物權ヲ有ス
ルコト明ナル物ニ付テハ之カ沒收ヲ爲スヲ得スト解釋スルヲ立法ノ旨
趣ニ恰當スルモノトス從テ其贓物ニシテ犯人ノ手ニ在ルトキハ刑法施
行法第六十一條ニ則リ之ヲ被害者ニ還付スルノ言渡ヲ爲ササルヘカラ
ス (大正七、一、二六)

朝鮮總督府裁判所令

○明治四十三年八月二十九日帝國カ韓國ヲ併合シタル結果韓國ニ對シテ
從來保有シタル各國ノ領事裁判權ハ茲ニ撤廢ニ歸シタルモノトス
(明治四四、四、一七)

第一條

○日韓併合後ニ於テハ併合前ニ於テ犯サレタル清國人ノ犯罪ト雖モ帝國
法規ヲ適用シテ處罰スヘキモノトス (明治四四、四、一七)

○刑事ニ關スル帝國現時ノ法制上内地ニ於テ犯サレタル犯罪行爲ハ刑法

| | | |
|---|----|----|
| 七 | 四 | 四 |
| 五 | 一 | 一 |
| 八 | 九二 | 九二 |

ノ適用ヲ受クヘキモノニシテ内地裁判所ニ於テ之ヲ處罰スヘク朝鮮ニ
於テ犯サレタル犯罪行爲ハ朝鮮刑事令ニ依ル刑法ノ適用ヲ受クヘキモ
ノニシテ朝鮮總督府裁判所ニ於テ之ヲ處罰スヘク各地域ニ依リテ刑事
裁判權ノ行ハルル範圍ヲ限定シタルモノナルヲ以テ内地ニ於ケル犯罪
行爲ニ對シテハ朝鮮總督府裁判所ハ裁判權ヲ有セサルモノトス (大正
四、五、一七)

○朝鮮總督府裁判所令第一條ニ朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ云
々ト規定セルハ裁判所構成法第三百五條ニ司法行政監督權ノ施行ニ
關シ司法大臣ハ各裁判所ヲ監督スト規定シアルニ對應スルモノニシテ
其ノ旨意ハ朝鮮總督府裁判所ハ司法行政ノ監督上朝鮮總督ニ直屬スト
ノ義ニ外ナラス司法權ノ行使ニ關シテハ朝鮮總督府裁判所亦憲法ニ謂
フ所ノ裁判所ニシテ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ司法權ヲ行フモノトス
(昭和二、九、七)

警察犯處罰規則

第一條

○警察犯處罰規則第一條第十一號ノ規定ハ他ノ罪名ニ觸レサル程度ニ於

| | | |
|----|-----|-----|
| 四 | 二 | 二 |
| 三 | 二四 | 二四 |
| 二六 | 三〇七 | 三〇七 |

ケル其所爲ヲ處罰スル趣旨ニ外ナラサルカ故ニ刑法第二百四十六條詐欺罪ニ該當スルカ如キ所爲ニ對シ之ヲ適用スヘキモノニアラス (大正六、一、二二)

○警察犯處罰規則第一條第十一號ノ規定ハ競争入札ヲ爲スモノノ如ク裝

ヒ其實談合入札ヲ爲シ當該官吏ヲシテ正當ニ爲シタル入札ナリト誤信

セシメ因テ以テ請負契約ヲ締結セシメ財産上不法ノ利益ヲ取得シ詐欺

罪ヲ構成スル場合ニ適用スヘキモノニ非ス (大正六、五、一〇)

○人ノ指稱ニ用キル刑事ナル語ヲ普通ニ對話者間ニ於テハ刑事事務ヲ取

扱フ巡查ノ略稱トシテ使用セラルルモノトス (大正五、九、一八)

○巡查ハ朝鮮總督府官制第十六條ニ依リ設置セラレタル一ノ官職ナルヲ

以テ巡查ナリト詐稱シタルトキハ警察犯處罰規則第一條第二十七號ノ

官公職ヲ詐リタル罪ヲ構成スルモノトス (大正五、九、一八)

○政治ニ關シ若クハ政治變革ノ目的ヲ以テ明治四十五年總督府令第四十

號警察犯處罰規則第一條第二十號所定ノ行爲ヲ爲シ之ニ依リ治安ヲ妨

害シ又ハ治安ヲ妨害セントシタル事實アルニ於テハ其行爲ハ保安法若

クハ大正八年制令第七號違反ノ行爲中ニ包含セラレ同法違反トシテ處

罰セラルヘキモノニシテ更ニ警察犯處罰規則ニ依リ之ヲ處罰スヘキニ

アラス (大正八、六、二一)

○明治四十五年三月朝鮮總督府令第四十號警察犯處罰規則第一條第二十

八號ニ所謂不實ノ申述ハ其事項カ當該官署ノ管掌事務ニ關スルヲ要ス

ルモノトス (大正八、一、二〇)

○犯罪ノ成立ニ故意ヲ必要トスル原則ハ諸般ノ特別刑罰法規ニ適用セラ

ルヘキヲ以テ特別刑罰法規ニ依リ處罰スル犯罪ノ成立ニハ故意ヲ要セ

サル旨ノ一般的明文存スルカ若ハ各犯罪ニ對スル規定上其成立ニ故意

ヲ要セサル趣旨ヲ認メ得ヘキ場合ニ非サレハ故意ナキ行爲ヲ處罰セサ

ルモノトス (大正八、三、三一)

○朝鮮總督府令第四十號警察犯處罰規則第一條ノ犯罪成立ニハ故意ヲ要

セサル旨ノ一般的明文存在セス同條第六十號ハ其規定上犯罪ノ成立ニ

故意ヲ要セサルモノト認メ難キヲ以テ同號規定ノ犯罪成立ニハ一般ノ

原則ニ從ヒ故意ヲ必要トシ過失ノ場合ニハ犯罪成立セサルモノトス

(大正八、三、三一)

○當事者間ニ於テ當事者ノ一方カ配付スル推薦狀若クハ揭示等ニ記載ス

ル候補者氏名中ニハ或者ノ氏名ヲ列記セストノ契約ハ有效ナルモ當事

者ノ一方ハ該契約ニ違反シ候補者氏名ノ揭示中ニ或ル者ノ氏名ヲ列記

| | | | |
|-----|-----|----|-----|
| 八 | 八 | 八 | 八 |
| 六 | 六 | 六 | 六 |
| 一〇六 | 一〇六 | 二四 | 一七四 |

| | | | |
|-----|-----|-----|---|
| 五 | 五 | 六 | 六 |
| 三 | 三 | 四 | 四 |
| 四六六 | 四六六 | 一〇四 | 三 |

シタル場合ニ當事者ノ他ノ一方ニ於テ直チニ右揭示ヲ塗抹シ得ル權利ヲ生スルモノニ非ス故ニ右ノ場合ニ之ヲ塗抹シタルトキハ警察犯處罰規則第一條第六十七號ニ該當スル犯罪ヲ構成スルモノトス (大正五、一、二、六)

犯罪即決例

第三條

○即決言渡ニ對シテ正式裁判ノ申立アリタル事件ニ在リテハ公訴提起ノ書面ナキヲ以テ即決言渡書ニ摘記セル犯罪事實ニ基キ公訴ノ範圍ヲ確定スヘキモノトス (大正六、九、二〇)

○犯罪即決例ニ依ル即決言渡ニ對シ正式裁判ノ請求アリタル事件ハ公訴ノ提起ナキニ拘ラス正式裁判ノ請求ナル訴訟行為ニ依リ當然公訴事件トシテ管轄地方法院ニ繫屬スルモノニシテ此場合ニ即決言渡ヲ爲シタル官署カ土地ノ管轄權ヲ有セサルモ正式裁判ノ請求ヲ受ケタル地方法院ニシテ土地ノ管轄權ヲ有スルニ於テハ其請求ヲ受理シテ審判スルヲ得ヘシ (大正七、五、六)

第五條

○刑事訴訟法第十五條ニハ期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セスト規定シアリテ此原則ハ諸般ノ刑事訴訟手續ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサル限りハ之ニ準據スルヲ相當トス而シテ犯罪即決例ニ基ク警察官署ノ即決言渡手續ハ固ヨリ刑事訴訟ニ非スト雖其言渡ニ對スル正式裁判ノ申立ハ管轄地方法院ニ對シ公判手續ノ開始ヲ促カス行為ナルヲ以テ該申立ハ此意味ニ於テ刑事訴訟ニ屬スル一行爲タルヲ失ハス然ラハ該申立ノ期間計算ニ關スル規定ヲ缺如セル犯罪即決例第五條ニ定メタル期間ニ付テモ亦右同一ノ計算法ニ從ハシムル法意ナリト解スヘキモノトス (大正一〇、三、三)

共通法

第一條

○領事裁判權ヲ行フ區域ハ共通法ノ適用上内地ト同視スヘキモノナリ從テ領事裁判權ニ基キタル前科ハ同一被告人ヲ朝鮮ニ於テ處罰スルニ當リ累犯加重ノ原因トナルモノトス (大正七、六、二九)

○領事裁判權ヲ行フ區域ハ共通法ノ適用上内地ト同視スヘキモノニシテ日本帝國ハ支那ニ於テ領事裁判權ヲ有スルヲ以テ共通法第一條ニ於テ

大
七
五
三
六

大
一〇
八
五

大
七
五
三
九

大
六
四
四
三

大
五
三
六
〇

内地朝鮮等ト同等ノ一地域ト認メラレタル關東州ハ姑ク之ヲ措キ其他支那ノ地域ハ總テ共通法ノ適用上之ヲ内地ト同視スヘキモノトス
(大正九、八、二六)

第十四條

○共通法第十四條ノ規定ハ判文上之ヲ適用セル趣旨明ナル以上之ヲ判文ニ明記スルノ要ナク而シテ朝鮮總督府裁判所ニ於テ内地ノ犯罪ニ對シ内地法ヲ適用處斷セルトキハ共通法第十四條ヲ適用セル趣旨ナルコト明ナリトス (大正一二、一一、一一)

大正八年制令第七號

(政治ニ關スル犯罪處罰ノ件)

第一條

○朝鮮ノ獨立ヲ目的トスルハ即チ朝鮮ニ對スル日本帝國ノ政治ヲ排斥セシムルコトヲ目的トスルモノニシテ大正八年制令第七號政治ニ關スル犯罪處罰ノ件第一條ノ所謂政治ノ變革ヲ目的トスルニ該當ス(大正八、六、五)
○朝鮮獨立ノ希望ヲ達スル目的ヲ以テ多數共同シテ朝鮮ノ獨立萬歲ヲ高唱シ示威運動ヲ爲シ治安ヲ妨害シタルトキハ大正八年四月制令第七號

| | | |
|---|---|-----|
| 九 | 七 | 二九 |
| 八 | 六 | 一三三 |
| 三 | 二 | 一〇 |
| 二 | 一 | 二五 |

政治ニ關スル犯罪處罰ノ件第一條第一項ニ所謂政治ノ變革ヲ目的トシテ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害シタルモノニ該當スルト同時ニ其所爲ハ政治ニ關シ不穩ノ言論動作ヲ爲シ因テ治安ヲ妨害シタルモノニシテ保安法第七條ニモ該當スルモノトス (大正八、六、一一)

○政治ニ關シ若ハ政治變革ノ目的ヲ以テ明治四十五年總督府令第四十號警察犯處罰規則第一條第二十號所定ノ行爲ヲ爲シ之ニ依リ治安ヲ妨害シ又ハ治安ヲ妨害セントシタル事實アルニ於テハ其行爲ハ保安法若ハ大正八年制令第七號違反ノ行爲中ニ包含セラレ同法違反トシテ處罰セラルヘキモノニシテ更ニ警察犯處罰規則ニ依リ之ヲ處罰スヘキニ非ス
(大正八、六、一一)

○他人ニ對シ朝鮮獨立運動ノ方法トシテ相共ニ獨立萬歲ヲ唱和スヘキ旨ヲ勸誘シ其贊同ヲ得タリトノ説示ハ勸誘ノ方法ニ依リ他人ニ對シ政治ノ變革ヲ目的トシ不穩ノ言論動作ヲ爲シ治安ヲ妨害センコトヲ教唆シ其決意ヲ爲サシメタル趣旨ナリトス (大正八、六、一一)

○保安法第七條並大正八年制令第七號第一條ニ政治トアルハ獨リ帝國主權ノ作用タル權力行使ノ方法若ハ權限分配ノ組織ニ關スル事項ノミヲ指稱スルニ非スシテ帝國主權ノ存立ニ關スル事項ヲモ併稱スル法意ナ

| | | |
|---|---|-----|
| 八 | 六 | 一五七 |
| 八 | 六 | 一七四 |
| 八 | 六 | 一七四 |

リ從テ帝國ノ領土ノ一部ヲ帝國主權ノ統治ヨリ離脱セントスルコトヲ
目的トスル行爲ハ保安法第七條ニ所謂政治ニ關シタル行爲ニ該當シ
又大正八年制令第七號第一條ニ所謂政治ノ變革ヲ目的トシタル行爲
ニ該當ス (大正八、七、三一)

○大正八年制令第七號第一條第二項ハ同一罪質ニシテ其刑モ亦同
一ナルニ依リ單一意思ノ發動ニ出テタル行爲ニシテ同條第一項第二項
ニ規定セル事項ニ該當スルモノアルトキハ之ヲ包括的ニ觀察シ一罪ト
シテ處斷スヘキモノトス從テ之カ擬律ヲ爲スニ當リ單一同第一條ヲ適
用シ其第一項ナルト第二項ナルトヲ明示セサルモ違法ト爲スヘキニ非
ス (大正八、八、七)

○大正八年制令第七號第一條ニ所謂多數共同トハ二人以上ノ共同ヲ指稱
ス (大正八、一、二四)

○保安法第七條ノ犯罪ト大正八年制令第七號第一條ノ犯罪トハ其内容態
樣全然同一ナラサルモ兩者共通ノ構成要件ヲ具備スルカ故ニ今同時ニ
兩者ノ構成要件ヲ具備スル同一ノ行爲カ制令實施以前ニ行ハレ實施後
ニ處斷セラルル場合ハ即刑法第六條ニ所謂犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變
更アリタル場合ニ該當ス (大正九、四、八)

| | | | |
|-----|-----|-----|---|
| 八 | 六 | 八 | 八 |
| 二四六 | 六 | 六 | 六 |
| | 三七〇 | 二六六 | |
| | | | 九 |
| | | | 七 |
| | | | 六 |

○一個ノ連續犯ヲ構成スル數行爲ノ一部カ大正八年制令第七號施行後ニ
行ハレタル以上ハ其他ノ行爲カ同制令施行前ニ行ハレタルト否トヲ問
ハス其全部ノ行爲ヲ包括シ一罪トシテ單一同制令ノミヲ適用スヘク新
舊法ノ比照ヲ爲スヘキモノニ非ス (大正一〇、五、七)

○大正八年制令第七號第一條第一項ニ所謂多數共同トハ二人以上ノ共同
ヲ指稱スルモノトス (大正一〇、五、七)

○大正八年制令第七號第一條第一項後段ニ所謂「妨害セムトシタル者」ト
ハ當ニ其前段ニ所謂「妨害シタル者」ノ未遂犯ノミナラス其豫備又ハ陰
謀ヲ爲シタル者ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス (大正一〇、五、七)
○他人カ政治ノ變革ヲ目的トシ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害セントシタル
行爲ヲ幫助シテ小銃及彈丸購入ノ仲介ヲ爲シタルトキハ大正八年制令
第七號第一條第一項ニ該當スル罪ノ從犯ヲ以テ問擬スヘキモノトス
(大正一〇、六、一八)

○保安法ノ規定中大正八年制令第七號ノ規定ニ牴觸シ若クハ重複スル部
分ノ如キハ同制令ノ施行ニ因リ自ラ廢止セラレタルモノナレトモ然ラ
サル部分ハ依然其效力ヲ有スルモノニシテ保安法第七條ノ規定ハ同制
令第一條ニ所謂多數共同スルニ非スシテ行ハレタル場合ニ適用スヘキ

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 八 | 八 | 八 | 八 |
| 二八九 | 二五七 | 二五七 | 二五七 |

モノトス (大正一〇、一一、一九)

保安法

第一條

○政治ニ關シ若クハ政治變革ノ目的ヲ以テ明治四十五年總督府令第四十號警察犯處罰規則第一條第二十號所定ノ所爲ヲ爲シ之ニ依リ治安ヲ妨害シ又ハ治安ヲ妨害セントシタル事實アルニ於テハ其行爲ハ保安法若クハ大正八年制令第七號違反ノ行爲中ニ包含セラレ同法違反トシテ處罰セラレヘキモノニシテ更ニ警察犯處罰規則ニ依リ之ヲ處罰スヘキニ非ス (大正八、六、二一)

○保安法ハ舊韓國公布ノ法律ナレハ日韓併合前ニ在リテハ外國タル帝國ノ政治上ノ治安ヲ保障スルモノニ非サルヤ言フ俟タスト雖明治四十三年制令第一號ニ依リ帝國ノ法令トシテ效力ヲ有スルニ至リタルモノナレハ日韓併合以後ニ於テハ同法ハ朝鮮ニ於ケル帝國ノ政治上ノ治安ニ對スル保障規定タルニ至リタルモノト解スヘキモノトス (大正八、七、二一)

○保安法第七條ノ犯罪ト大正八年制令第七號第一條ノ犯罪トハ其内容及

二〇 八二六

八 六一七

八 六二五

態様ニ於テ全然同一ナリト爲スヲ得サルモ兩者共通ノ構成要件ヲ具有スルコト法文上明白ナレハ今同時ニ兩者ノ構成要件ヲ具備スル同一ノ行爲カ前記制令實施以前ニ行ハレ其實施後ニ於テ處斷セララルル場合ハ則チ刑法第六條ニ所謂犯罪後ノ法律ニ依リ刑ノ變更アリタル場合ニ該當スルモノトス (大正八、七、二一)

○保安法ハ明治四十四年三月法律第三十號朝鮮ニ施行スヘキ法令ニ關スル件施行ト同時ニ其效力ヲ喪失シタルモノニ非ス (大正八、七、三一)

第七條

○保安法第七條ノ罪ヲ構成スルニハ其言論動作カ政治ニ關スル不穩ノ事項タルコトヲ認識シ其言論動作ニ因リ治安ヲ妨害スルヲ以テ足り之ニ依リテ政治ヲ非議シ又ハ政治上ノ目的ヲ達セントスルノ意思アルコトヲ要セス (大正五、一〇、二)

○犯人カ政治ニ關スル不穩ノ事項ヲ他人ニ告知スルコトヲ以テ詐欺ノ手段ト爲シ之ヲ實行シタルトキハ保安法第七條ノ罪ヲ構成スルモ詐欺罪ノ共犯者間ニ於テ是カ協定ヲ爲シタルニ止マリ詐欺ノ實行ナキトキハ同條ノ罪ヲ構成セス (大正五、一〇、二)

○詐欺罪ノ共犯者カ詐欺ノ手段トシテ前示ノ協定ヲ爲シ其一人ニ於テ之

八 六二五

八 六二六

五 三 四八九

五 三 四八九

○ヲ實行セントスル場合ニ其一人カ詐欺ノ實行ヲ爲サス更ニ他ノ者ト共謀シ前示手段ヲ以テ恐喝ノ手段ニ供シ之ヲ實行シタルトキハ保安法違反罪ト恐喝罪トハ一所爲ヲ成シ別個ノ犯罪成立スルヲ以テ詐欺ノ手段トシテ前示ノ協定ヲ爲シタルニ止マル者ハ保安法違反ノ罪責ヲ負フヘキモノニ非ス (大正五、一〇、二)

○保安法第七條ニ規定スル治安妨害ノ罪アリトスルニハ政治ニ關シテ不穩ノ言論動作ヲ爲シタルカ又ハ他人ヲシテ不穩ノ言論動作ヲ爲スヘキコトヲ煽動教唆シタルカ又ハ不穩ノ言論動作ヲ爲ス爲メ他人ヲ使用シタルカ又他人ノ行爲ニ關涉シタル行爲アルコトヲ要スルハ勿論此等ノ行爲カ一地方ノ靜謐ヲ害スヘキ程度ニ達シタルコトヲ要ス故ニ假令多衆ト共ニ此等ノ行爲ヲ爲サンコトヲ企圖シテ同志ヲ糾合シ又ハ準備的行爲ヲ爲シ其事不穩ノ言論動作其他ニ該當スル場合ト雖其行爲ニシテ秘密裡ニ行ハレ一地方ノ靜謐ヲ害スヘキ程度ニ達シタルニ非サルトキハ同條ニ問擬シテ處罰スルコトヲ得サルモノトス (大正八、六、九)

○保安法第七條ニ所謂煽動又ハ教唆アリト爲シテ罪責ヲ負ハシムルニハ被煽動者又ハ被教唆者ニ於テ煽動若ハ教唆ニ應シ其目的タル犯罪行爲ヲ行フコトハ必スシモ之ヲ要セサルモ煽動者又ハ教唆者カ被煽動者又

大 五 三四八九

大 八 一四二

ハ被教唆者ヲシテ煽動若ハ教唆ノ目的タル犯罪行爲ヲ行フコトヲ挑發シ又ハ決意セシメントシタル行爲アルコトヲ要スルモノトス (大正八、六、九)

○朝鮮獨立ノ希望ヲ達スル目的ヲ以テ多數共同シテ朝鮮ノ獨立萬歲ヲ高唱シ示威運動ヲ爲シ治安ヲ妨害シタルトキハ大正八年四月制令第七號政治ニ關スル犯罪處罰ノ件第一條第一項ニ所謂政治ノ變革ヲ目的トシテ多數共同シ安寧秩序ヲ妨害シタルモノニ該當スルト同時ニ其所爲ハ政治ニ關シ不穩ノ言論動作ヲ爲シ因テ治安ヲ妨害シタルモノニシテ保安法第七條ニモ該當スルモノトス (大正八、六、一二)

○保安法第七條ニハ政治ニ關シ不穩ノ言論動作ヲ爲シ云々因テ治安ヲ妨害シタル者ハ云々ト規定シ其如何ナル言論動作ニ依リ治安ヲ妨害スヘキヤハ法律ノ制限セサル所ナルヲ以テ苟モ各行爲當時ノ一般觀念ニ依リ不穩ナリト認メラルル言論動作ヲ爲シ治安ヲ妨害シタル以上ハ同法ノ罪ヲ構成スルモノニシテ今日朝鮮獨立ノ希望ヲ達セントスル目的ヲ以テ朝鮮ノ獨立萬歲ヲ高唱シ示威運動ヲ爲シタルトキハ保安法第七條ニ所謂政治ニ關スル不穩ノ言論動作ヲ爲シタルモノニ該當ス (大正八、六、一二)

大 八 六 一四二

大 八 六一五七

大 八 六一五七

○政事ニ關シ爲シタル不穩ノ言論動作カ保安法第七條ニ規定セル治安妨害トナルニハ一地方ノ靜謐ヲ害スヘキ程度ニ達シタルコトヲ要シ右不穩ノ言論動作カ一地方ノ靜謐ヲ害スヘキ程度ニ達シタリトスルニハ該言動カ公衆ノ視聽ニ觸ルルカ又ハ公衆ノ視聽ニ觸レ得ヘキ場所ニ於テ行ハルルコトヲ要ス (大正八、七、二)

○保安法第七條並大正八年制令第七號第一條ニ政治トアルハ獨リ帝國主權ノ作用タル權力行使ノ方法若ハ權限分配ノ組織ニ關スル事項ノミヲ指稱スルニ非スシテ帝國主權ノ存立ニ關スル事項ヲモ併稱スル法意ナリ從テ帝國ノ領土ノ一部ヲ帝國主權ノ統治ヨリ離脱セントスルコトヲ目的トスル行爲ハ保安法第七條ニ所謂政治ニ關シトアル行爲ニ該當シ又大正八年制令第七號第一條ニ所謂政治ノ變革ヲ目的トシトアル行爲ニ該當ス (大正八、七、三)

○被告カ一個人タル何某方ニ於テ他人ニ對シ政治ニ關スル不穩ノ言動ヲ爲スヘキコトヲ煽動シタルコトヲ判示スルニ止マリ同所カ不定多數人ノ視聽ニ觸レ若ハ觸レ得ヘキ場所ナルコトヲ明カニセサル判決ハ保安法第七條ノ罪ヲ構成スヘキ具體的事實ノ敘說トシテ理由不備ノ不法アルヲ免レス (大正八、九、一五)

| | | |
|---|---|---|
| 八 | 八 | 八 |
| 六 | 六 | 六 |
| 二 | 二 | 二 |
| 七 | 七 | 七 |

○政治ニ關シ爲シタル不穩ノ言論動作カ保安法第七條ニ所謂治安妨害ノ結果ヲ生シタリト爲スニハ如上言動カ不定多數人ノ視聽ニ觸ルルカ若ハ其視聽ニ觸レ得ヘキ状態ニ於テ敢行セララルコトヲ要スルモノニシテ苟モ不定多數人ノ視聽ニ觸レシメタル以上ハ各人ニ事ノ秘密ヲ守ルヘキコトヲ要求シタルト否トヲ問フノ要ナシ (大正九、三、一)

○政治ニ關シ爲シタル不穩ノ言論動作カ保安法第七條ニ所謂治安妨害ノ結果ヲ生シタリト爲スニハ其言論動作カ一地方ノ靜謐ヲ害スヘキ程度ニ達シタルコトヲ要シ其程度ニ達シタリト爲スニハ其言論動作カ不定多數人ノ視聽ニ觸ルルカ若クハ其視聽ニ觸レ得ヘキ場所ニ於テ敢行セララルコトヲ要ス (大正一〇、二、九)

○保安法第七條ハ「政治ニ關シ不穩ノ言論動作又ハ他人ヲ煽動教唆或ハ使用又ハ他人ノ行爲ニ關涉シ因テ治安ヲ妨害スル者ハ云々」トアルモノナレハ同條ニ所謂因テ治安ヲ妨害スルトハ同條列記ノ各行爲ニ付故意アル以上ハ其結果トシテ生シタル治安妨害ノ點ニ付テハ必スシモ故意アルコトヲ要セサル趣旨ノ規定ト解スルヲ相當トス (大正一〇、二、一、九)

○保安法ノ規定中大正八年制令第七號ノ規定ニ牴觸シ若クハ重複スル部

| | | |
|---|----|----|
| 九 | 一〇 | 一〇 |
| 七 | 八 | 八 |
| 二 | 二 | 二 |
| 七 | 六 | 六 |

分ノ如キハ同制令ノ施行ニ因リ自ラ廢止セラレタルモノナレトモ然ラサル部分ハ依然其效力ヲ有スルモノニシテ保安法第七條ノ規定ハ同制令第一條ニ所謂多數共同スルニ非スシテ行ハレタル場合ニ適用スヘキモノトス (大正一〇、一一、一九)

第八條

○保安法第八條ノ規定ハ民刑訴訟規則第四百十八條ノ規定ト牴觸シ同規則第七十六條ニ依リ廢止セラレ同法違反ノ罪ノ公訴時効ニ付テハ民刑訴訟規則第四百十八條ノ規定ヲ適用スヘキモノナリシモ同規則廢止後ハ刑事訴訟法第八條ノ規定ヲ適用スヘキモノナリ (大正六、五、三一)

保安規則

第一條

○明治三十九年統監府令第十號保安規則ハ同四十一年勅令第二百十七號ノ刑法施行前ニ公布シタル命令ニ該當シ明治四十三年制令第一號同第八號ニ依リ朝鮮總督府令トシテ其效力ヲ存續スルモノトス (大正三、一、一五)

○刑法ノ總則ハ保安規則ニ付テモ適用セラルルモノトス (大正三、一一、一五)

○保安規則ハ朝鮮刑事令第一條ニ其他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クトアル其他ノ法令ニ該當スルモノトス (大正三、一一、一五)

○保安規則ハ統監府令トシテ舊韓國居留ノ日本人ニ對シ適用スル目的ヲ以テ制定セラレタルモノニシテ右規則カ朝鮮總督府令トシテ存續スル今日ニ於テモ當時ノ法意ニ變更ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ右規則ハ朝鮮居留ノ内地人ニ對シテノミ適用セラルヘキモノニシテ朝鮮人ニ對シテハ其適用ナキモノトス (大正六、四、七)

外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券
證券偽造變造及模造ニ關スル件

第一條

○十吊官帖ハ支那吉林省永衡官帖局ノ發行ニ係リ吉林省內ニ於テ強制通用力ヲ有スルモノナレハ明治三十八年法律第六十六號ニ規定セル外國ニ於テノミ流通スル紙幣ニ該當スルモノトス (大正二、一二、八)

○十吊官帖カ限地通貨ナルコト價格不定ナルコト及支那中央政府ノ發行ニ係ラサルコトハ前項法律ニ規定スルトコロノ紙幣タルコトヲ阻却スルモノニ非ス (大正二、一二、八)

外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造及模造ニ關スル件

| | | | |
|-----|-----|-----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 三 | 二 | 六 | 三 |
| 二 | 二 | 五 | 二 |
| 一五〇 | 一五〇 | 三四七 | 三四 |

| | | | |
|----|----|----|-----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 三 | 三 | 六 | 一〇 |
| 二 | 二 | 四 | 八 |
| 三四 | 三四 | 三〇 | 二八六 |

○明治三十八年法律第六十六號第一條ニ規定スル外國ニ於テノミ流通スル金銀貨其他ノ中ニハ外國通用ノ貨幣其他ハ勿論總テ事實上使用セラ

ルル貨幣其他ヲ包含スル法意ナリトス (大正四、一二、一六)
○前示法律第一條ニ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨云々トアル規定ハ帝國內ニ於テハ流通セスシテ單ニ外國ニ於テノミ流通スル貨幣其他ノ偽造ニ關スルモノナリトス (大正四、一二、一六)

○他人ヲシテ行使セシムル目的ヲ以テ偽造貨幣ヲ交付シタル行爲ハ獨立罪ヲ構成スルモノニシテ其他カカ犯シタル偽造貨幣輸入罪ノ從犯タルヘキモノニ非ス (大正四、一二、一六)

○貨幣偽造ノ犯罪事實ノ摘示トシテハ偽造セラレタルモノカ如何ナル種類ノ真貨ニ模擬セラレタルモノナルコト模擬ノ程度カ偽造ト認ムヘキモノナルコトヲ知り得ルヲ以テ足り模擬ノ程度若クハ真貨ノ如何ナル部分ニ如何ナル程度ヲ以テ類似セルヤヲ逐一説明スルヲ要セス (大正四、一二、一六)

○明治三十八年法律第六十六號第一條ニ所謂外國ニ於テノミ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券ハ帝國發行ノモノタルト外國發行ノモノタルトニ區別ナク共ニ之ヲ包含スト解釋スヘキモノトス (大正六、二、二二)

| | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 六 | 四 | 四 | 四 | 四 |
| 四 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 一九 | 二二七 | 二二七 | 二二六 | 二二六 |

第四條

○偽造ノ目的物タル紙幣及銀行券ハ支那全國ニ流通スルモノナルコトヲ必要トセス其一地方ニノミ限定シテ流通スルモノタルヲ妨ケサルハ勿論何種ノ紙幣及銀行券ナルコトヲ豫メ特定セサルモ製造ニ容易ナルモノヲ選ンテ偽造スル目的ヲ以テ其偽造用ノ器械原料ヲ準備シタルトキハ明治三十八年法律第六十六號第四條ノ器械原料準備罪ヲ構成ス (大正六、二、二二)

新聞紙法

(明治四十二年法律第四十一號)

○朝鮮ヲ獨立セシメントスルハ帝國領土ノ一部ニ對スル帝國主權ノ實力ヲ排除セントスルモノナルヲ以テ其行爲ノ朝憲ヲ紊亂スルモノナルヤ言フ俟タス從テ朝鮮民衆ヲシテ朝鮮ノ獨立ヲ企圖セシメントスルカ如キ記事ヲ新聞紙上ニ掲載シタルトキハ其記事ハ朝憲ヲ紊亂セントスルノ事項ヲ掲載シタルモノト謂フヘシ (大正九、一二、一六)

○光武十一年法律第一號新聞紙法第二十五條後段ノ法意ハ同法第十一條違反ノ犯罪ニ供用シタル器械ハ其ノ何人ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收スルコトヲ要スル趣旨ナリトス (大正一五、七、二六)

| | | |
|----|-----|----|
| 六 | 九 | 一五 |
| 四 | 七 | 一三 |
| 一九 | 一九九 | 五四 |

新聞紙規則

○新聞紙規則上ノ責任ハ刑法ノ一般理論ニ依ラス純然タル客觀的標準ニ依リテ其ノ編成發行セラレタル新聞紙面ノ記事自體カ同則所定ノ事犯ニ該當スルヤ否ヤニ依リ決スヘキモノトス (昭和二、八、八)

第一條

○明治四十二年統監府令第二十二號ヲ以テ一部改正セラレタル同四十一年統監府令第十二號新聞紙規則第一條ニ違背スルモノトシテ同第十九條ニ依リ處罰スルニ該リ只タ届出ヲ爲ササリシ事實ノミヲ認定シ理事官ノ認可ヲ受ケサリシコトニ付何等ノ認定ヲモ爲ササル判決ハ理由不備ノ違法アルモノトス (明治四四、二、一)

第十條

○新聞紙規則第十條第五號ニ所謂救護中ニハ嘆願タルト將タ事實上又ハ法律上ノ意見タルトヲ問ハス刑事被告人又ハ犯罪人ヲ庇護スル行爲ヲ包含スルモノトス (大正三、一、二)

○賭博罪被告人ニ付之ヲ常習犯ナリトスルハ當ヲ失スルカ如ク能フヘクシハ執行猶豫ノ恩典ヲ與ヘラレンコトヲ要求スル旨ノ記事ハ刑事被告

| | | |
|---|----|-----|
| 二 | 二四 | 二七 |
| 四 | 一 | 四 |
| 三 | 二 | 一六九 |

人ヲ救護スル記事ナリトス (大正三、一、二)

○一人ニテ新聞紙ノ發行人ト編輯人トヲ兼ヌル者カ新聞紙規則第十條第五號ニ違反シタルトキハ一面發行人トシテ他ノ一面編輯人トシテ罪責ヲ負ハサルヘカラサルモノトス (大正三、一、二)

第十三條

○新聞紙規則第十三條ノ規定ハ外國又ハ同規則ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ一旦最初ニ發賣又ハ頒布即チ發行シタル新聞紙ハ特ニ認可ヲ要セスシテ朝鮮ニ輸入又ハ移入スルコトヲ得ルモ其ノ輸入又ハ移入シタル新聞紙ニ付所定ノ事實アリタルトキハ其ノ發行後ノ朝鮮ニ於ケル發賣又ハ頒布ヲ禁止セララルヘキ趣旨ヲ包含スルモノト解スヘキヲ以テ假令當該新聞紙ニ付外國又ハ同規則ヲ施行セサル帝國領土ニ於テ印刷行爲行ハレタリトスルモ苟モ同地ニ於テ最初ニ其ノ發賣又ハ頒布スル行爲ノ行ハレサル限リハ同條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス (大正一五、五、三)

第十五條

○舊韓國光武十一年七月法律第一號新聞紙法第十五條第三十三條ノ規定ハ明治四十五年四月一日ヨリ施行セラレタル朝鮮刑事令附則第四十一

| | | |
|----|----|-----|
| 三 | 三 | 二六九 |
| 三 | 二 | 二六九 |
| 一五 | 一三 | 二元 |

條ニ依リ刑法大全カ廢止セラレタル結果廢止ニ歸シタルモノトス
(大正一二、五、二八)

○明治四十五年四月以後前記新聞紙法ニ依リ發行スル新聞紙ニ人ヲ誹毀
スル事項ヲ記載シタルトキハ其ノ罪トナルヤ否ヤハ專ラ現行刑法ニ依
リ之ヲ決スヘキモノトス (大正一二、五、二八)

第十八條

○單ニ新聞紙ニ掲載セシムルノ目的ヲ以テ編輯人ニ材料ヲ供シタルニ非
スシテ發行所々在地以外ノ地ニ在リテ其地ニ於ケル出來事ニ付新聞記
事ノ一部分ノ編輯ヲ掌ル者ハ則チ新聞紙規則第十八條第一號ニ所謂編
輯人ニ非スシテ實際編輯ヲ擔當スル者ニ該當ス (大正三、一、二二)

○新聞紙ノ編輯兼發行人トハ新聞紙ノ記事掲載及發賣頒布ノ事務ヲ擔當
スル者ヲ指稱ス (大正六、三、五)

○他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ記事カ新聞紙ニ掲載セラレ及其新聞紙カ發賣
頒布セラレタル場合ニ於テ其記事掲載及發賣頒布ノ行爲ハ即チ其編輯
兼發行人ノ行爲ニ外ナラサルモノト推定スヘキモノナルヲ以テ其編輯
兼發行人タルコトヲ證據ニ依リ認メタル以上ハ其者カ其記事掲載及發
賣頒布ヲ爲シタルコトニ付テハ特ニ之ヲ認メタル證據理由ヲ明示セサ

ルモ違法ニ非ス (大正六、三、五)

○新聞紙ノ編輯人、發行人、印刷人及編輯擔當者記事署名者ノ責任ハ絶
對的ノモノニシテ記事ノ内容ニシテ同則所定ノ事犯ニ該當スルトキハ
敢テ犯意ノ存在ヲ必要トセサルモノトス (昭和二、八、八)

第十九條

○新聞紙規則ニ所謂新聞紙ノ發行トハ編輯印刷シタル新聞紙ヲ最初ニ發
賣又ハ頒布スル行爲ヲ謂ヒ新聞紙ノ編輯行爲及印刷行爲ハ之ヲ包含セ
ス又同一新聞紙ヲ第二次以後發賣又ハ頒布スル行爲ヲ指稱スルモノニ
非ス (大正一五、五、三一)

○新聞紙規則第一條ノ規定違反ノ場合ニ於ケル同規則第十九條ニ所謂發
行人トハ事實上前記發賣又ハ頒布ノ行爲ヲ擔當シタル者ヲ指稱ス
(大正一五、五、三一)

著作權法

第二十九條

○著作權法ニ依リテ保護セララルル著作權者ノ權利ハ著作物ノ複製ニ因リテ

| | | | |
|----|----|---|---|
| 大 | 六 | 昭 | 大 |
| 一五 | 二 | 二 | 六 |
| 一三 | 二四 | 二 | 四 |
| 三〇 | 二七 | 二 | 四 |
| | | 二 | 五 |

| | | | |
|----|----|----|----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 六 | 三 | 二 | 三 |
| 四 | 二 | 一〇 | 一〇 |
| 四五 | 一九 | 六 | 六 |

享受スル財産的利益並著作權者カ著作權者トシテ有スル人格的利益ニシテ
同法ニ所謂偽作ト稱スルハ斯ル著作權者ノ有スル權利ヲ侵害スル一切ノ
不正行爲ヲ汎稱スルモノトス (大正一五、七、一五)

出版法

第十一條

○舊韓國法タル出版法ハ保安法ト同様明治四十三年制令第一號ニ依リ帝
國ノ法令トシテ其效力ヲ有スルニ至リタルモノナレハ日韓併合以後ニ
在リテハ同法第十一條ニ所謂國交ヲ阻害シ政體ヲ變壞シ國憲ヲ紊亂ス
ル文書圖書ハ總テ帝國ノ國交政體國憲ニ關スル文書圖書ヲ指スモノト
解スヘキモノトス (大正八、七、二一)

○出版法第十一條ニ所謂發行者トハ文書圖書ヲ販賣スルヲ營業ト爲ス者
ナルト否トヲ區別スルコトナク汎ク其違反ニ係ル出版物ノ發賣又ハ頒
布ヲ擔當シタル者ヲ指稱ス (大正八、一一、二四)

○著作者カ隆熙三年法律第六號出版法第十一條第一項第一號ニ違反シ其
所爲カ同法ノ犯罪ヲ構成スルニハ著作者カ發賣又ハ頒布ノ目的ヲ以テ
同法第十一條第一項第一號舉示ノ文書圖書ヲ著作出版スルコト及同文

大 一五
一三
四九

大 八
六
二六

大 九
六
三七〇

書圖書ノ出版ニ付當該官廳ノ許可ヲ得サリシコトヲ要スルモノナレハ
被告人カ頒布ノ目的ヲ以テ國憲ヲ紊亂スヘキ文書圖書ヲ著作出版シタ
ル事實ノミヲ確定シ其出版ニ付當該官廳ノ許可ヲ得タリヤ否ヤヲ確定
セスシテ同法ヲ適用處斷スルハ理由不備ノ不法アルヲ免レス (大正一
〇、二、一三)

○甲乙共謀シ甲者ハ出版法第十一條第一項第一號ニ該當スル文書ノ著述
ヲ擔當シ乙者ハ其印刷ヲ擔當シタル場合ニ於テ印刷ニ因リ生シタル文
書ハ同法第十一條第二項ニ所謂印刷ヲ擔當シタル者ノ從犯行爲ニ因リ
テ生シタル物件タルト同時ニ同法第十一條第一項第一號ニ所謂著作
ノ犯罪行爲ニ因リテ生シタル物件ナレハ著作者ヲ處罰スルニ當リテモ
亦之ヲ沒收スヘキモノトス (大正一〇、六、二〇)

○出版法第十一條ノ著作者ノ罪ヲ構成スルニハ同條第一項各號ニ該當ス
ル文書ヲ著述シ又ハ翻譯編纂或ハ圖書ヲ作爲スルコト其文書圖書ハ發
賣又ハ頒布ヲ目的トスルコト其文書圖書ハ出版ニ付許可ナカリシコト
及其文書圖書ハ印刷セラレタルコトヲ要スルヲ以テ著作者ト印刷者ト
別人ナル場合ニ於テハ其印刷ハ著作者トノ共謀ニ出テ又ハ著作者ノ命
令若クハ少クトモ著作者ノ認識ニ基キ爲サレタルコトヲ要ス (大正

大 一〇
八
一六

大 一〇
八
一九七

一〇、六、二〇〇

實用新案法

第二十七條

○實用新案法第二十七條ハ他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似スルモノナルコトヲ認識シテ之ヲ業トシ製作使用其ノ他ノ行爲ヲ爲シタルコトヲ處罰スル法意ニシテ犯意ナキ行爲ヲモ處罰スルノ趣意ニ非ス (昭和二、一一、二二)

陸軍刑法

第六十四條

○兵卒ハ官吏公吏ニ非サルハ勿論法令ノ規定ニ依リテ公務ニ從事スル職員ニモ非サルニ依リ刑法上ノ公務員ニ該當セス從テ哨兵カ兵卒ナル場合ニ於テ之ニ對シ暴行ヲ加ヘタルトキハ陸軍刑法第六十四條ノ罪ヲ構成スルコトアルモ刑法第九十五條第一項ニ規定スル公務執行妨害罪ヲ構成セス (大正八、九、六)

第九十五條

○哨兵ノ制止ニ背キタル行爲アルトキハ陸軍刑法第九十五條第一項ノ罪ヲ構成ス (大正八、九、六)

軍機保護法

第一條

○軍港境域圖ヲ作製スルニ當リ境域内ノ郡界面界竝ニ面里洞ノ名稱ヲ記入スル爲メ海軍海圖及陸軍陸圖ニ依リ作製シタル原圖ヲ模寫シ之ニ實地調査上必要ノ記入ヲ爲シタル後原圖ニ轉寫シ模寫圖ノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ右模寫圖ハ軍事上ノ秘密地圖ニ屬スルモノトス (大正四、一一、二一)

郵便法

第五十二條

○郵便法第五十二條ニ規定セル處罰行爲ハ其ノ行爲カ通信ヲ阻害スル目的ニ出テタル場合ナルコトヲ要スル法意ナリトス (大正二、九、一〇)
○受取人ニ交付スル意思ヲ以テ郵便物ヲ第三者ニ交付シ第三者亦承諾シテ之ヲ受取りタルトキハ郵便法第五十二條ノ罪ヲ構成セサルモノトス

軍機保護法 郵便法

一條 五二條

二五七

| | | | | | |
|----|----|---|---|----|----|
| 大 | 二 | 大 | 四 | 大 | 八 |
| 二 | 二 | 三 | 三 | 六 | 六 |
| 二六 | 二六 | 三 | 三 | 二七 | 二七 |

| | | | | | |
|----|----|---|---|----|----|
| 大 | 八 | 昭 | 二 | 大 | 一〇 |
| 八 | 六 | 二 | 四 | 八 | 八 |
| 二七 | 二七 | 三 | 九 | 二九 | 二九 |

(大正二、九、一〇)

○郵便法第五十二條ニ規定セル處罰行爲ハ其ノ行爲カ通信ヲ阻害スル目的ニ出タル場合ナルコトヲ要ス從テ受取人ニ交付スル意思ヲ以テ之ヲ第三者ニ交付シ第三者モ亦承諾シテ受取リタル場合ノ如キハ通信阻害ノ目的ニ出サルニ依リ同條ノ罪ヲ構成セス (大正五、六、一七)

○郵便法第五十二條ニ規定セル處罰行爲ハ其ノ行爲カ通信阻害ノ目的ニ出テタル場合ナルコトヲ要ス故ニ受取人ニ交付スル意思ヲ以テ之ヲ第三者ニ交付シ第三者亦之ヲ承諾シテ該郵便物ヲ受取リタル場合ノ如キハ同條ノ犯罪ヲ構成セサルモノトス (昭和二、五、二六)

電信法

第三十三條

○電信法第三十三條第一項ハ發信人カ賴信紙ヲ偽造シ因テ虛偽ノ電報ヲ發シタル場合ナルト自己ノ氏名ヲ以テ賴信紙ヲ作成シ因テ虛偽ノ電報ヲ發シタル場合ナルト將又賴信紙ヲ使用セス電線託送ノ方法ニ依リ虛偽ノ電報ヲ發シタル場合ナルトヲ區別セス苟モ自己若ハ他人ニ利益ヲ與ヘ又ハ他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ虛偽ノ電報ヲ發シタル以上ハ

大 二 二六

大 五 三四二

大 二 二四 三五

之ヲ適用スヘキモノトス (大正七、六、一二)

電報規則

第二十八條

○電報規則第二十八條ニ依リ賴信紙中本文ノ末尾若ハ受信人名所ノ下欄ニ記載セララル發信人ノ氏名ハ受信人ニ電送セララルヘキ通信文ノ内容ヲ成スモノニシテ賴信紙ノ作成名義ニ之ヲ用ユルニ非サルノミナラス受信人ニ電送セララルヘキ通信文ハ電信官署ニ對シテ其電送ヲ依頼スル意思表示ノ内容ヲ成スモノトス故ニ獨リ其内容タル通信文ノミヲ抽出シ受信人ニ對スル關係ニ於テ更ニ又一箇ノ署名アル文書ヲ成スモノト見ルハ妥當ニ非ス (大正七、六、一二)

第二十九條

○電報規則第二十九條ニ依リ賴信紙ノ端末ニ記載セララル發信人ノ氏名ハ當ニ電信官署ニ於ケル事務取扱ノ用ニ供セララルニ止マラス賴信紙ノ上部欄外ニ印刷シアル電報賴信紙ノ五文字ト結合シ通信文ノ電送ヲ電信官署ニ對シテ依頼スル旨ノ意思表示ヲ作出スルモノナレハ賴信紙ハ電信官署ニ對スル關係ニ於テ文書タルコト明ナリ (大正七、六、一二)

大 七 一九三

大 七 一九二

大 七 一九二

出スルニ因テ成立スルモノナレハ其免許若ハ許可ヲ受ケサルコトニ犯罪性ヲ付スルコト兩者同一ナルノミナラス其輸出スルコトニ犯罪性ヲ付スルコトモ亦同一ニシテ其消極的行爲及積極的行爲ハ共ニ犯罪構成ノ要素ナリ (大正七、一、二二)

○税關ノ免許及朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ヲ輸出シタル行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス (大正七、一、二二)

醫師規則

第八條

○醫師規則第八條ノ醫師ハ自ラ診察セスシテ治療ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ規定ハ或患者ニ對スル治療投藥ノ行爲カ繼續シテ行ハルル場合ニモ投藥ノ都度必ス診察ヲ爲ササルヘカラサル法意ナリト解セサルヘカラサルモノニ非ス (大正六、七、一二)

第二十一條

○醫師規則ノ規定ニ依リ一定ノ地域ヲ限リ醫業ノ免許ヲ受ケタル者カ其地域外ニ於テ醫業ヲ爲シタルトキハ同規則第二十一條第一號ノ免許ヲ受ケス醫業ヲ爲シタル者トアル規定ニ該當スルヲ以テ同條ニ依リ之ヲ

| | | |
|---|-----|-----|
| 大 | 七 | 七 |
| 大 | 五 | 五 |
| 大 | 三〇九 | 三〇八 |
| 大 | 六 | 四 |
| 大 | 四 | 三六六 |

處罰スヘキモノトス (大正七、五、六)

○醫師規則第二十一條第一號ニ所謂免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者トアルハ免許ヲ受ケス反覆繼續ノ意思ヲ以テ醫療行爲ニ從事スル者ヲ指稱シ其手数料及藥代ヲ得ルト否トハ其意義ヲ定ムル標準トナルモノニ非ス (大正九、一二、二五)

醫生規則

○醫業トハ反覆繼續シテ不定多數人ノ疾病ヲ診斷治療スル意思ヲ以テ病者ヲ診察シタル上之ニ對シテ投藥其ノ他ノ治療行爲ヲ施用スルコトヲ謂ヒ必スシモ報酬ヲ得テ之ヲ生活ノ方便ト爲スコトヲ要スルモノニ非ス (昭和二、七、一四)

○單ニ病者ヲ實見シ又ハ病名若ハ容態ヲ聽クモ診察タルニ妨クル所ナキモノトス (昭和二、七、一四)

○一定ノ地域内ニ於テ免許ヲ受ケタル醫生カ限外地ニ於テ醫業ヲ爲シタルトキハ醫生規則第八條第一號ニ所謂免許ヲ受ケス醫業ヲ爲シタル者ニ該當スルモノトス (昭和四、四、一八)

朝鮮阿片取締令

醫生規則 朝鮮阿片取締令

| | | |
|---|-----|-----|
| 大 | 七 | 七 |
| 大 | 五 | 五 |
| 大 | 三〇九 | 三〇八 |
| 大 | 九 | 七 |
| 大 | 七 | 二二二 |
| 昭 | 二 | 二 |
| 昭 | 二四 | 二四 |
| 昭 | 二四 | 二四 |
| 昭 | 四 | 一六 |
| 昭 | 五 | |

第十八條

○朝鮮阿片取締令第十八條第一項第二號ノ規定スル犯罪トナルニハ其所持ノ阿片カ政府ノ賣下ケタルモノ又ハ交付シタルモノニ非ス且所持者ニ於テ政府ノ賣下又ハ交付シタルモノニ非サルコトヲ認識シタルコトヲ要スルモノニシテ右ノ事情ハ證據ニ依リ之ヲ確定スルコトヲ要ス (大正九、二、一九)

○朝鮮阿片取締令第五條第二項第十八條ヲ適用シテ處罰スル場合ニ在リテ賣買及授受ニ付數人共謀シテ或ハ賣却シ或ハ買取り或ハ交付シ或ハ受取りタル場合ニ於テハ其共犯者各人ニ對シテ沒收又ハ追徴ノ言渡ヲ爲スモ其中ノ或者ヨリ阿片ノ全部ヲ沒收シ又ハ其價格ニ相當スル金額ノ全部ヲ追徴シタルトキハ茲ニ其處分ハ完了シ他ノ共犯者ニ對シテ追徴處分ヲ遂行スヘキモノニ非スト雖右賣者ト買者トノ間又ハ授者ト受者トノ間ニハ共犯關係ヲ有スルコト之ナキヲ以テ買者若クハ受者ヨリ犯罪ニ係ル阿片ヲ沒收シ得タリトスルモ賣者若クハ授者ハ之カ爲メニ其自ラ賣却シ又ハ交付シタル所爲ニ付テノ犯罪ニ係ル阿片ノ價格ニ相當スル金額ノ追徴ヲ免ルヘキモノニ非ス (大正一〇、七、九)

藥品及藥品營業取締令

第七條

○鹽酸モルヒネヲ劇藥ト認メタルハ失當ナルモ右藥品ハ毒藥ノ種類ニ屬スルヲ以テ之カ販賣ニ關シ藥品及藥品營業取締令第七條ニ違反スルトキハ同令第十九條ノ罪ヲ構成スヘキモノナレハ右認定ノ瑕瑾ハ判決ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス (大正五、一、二〇)

代書業取締規則

第六條

○大正四年七月朝鮮總督府警務總監部令第五號代書業取締規則第六條第一號違反ノ罪アリトシテ處罰スルニハ許可ヲ受ケタル代書業者ナル事實ハ該犯罪構成要件ノ一ナレハ其事實ハ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示スルヲ要ス (大正六、一、一七)

○代書業者ニシテ他人間ノ權利義務ニ關スル紛議ニ干與シタルトキハ代書業取締規則第六條第一號末段ノ規定ニ違反シ同第十四條ニ依リ處罰スヘキモノトス (大正七、一、三一)

○朝鮮人タル代書業者カ民事訴訟ノ代理委任ヲ受ケタル所爲ハ代書業取締規則第六條第一號ニ該當スルモノニシテ同規則第十四條ニ依リ拘留

藥品及藥品營業取締令 代書業取締規則

七條 六條

| | | |
|---|----|----|
| 大 | 大 | 大 |
| 七 | 六 | 五 |
| 五 | 四 | 三 |
| 三 | 四九 | 二六 |

| | |
|----|----|
| 大 | 大 |
| 九 | 七 |
| 二〇 | 二〇 |

又ハ科料ニ處スヘキモノトス (大正六、四、七)

神社寺院規則

第二十條

○大正四年八月朝鮮總督府令第八十二號神社寺院規則第二十條ハ許可ヲ受クルコトナクシテ神社寺院ヲ設ケ又ハ之ニ類似スル建造物ヲ設ケルコトヲ禁スル律意ナルヲ以テ在來ノ建造物ヲ使用シテ神社寺院ヲ設ケ又ハ之ニ類似スル建造物ヲ設ケタルトキト雖苟モ許可ナクシテ爲シタルニ於テハ同條ニ依リテ處罰スヘキモノトス而シテ眞言宗ノ僧侶カ朝鮮總督府ノ許可ヲ受ケスシテ居室室内ニ弘法大師ノ木像及其他ノ佛像ヲ安置シ賽錢箱、御籤箱等ヲ備付ケ信者緣者ノ遺骨及位牌ヲ陳ヘ胡麻壇禮盤、磬鍾木魚供物器、幡提灯其他ノ設備裝飾ヲ施シ同宗多數信者ノ參詣ヲ許シ信者等ト共ニ勤行其他ノ佛事ヲ施行シタル事實アルトキハ其賽錢箱ヲ備付ケ又信者緣者ノ遺骨及位牌ヲ陳ヘタルカ如キハ他ノ設備裝飾ト相待テ寺院類似ノ建造物ヲ設ケタルモノト認ムルニ足ルヲ以テ右法條ニ依リ處罰スルハ相當ナリ (大正六、九、二〇)

學校組合令

○府及學校組合ハ公共團體トシテ各獨立ノ法人格ヲ有シ一ハ府制ニ定ムル公務員其事務ヲ執行シ一ハ學校組合令ニ定ムル公務員事務ヲ執行スルモノナルニ依リ假令上司ノ命令又ハ囑託ニ依リテ事務ニ從事スル場合ト雖法令ノ規定ニ基クニ非サル以上ハ公務員ノ職務行爲ト謂フヲ得ス (大正五、五、八)

○學校組合ノ事務ニ從事スル職務權限ヲ有スル者ハ管理者竝ニ其管理者ヨリ事務ニ從事スルコトヲ命セラレタル學校組合ノ吏員及管理者ノ職務ヲ行フ府尹竝ニ府尹ヨリ學校組合ノ行政ニ關スル事務ニ從事スルコトヲ命セラレタル府ノ官吏ニ限り其以外ノ者ニ於テハ學校組合ノ事務ニ從事スル職務權限ヲ有セサルモノトス (大正五、五、八)

第六條

○當事者間ニ於テ或者カ學校組合評議員ニ選舉セストノ契約ヲ爲ストキハ該契約ハ選舉ノ公正ニ行ハルルコトヲ阻害シ公ノ秩序ニ反スル事項ヲ目的トスルモノナルヲ以テ無効ナリ (大正五、一、二、二六)

爆發物取締罰則

○凡ソ治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスル目的ヲ以テ爆發物ヲ

六
五
三四七

六
四
四二三

五
三
三九一

五
三
三九一

五
三
六二〇

輸入所持シ次ニ之ヲ使用シタル場合ニ於テハ其輸入所持ノ行爲ハ其使用ノ行爲ノ觀念中ニ包含セラルルヲ以テ單純ナル一個ノ爆發物使用罪ヲ構成スヘキモノトス (大正一〇、三、三一)

銃砲火藥類取締令

第三條

○銃砲火藥類取締令第三條第十五條第一項違反ノ罪ハ犯人カ行政官廳ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ヲ朝鮮ニ輸入スルニ依リ成立シ苟モ其許可ヲ受ケタル以上ハ何人ト雖之ヲ朝鮮ニ輸入スルヲ妨ケサルモノナレハ其從犯ノ成立ヲ認ムルニハ正犯カ其許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ヲ朝鮮ニ輸入シ從犯ニ於テ正犯カ其許可ヲ受ケスシテ輸入スルモノナルコトノ情ヲ知り其罪ヲ幫助シタル事實アルコトヲ要ス (大正七、二、二八)

○銃砲火藥類取締令第十五條ニ所謂同令第三條違反ノ行爲トハ全然許可ナクシテ銃砲火藥類ヲ輸出又ハ移出シタル場合ノミナラス一定ノ内容條件ヲ具シテ輸出又ハ移出ニ付許可ヲ受ケタルモ許可以外ノ種類ノモノ又ハ許可以上ノ數量ヲ輸出シ若ハ移出シ又ハ許可以外ノ場所へ輸出若ハ移出スル等總テ許可ノ内容條件ニ違反シテ輸出又ハ移出シタル場

大 一〇
八
二三

大 七
五
四三

合ヲ包含スルモノトス (昭和三、一二、一三)

銃砲火藥類取締令施行規則

第五十七條

○銃砲火藥類取締令施行規則第五十七條同第五十九條ノ趣旨タルヤ同令施行以前ニ在リテ讓受ノ許可ヲ受ケスシテ銃砲火藥類ヲ所有シ來リタル者ト雖同令施行後一定ノ期間經過後ハ警察官署ノ許可ヲ得スシテ私擅ニ之ヲ所持スルコトヲ禁止シ若シ其禁止ニ違反シ所持ノ行爲ヲ繼續スルトキハ其行爲ヲ處罰スルノ法意ニシテ單ニ同令施行後一月ノ期間内ニ警察官署ノ許可ヲ得サリシトノ不行爲ヲ處罰スルノ法意ニ非ス (大正七、一、一七)

○該違反罪ハ同令施行後警察官署ノ許可ヲ得スシテ一月ヲ經過シタル時ニ成立スル即時犯ニ非サルヲ以テ公訴時効ハ一月ノ期間滿了後ヨリ起算スヘキモノニ非ス (大正七、一、一七)

銃砲火藥類取締法

第八條

銃砲火藥類取締令施行規則 銃砲火藥類取締法

五七條 八條

二六九

大 三
一五
三五

大 七
五
二

○銃砲火藥類取締法第八條ニ所謂輸出トハ關稅法同法施行規則等ニ規定セル輸出ト其ノ意義ヲ同フシ銃砲火藥類ヲ帝國領土外ニ移出スルヲ謂フモノトス (大正一二、一一、一二)

○水路ニ依ル輸出ハ銃砲火藥類ヲ帝國領土外ニ輸出スルカ爲ニ帝國領土外ニ仕向ケラレタル船舶ニ積載スルニ依リ完成シ陸路ニ依ル輸出ハ帝國領土内ヨリ國境ヲ越ヘ外國ノ領土ニ移出スルニ依リ直ニ完成スヘキモノトス (大正一二、一一、一二)

○帝國領土内ノ一地域ヨリ他ノ地域ニ移出スルハ之ヲ輸出ト謂フヲ得ス (大正一二、一一、一二)

○犯人カ銃砲火藥類ヲ内地ヨリ支那奉天ニ輸出スル目的ヲ有スルモ内地ノ港灣ヨリ支那ノ領土ニ向ケ水路ニ依ル輸出ヲ爲スニアラス一應之ヲ朝鮮ニ移出シ更ニ朝鮮内ヨリ國境ヲ越ヘ支那ノ領土ニ移出セントスル場合ニハ其ノ内地ヨリ朝鮮ニ移出スル行爲ハ之ヲ以テ輸出ト稱スルヲ得サルモノニシテ其ノ朝鮮ヨリ國境ヲ越ヘ支那ノ領土ニ移出シ始メテ輸出アリト謂ヒ得ヘキモノトス (大正一二、一一、一二)

銃砲火藥類取締法施行規則

| | | |
|----|----|----|
| 三 | 三 | 三 |
| 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 二四 | 二四 | 二四 |

第三十七條

○實包ヲ五個ノ柳行李ニ分納シ之ヲ神戸驛ニ於テ鐵道手荷物トシテ託送シタル所爲ハ一所爲ニシテ鐵道營業法第三十一條銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條ニ觸ルルモノトス (大正一二、一一、一二)

鐵道營業法

第三十一條

○實包ヲ五個ノ柳行李ニ分納シ之ヲ神戸驛ニ於テ鐵道手荷物トシテ託送シタル所爲ハ一所爲ニシテ鐵道營業法第三十一條銃砲火藥類取締法施行規則第三十七條第一項第四十五條ニ觸ルルモノトス (大正一二、一一、一二)

朝鮮道地方費令

○朝鮮道地方費令ノ定ムル所ニ依レハ道地方費ハ獨立シテ財産ヲ所有シ事業ヲ經營シ地方稅其ノ他ノ公課ヲ徵收スル等權利義務ノ主體ト爲リ得ルモノニシテ道知事ヲ以テ意思機關及執行機關トスル一種ノ公共團

銃砲火藥類取締法施行規則 鐵道營業法 朝鮮道地方費令 三七條 三一條 二七一

| | |
|----|----|
| 三 | 三 |
| 一〇 | 一〇 |
| 二六 | 二六 |

體ト認メタルモノナルコト明白ナルカ故ニ公務所ナルコト疑ヲ容レヌ
(大正一一、一〇、二五)

○道地方費カ大豆検査規則ニ從ヒ大豆検査ヲ爲スニ當リ使用スル證印及
道名記號等ハ刑法第六十六條第二項ニ所謂公務所ノ記號ニ該當スル
モノトス (大正一一、一〇、二五)

米穀検査規則

第二十一條

○大正十一年七月朝鮮總督府令第四百四號米穀検査規則第二十一條第二項
ニ從業者トアルハ同項前段所定ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人
以外ノ者ニシテ現ニ事業者本人ノ經營ニ係ル事業ノ全部又ハ一部ニ從
事セル者ヲ汎稱スルモノニシテ必スシモ事業者本人ヨリ其ノ業務ニ關
シテ指揮監督ヲ受クル等現實本人ノ支配力ノ下ニ在ルコトヲ要スルモ
ノニ非ス (大正一五、一〇、一四)

○米穀検査規則違反事件ニ付雇人其ノ他ノ從業者ヲ處罰スルハ違法ニシ
テ同則第二十一條ノ規定ニ依リ事業主本人ヲシテ獨リ其ノ責ニ任セシ
ムヘキ法意ナリトス (昭和四、六、一七)

| | | |
|---|----|----|
| 大 | 三 | 二七 |
| 大 | 一〇 | 二七 |
| 大 | 一三 | 六 |
| 大 | 一五 | 一六 |
| 大 | 一六 | 一九 |

大豆検査規則

第七條

○道地方費カ大豆検査規則ニ從ヒ大豆検査ヲ爲スニ當リ使用スル證印及
道名記號等ハ刑法第六十六條第二項ニ所謂公務所ノ記號ニ該當スル
モノトス (大正一一、一〇、二五)

呷検査規則

○呷検査規則ニ穀用呷鹽用呷ト稱スルハ同則第五條ニ定メタル標準ニ適
合シ得ヘキ形體ヲ有スル生産品ヲ謂フモノニシテ所持人ノ使用意思ニ
因リ決スヘキモノニアラス (昭和三、一二、三)

○同則第一條ニ於テ朝鮮産呷ヲ授受ノ用ニ供セントスル者ト謂フハ自ラ
進ンテ授受ノ用ニ供セントスル能働的地位ニ在ル者ニ於テ同則第三、
四條ノ検査ヲ受クヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ受働的地位ニ在ル者モ
亦引渡ヲ受クルニ先チ之カ検査ヲ受クヘキモノト爲シタルモノニ非サ
ルモノトス (昭和三、一二、三)

市場規則

大豆検査規則 呷検査規則 市場規則

| | | |
|---|----|----|
| 大 | 三 | 二七 |
| 大 | 一〇 | 二七 |
| 大 | 一五 | 一五 |
| 大 | 一五 | 一五 |
| 大 | 一五 | 一五 |

第八條

○市場規則第八條ニ所謂競賣トハ競賣物件ニ對スル多數ノ購買希望者ヲシテ價格ノ競争ヲ爲サシメ最高價ノ申出ヲ爲シタル者ニ競落スル賣却方法ヲ汎稱スルモノトス (昭和三、一一、二二)

大正九年制令第十九號

(朝鮮ニ移入スル物品ノ移入税等ニ關スル件)

○内地ヨリ釜山ニ物品ヲ移入シ其移入税ノ逋脱ヲ圖リタル所爲ニ對シテハ大正九年八月制令第十九號(朝鮮ニ移入スル物品ノ移入税等ニ關スル件)ヲ適用シ關稅法ヲ準用スヘキモノナリト雖同大正九年八月制令第十九號ノ規定ハ之ヲ適用シタル趣旨判文上明ナルヲ以テ足り必スシモ之ヲ判文ニ明記セサルヘカラサルモノニアラス (大正一一、一二、一七)

大正九年八月勅令第三〇六號

○明治四十五年三月制令第十七號朝鮮關稅令ハ大正九年八月勅令第三〇六號關稅法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ノ施行ニ因リ消滅ニ歸シタルモノトス (大正一一、一二、一七)

| | | |
|----|----|----|
| 三 | 三 | 三 |
| 一五 | 一〇 | 一五 |
| 二〇 | 一五 | 二〇 |

朝鮮關稅令 (廢止)

○明治四十五年三月制令第十七號朝鮮關稅令ハ大正九年八月勅令第三〇六號關稅法ヲ朝鮮ニ施行スルノ件ノ施行ニ因リ消滅ニ歸シタルモノトス (大正一一、一二、一七)

朝鮮鑛業令

第四十四條

○鑛業出願人カ鑛物取得ノ目的ヲ有セス單ニ鑛區訂正又ハ經營方法ヲ確定スル必要上鑛床若クハ鑛區ノ位置形狀等ヲ探知スル爲メ鑛區ヲ穿掘スルカ如キハ朝鮮鑛業令ノ所謂探掘ニアラス (大正六、七、九)

○鑛滓カ押收黒鉛ノ精鍊ニ依リ生シタルモノナル事實ハ之ヲ沒收スルニ付必要ナル事實理由タルニ過キスシテ罪ト爲ルヘキ事實ニ非サレハ必スシモ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ説明スルノ要ナシ (大正七、三、二八)

○朝鮮鑛業令第四十四條第三項ノ規定ハ共犯者各自ヨリ讓渡シ又ハ消費シタル鑛物ノ價額全部ヲ追徵スヘキ法意ナリト解スルヲ相當トスヘク但タ國家ハ其追徵ニ依リ讓渡シ又ハ消費シタル鑛物ノ價額以上ヲ取得

| | | |
|----|----|----|
| 三 | 六 | 七 |
| 一〇 | 四 | 五 |
| 一五 | 三五 | 九五 |

スルコトヲ得サルヲ以テ共犯者中ノ一人若クハ數人ヨリ追徴シタル金員カ其價額全部ニ達シタルトキハ追徴處分ハ完了シタルモノト爲ササルヘカラス (大正七、三、二八)

寄附金品募集取締規則

第一條

○明治四十四年朝鮮總督府令第三百三十八號寄附金品募集取締規則第一條ニハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス寄附金品ヲ募集セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ警察部長ニ願出テ許可ヲ受クヘシトアリテ名義ノ如何ヲ問ハサルカ故ニ刑死者弔慰ノ爲メ遺族ニ贈與スルノ目的ヲ以テ寄附金ヲ募集スル場合ト雖固ヨリ同條ニ該當スルコト一點ノ疑ヲ容レズ (大正一一、三、九)

自動車取締規則

第二十五條

○自動車ノ運轉手ハ其運轉ニ因リ若クハ之ニ伴ヒテ乘客ニ來スコトアルヘキ生命身體ニ對スル危害ヲ妨止スヘキ注意ヲ爲ス義務ヲ有スルコト

ハ其業務上論ヲ俟タサル所ニシテ該業務ハ乘客ニ對シ進行中ニ乗降ヲ禁スル法規ノ存スル故ヲ以テ阻却セラルヘキモノニ非ス故ニ運轉手ニシテ若シ相當ノ注意ヲ拂ヒ自動車ノ進行ヲ停止シテ乘客ヲ下車セシメタランニハ何等危害ノ發生セサルヘカリシニ拘ラス不注意ニモ進行中乘客ヲ促シテ下車セシメ因テ生命身體ニ危害ヲ蒙ルニ至ラシメタル場合ニハ業務上過失死傷罪ヲ構成ス (大正一一、七、二〇)

明治四十五年制令第二十六號

(司法警察事務並令狀執行ニ關スル件)

○朝鮮總督府巡查ハ司法警察官ノ職務ヲ行フヘキ命ヲ受ケタルトキハ之ヲ行フヘキモノニシテ其命ヲ受ケタルコトハ訴訟記録ニ依リ之ヲ明確ニスルノ要ナシ又其ノ命ヲ受ケタル朝鮮總督府巡查ノ作成シタル訊問調書又ハ聽取書中其ノ肩書ニ司法警察官職務取扱又ハ警部代理ノ記載アルコトヲ必要トセス (大正五、六、二二)

○明治四十五年七月十一日制令第二十六號ニハ已ムヲ得サル場合ニ於テハ憲兵上等兵ヲシテ司法警察官ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得ル旨規定シアリテ憲兵上等兵ハ命ヲ受ケタルトキハ同制令ノ規定ニ依リ司法警

大
五
三
四三五

大
二
九
九一

大
七
五
九五

大
二
九
二六

察官ノ事務ヲ行フコトヲ得ヘク而シテ憲兵上等兵カ犯罪ノ證據品ヲ領置シ之ヲ保管スルカ如キ司法警察官ノ職務ニ屬スル事務ヲ行ヒタルトキハ反證ナキ限り該憲兵上等兵ハ司法警察官ノ職務ヲ行フヘキコトヲ命セラレ之ヲ行ヒタルモノト認ムヘキモノトス (大正一〇、三、二四)

大正九年朝鮮總督府令第六十號

(刑死者ノ墳墓祭祀肖像等ノ取締ニ關スル件)

○刑死者ノ靈ヲ弔慰スル爲メ廣ク公衆ヨリ賻儀ヲ募集センコトヲ決議シ賻儀金ヲ募集シタル行爲ハ夫自體ニ於テ刑死者ヲ賞揚スルノ意義ヲ含蓄スルコト明カナルカ故ニ該行爲ハ大正九年朝鮮總督府令第六十號第四條第一項ニ所謂刑死者ヲ賞揚スル行爲ニ該當スルコト論ヲ俟タス (大正一一、三、九)

大正八年全羅北道令第十七號

○大正八年十一月二十八日朝鮮總督府全羅北道令第十七號ニハ其第二條ニ原蠶種製造所ニ左ノ職員ヲ置ク所長若干名書記若干名云々トノ規定及第五條ニ書記ハ所長ノ指揮ヲ承ケ庶務及會計ニ從事ストノ規定アル

ヲ以テ全羅北道恩賜原蠶種製造所書記ハ前記道令ノ規定ニ基キ任命セラレ所長ノ指揮ヲ承ケ同製造所ノ庶務及會計ニ從事スル職務權限ヲ有スルモノニシテ刑法第九十七條第九十八條ニ所謂公務員ニ該當シ他人カ其職務ニ關シ賄賂ヲ交付スルトキハ贈賄罪ヲ構成ス (大正一一、七、二二)

大正四年忠清北道告示第十一號

○大正四年四月一日忠清北道告示第十一號ノ規定ニ依レハ蠶業技手蠶業傳習所教師カ改良蠶種成繭ノ共同販賣ノ斡旋事務ニ關與スヘキ規定ナキカ故ニ蠶業技手タル被告及蠶業講習所講師タル被告カ共同販賣ニ係ル成繭引渡事務ニ關與スルモ法令ノ規定ニ依リ職務ニ從事スルモノト云フヲ得ス (大正五、二、七)

統監府鐵道管理局機關庫長以下 鐵道係員職制

○朝鮮鐵道ノ機關庫長以下鐵道係員職制第九十三條ノ規定ハ火夫ニ對シ同條ニ規定スル焚火ノ任務以外ニ於テ慣行ニ因ル他ノ任務ヲ認ムヘカ

大正四年忠清北道告示第十一號

統監府鐵道管理局機關庫長以下鐵道係員職制

二〇八七五

二九二六

二九九九

二九四

ラサルモノトスル趣旨ノ規定ニ非サルハ勿論焚火ノ任務ト停車場構内
 常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ任務トハ事實上併行
 シ得ヘカラサルモノニ非サルヲ以テ事實裁判所カ火夫ニ對シ證據ニ依
 リ慣行上停車場構内常置信號機ヲ注視シ機關士ニ之カ合圖ヲ爲スヘキ
 任務ヲ有スルモノト判示シタルモ之ヲ以テ職制上ノ規定ヲ無視シ不當
 ニ事實ヲ確定シタル不法アリト謂フヲ得ス (大正一一、五、二二)

大
 二
 九
 五五

刑法大全

刑法大全

(明治四十五年制令第十一號 朝鮮刑事令ニ依リ廢止)

第一編 法例

第一章 用法範圍

第十四節 加減順序

○減輕ノ等數ヲ明示シアル以上其減輕ノ結果科スヘキ刑ヲ明示セスシテ俱發罪ノ刑ト比較スルモ違法ニアラス (明治四四、一〇、二〇)

第三編 刑例

第一章 刑罰通則

第三節 附加刑處分

○刑法大全第百十八條第一項ニ所謂一般犯罪ニ關スル物件ノ内ニハ犯罪ノ用ニ供セントシタル物件ヲ包含ス (明治四三、一二、二六)

第十三節 加減處分

○刑法大全第百四十四條第一項ニ所謂癡疾ノ者トアル中ニハ犯罪後ニ至リ癡疾トナリタル者ヲ包含セサルモノトス (明治四四、五、二四)

刑法大全

法例 用法範圍 加減順序 刑例
刑罰通則 附加刑處分 加減處分

明
四四

一
二五

明
四三

一
二六

明
四四

一
二七

第四編 律例上

第一章 反亂所干律

第二節 内亂律

○政事ヲ變更セントスル目的ヲ以テ徒黨ヲ嘯聚スル者ノ部下ニ投シ各地横行中巡查カ其行動ヲ密偵シ氏名ヲ手記シタル等ノ事ヲ覺知シ行動ヲ妨クルモノトシ之ヲ殺害シタル所爲ハ内亂ノ犯罪行爲ニ包含スル一個ノ行爲ニシテ舊刑法大全第百九十五條ヲ適用スヘキモノトス (明治四五、五、二三)

第三章 斷獄及訴訟所干律

第六節 偽證律

○證人カ或ル事實ヲ見聞セサルニ拘ハラズ之ヲ見聞セリト稱シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ現ニ見聞シタリト偽リタル事實カ偶々實際ノ事實ニ適合スルモ刑法大全第三百條ニ所謂實情ヲ言ハスシテ誣證ヲ故行シタルモノニ相當スルヲ以テ偽證罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、九、一六)

○證佐人カ司法官ニ對シテ實情ヲ言ハスシテ誣證ヲ行ヒタル以上ハ其證言カ判決ニ影響ヲ及ホスト否ト又其程度如何ヲ問ハス偽證罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、九、一六)

第四章 詐偽所干律

第二節 制書及官文書増減律

- 面長カ職務上作成スヘキ證明文書ヲ偽造シタルトキハ刑法大全第二條ニ依リ同第三百九十九條ヲ適用シ官契偽造罪トシテ處罰スヘキモノトス (明治四四、二、一)
- 面長ハ純然タル官吏ニアラスト雖モ其職務ヲ執行スル場合ノ資格ハ當然官吏ニ準スヘキヲ相當ナリトス (明治四四、二、一)
- 檢證調書中ノ文字ヲ裁判所接受室ニ於テ改竄シ之ヲ同室ニ在ル接受簿ニ挿ミ置キタル所爲ハ變造證書行使ナリトス (明治四四、二、一五)
- 文書變造罪ハ既成ノ文書ヲ擅ニ増減變換シ文書ノ信用ヲ害スルニ因リテ成立シ他人ノ權利ヲ害スヘキモノナルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ナキモノトス (明治四四、二、一五)
- 當該判事カ檢證調書ノ變造タルコトヲ看破シ其部分ヲ證據ニ採用セザリシトキト雖モ文書變造罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス (明治四四、二、一五)

第十節 偽造律

- 郡ノ主事カ強制執行官タル郡守ノ名義ヲ以テ公賣調書ヲ作成スルニ該リ虛偽ノ記入ヲ爲シタルトキハ刑法大全第三百八十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス (明治四三、一〇、一九)
- 偽造ニ係ル洞長ノ認證アル土地賣買契約書ニ偽造ノ洞長印ヲ捺捺シテ行使シタルトキハ刑法大全第二條ニ依リ同第三百八十五條ヲ適用スヘキモノトス (明治四三、一二、二七)
- 官私ノ文書及ヒ印章ヲ偽造行使シ因テ金錢ヲ騙取セントシテ財ヲ得サリシトキハ刑法大全ノ規定上未得財ノ點ハ私書偽造罪ニ吸收セラレ別罪ヲ構成セサルモノトス (明治四三、一二、二七)

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 四三 | 四三 | 四三 | 四四 | 四四 | 四四 | 四四 | 四四 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 三二 | 三二 | 一 | 六〇 | 六〇 | 六〇 | 五一 | 五一 |

| | | |
|-----|-----|-----|
| 四四 | 四四 | 四五 |
| 一 | 一 | 一 |
| 二八三 | 二八三 | 二八三 |

刑法大全 律例下 殺傷所干律 擅殺讐人律 姦淫所干律 姦人婦女律 二八四

○刑法大全第三百九十條ハ何人ト雖モ官契ヲ偽造シタル者ニ對スル規定ニシテ特ニ官契ヲ作成スル權能ヲ有スル官吏ニ限ルヘキモノニ非ス (明治四四、二、一五)

○公私印章偽造罪ノ事實ヲ認定スルニ該リ之ヲ施行シタルヤ否ヤノ區別ヲ明示セサル判決ハ違法ナリトス (明治四四、二、二二)

○文書偽造ノ日時ハ文書偽造罪成立ノ要件ニ非ス從テ其日時ヲ認メタル證據ヲ掲ケサルモ取消ノ理由トナラス (明治四四、四、一四)

第五編 律例下

第九章 殺傷所干律

第十節 擅殺讐人律

○刑法大全第四百九十三條第二項ニ所謂登時トハ必スシモ同條第一項ニ掲クル親屬ノ殺サレタル後ノ瞬間ヲ指示スルニアラスシテ多少時間ノ間隔アル場合ヲモ包含ス (明治四三、一、二二二)

第十章 姦淫所干律

第一節 姦人婦女律

○賣淫女ニ對シ其承諾ナキニ暴行ヲ以テ強姦シタルトキハ刑法大全第五百三十五條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、一、二九)

第十二章 賊盜所干律

第三節 盜係官財產律

○法制上監督守護ノ職責アル者カ其監守セル官ノ財產ヲ不正ニ横領スルトキハ監守自盜罪成立スルモノトス (明治四四、二、一八)

○監守自盜罪ハ普通竊盜罪ト其體様ヲ異ニスルモ刑法大全第八十三條第二號ニ徵シ同法上均シク竊盜ノ一ニ屬スルモノトス (明治四四、二、一八)

○面長兼公錢領收員カ各洞長ヨリ受領シタル税金ハ私金ニ非スシテ刑法大全第五百九十一條ニ所謂官ニ係ル公金ナリトス (明治四四、二、一八)

第六節 準竊盜律

○共謀シテ他人ノ財物ヲ騙取シタル以上ハ贓物ノ分配ヲ受クルト否トハ詐欺取財罪ノ成立ニ影響ナキモノトス (明治四四、四、一四)

○詐欺取財罪ノ認定ヲ爲スニ該リテハ贓物ノ分配如何ニ關シ判斷ヲ爲スヲ要セサルモノトス (明治四四、四、一四)

○欺罔ノ手段カ頗ル單純ニシテ普通ノ智能ヲ有スル者ナリセハ直チニ看破シ得ヘキ事柄ナリトスルモ苟クモ詐言ヲ用キテ人ヲ錯誤ニ陥ラシメ因テ不正ノ利益ヲ得タルトキハ常ニ詐欺取財罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、四、一四)

○不動産所有者ニ對シ欺罔手段ヲ以テ其所有名義ヲ移スノ意思ヲ表示シタルトキハ不動産騙取罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、四、一四)

刑法大全 律例下 賊盜所干律 盜係官財產律 準竊盜律 二八五

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 明四四 | 明四四 | 明四四 | 明四四 | 明四四 | 明四四 | 明四四 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 八二 | 八二 | 八二 | 八二 | 六六 | 六六 | 六六 |

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

二八四

刑法大全 律例下 賊盜所干律 共謀爲盜律 雜犯律 賭技律 不應爲律 二八六

○刑法大全第六百條ヲ適用シテ處罰スル場合ニ於テ騙取ニ係ル證書ノ價額ヲ判示セサル判決ハ理由ニ不備アルモノトス (明治四四、六、二六)

第十一節 共謀爲盜律

○刑法大全第六百十九條ハ暴行威嚇其他之ニ類スル手段ヲ施用シテ財物ヲ盜取シタル場合ノ如キハ之ニ包含セサルモノトス (明治四四、八、二一)

第十四章 雜犯律

第五節 賭技律

○賭房開帳ノ高主ニシテ同時ニ賭博ノ主商タル場合ハ之ヲ二罪トシテ處分スヘキヲ相當トス (明治四四、一二、六)

○刑法大全第六百七十三條ニ所謂賭房ヲ開張シ高主ヲ作シタル者ハ國利ノ有無ニ係ハラヌ犯罪ヲ構成スルモノトス (明治四四、一二、六)

○刑法大全第六百七十三條ニ所謂賭房トハ賭博ニ供用セル場所ヲ汎稱スルモノト解釋スヘキモノトス (明治四四、一二、六)

第十節 不應爲律

○行政官廳ノ許可ヲ受スシテ砂金採取ニ從事シタルトキハ砂礦採取法第十三條第一項ヲ適用處分スヘク此場合ニ於テ擅ニ他人ノ所有地ヲ穿掘シタル行爲アルモ砂金採取ノ目的ニ出ルニ於テハ其行爲ハ包括的ニ觀察シ同處分中ニ當然包含シテ處罰スヘキモノニシテ別ニ分離シテ之ヲ不應爲律ニ間疑スヘキモノニアラス (明治四五、一、二〇)

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 四四 | 四四 | 四四 | 四四 | 四四 | 四四 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 二二四 | 二〇七 | 二〇七 | 二〇七 | 一六 | 二二 |

刑法大全 (大正六年制令第 三號ニ依リ廢止)

第一編 法例

第一章 用法範圍

第一節 本法施行權限

○刑法大全第二條ノ規定ハ引律比附スヘキ正條ノ法定刑カ死刑タル場合ニハ其ノ死刑ヲ當行スルヲ得ストノ旨趣ニシテ其ノ死刑ヲ終身刑ニ改メ終身刑ヲ法定刑ト爲スヘシトノ旨趣ニ非サルヲ以テ法定刑ハ死刑ナリトス (大正五、六、一九)

○刑法大全第二條ニ依リ同法第五百九十三條第一號ヲ引律比附シ犯情憫諒スヘキモノト認メ酌量減輕ヲ爲ス場合ニハ死刑ヨリ減輕シタル刑ヲ以テ法定刑トシ其ノ刑ヨリ減輕スヘキモノニ非スシテ死刑ヨリ直チニ減輕ヲ爲スヘキモノトス (大正五、六、一九)

第二節 故殺人律

○刑法大全第四百七十八條ノ規定ハ故殺ニ依ル強盜殺人ノ場合ト謀殺ニ依ル強盜殺人ノ場合トヲ併セ包含スルモノトス (大正三、五、一四)

○刑法大全ニ於ケル強盜殺人罪ハ殺意ノ存在ヲ要スルモノトス (大正三、五、一四)

○強盜殺人ノ行爲ヲ以テ尊長ヲ殺シタル罪モ亦タ殺意ヲ要スルモノトス (大正三、五、一四)

○強盜ヲ行フ時尊長ヲ謀殺シタル行爲ニ對シテハ單ニ尊長ニ對スル強盜殺人罪トシテ處斷ス

刑法大全 法例 用法範圍 本法施行權限 故殺人律

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|---|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 三 | 三 | 三 | 五 | 五 | |
| 二 | 二 | 二 | 三 | 三 | |
| 一九七 | 一九七 | 一九七 | 四二九 | 四二九 | |

ヘク強盜殺人律ト謀殺人律ト併セ適用シ刑法第五十四條第一項前段ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ (大正三、五、一四)

○強盜ヲ爲スニ際シテ殺人ヲ爲シタル場合ニ於テハ其行爲ノ何レカ先ナルヤ後ナルヤ中間ハ強盜殺人罪ヲ構成スヘキモノトス (大正三、三、一四)

○刑法大全第四百七十七條ノ規定ハ朝鮮刑事令ノ施行ニ依リ從來親屬殺死ノ罪ヲ包含セザリシ適用範圍ニ變更ヲ生シタルモノニアラス (大正三、六、一一)

○朝鮮人ノ其妻ニ對スル故殺ノ所爲ハ刑法第九十九條ノ罪ニ該當スルモノニシテ刑法大全第四百七十七條ヲ適用スヘキモノニアラス (大正三、六、一一)

○刑法大全第四百九十九條規定ノ事項ハ同條ノ廢止ニ因リ同法第四百七十七條ノ規定ニ包含セラレルモノニ非ス (大正三、六、一一)

○窃盜ノ目的ヲ以テ家宅内ニ侵入シタル後家人ニ誰何セラレタルヨリ殺意ヲ生シ家人ヲ殺害シテ財物ヲ強奪シタル所爲ハ窃盜殺人ニ非スシテ強盜殺人ナリトス (大正四、一、二八)

○前示ノ場合ニ於テハ刑法ノ家宅侵入罪ト刑法大全第四百七十八條ノ罪トニ該當スルヲ以テ併合罪トシテ處斷スヘキモノトス (大正四、一、二八)

○朝鮮人カ殺意ヲ以テ犯シタル強盜傷人ノ行爲ニ對シテハ從前刑法大全第五百十條ヲ適用シテ處斷シ同法第四百七十八條ノ強盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得サルモノナルヲ以テ朝鮮刑事令第四十一條第一項ニ依リ同令施行ト同時ニ刑法大全第五百十條ノ廢止セラレタル後ト雖同法第四百七十八條ノ適用範圍ヲ擴張シ同條ノ強盜殺人未遂罪トシテ處罰スルヲ得

ス強盜傷人ノ點ニ付テハ刑法第二百四十條殺人未遂ノ點ニ付テハ同法第九十九條第二三三條ヲ適用スヘキモノナリ (大正四、四、二二)

三條ヲ適用スヘキモノナリ (大正四、四、二二)

| | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 | 大 |
| 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
| 一九七 | 一九八 | 二〇九 | 二〇九 | 二一〇 | 二一〇 | 二九九 |

第十二節 親屬殺死律

○犯人ノ身分カ犯罪構成要件ニ非スシテ審判ノ輕重ヲ來スニ過キサル場合ニ在テハ共犯者ノ一人ノ有スル身分ハ其身分ナキ他ノ共犯者ニ影響ヲ及ボササルモノトス (大正三、七、三一)

○刑法大全第四百九十八條第一號ニ規定スル親尊長故殺罪ハ同第四百七十七條所定ノ通常故殺罪ニ對シ刑ヲ加重スルモノニシテ身分ニ因リ構成スル犯罪ニアラス (大正三、七、三一)

○妻ト共ニ其夫ヲ故殺シタル他人ニ對シテハ刑法大全第四百九十八條第一號ヲ適用スヘカラサルモノトス (大正三、七、三一)

第十七節 闘毆傷人律

○刑法大全第五百十六條ニ強盜又ハ窃盜ヲ行フニ當リ人ヲ傷ケタル者云々トアルハ強盜又ハ窃盜ヲ行ヒタル者カ未遂タルト既遂タルト中間ハ其ノ目的ヲ遂行スル爲メ若クハ逮捕ヲ免ルル爲メ犯行ノ場所又ハ之ト密接シタル場所ニ於テ人ヲ傷ケタルヲ處罰スル律意ナルヲ以テ苟モ其ノ傷害行爲カ前示ノ旨趣ニ於テ強盜又ハ窃盜行爲ト連繫ヲ有スルトキハ其ノ強盜又ハ窃盜行爲ト前後シテ行ハレタルト又犯行ノ場所ト多少ノ間隔アル場所ニテ行ハレタルト中間ハ同條ニ依リ處斷スヘキモノトス (大正六、九、一〇)

第十二章 賊盜所干律

第四節 強盜律

○共謀シテ強盜得財罪ヲ犯セシ以上ハ共犯者間ニ於ケル贓ノ分配有無ハ同罪ノ成立ニ影響ヲ

刑法大全 法例 用法範圍 親屬殺死律 闘毆傷人律 賊盜所干律 強盜律 二八九

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 大 | 大 | 大 | 大 |
| 三 | 三 | 三 | 三 |
| 二 | 二 | 二 | 二 |
| 二二九 | 二二九 | 二二九 | 四四五 |

- 及ホスヘキモノニアラス (明治四四、六、九)
- 刑法大全第五百九十三條ノ如キ首從ヲ分タスシテ處罰スヘキ犯罪ノ從犯トシテ處罰スルニ該リテハ唯タ其事實ヲ明示スルノミチ以テ足り特ニ總則ニ於テ規定セル從犯ニ關スル法條ヲ揭記スルノ必要ナキモノトス (明治四四、八、二一)
- 刑法大全第五百九十三條ノ罪ヲ犯サントシテ陰謀準備ヲ爲シタル者ニ對シテハ同第八十六條及ヒ第三百七十七條ヲ適用スヘキモノトス (明治四四、一〇、二〇)
- 刑法大全第五百九十三條ハ苟クモ財產劫取ノ計ヲ以テ同條列記ノ行爲ヲ爲シタルトキハ其手段カ性質上被害者ノ意思ノ自由ヲ全然束縛スヘキ重大ナルモノト否ト及ヒ其威嚇ニ係ル危害ノ切迫セルト否トニ拘ハラズ適用スヘキモノトス (明治四四、一〇、二〇)
- 刑法大全第五百九十三條ニ規定スル犯罪ノ準備ヲ處罰スルニ當リ特定ノ被害者及ヒ財物強取ノ手段ヲ示ササルモ不法ニ非ス (明治四四、一〇、二〇)
- 朝鮮人カ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルトキハ刑法大全第五百九十三條ヲ引律比附シテ處斷スヘキモノトス (大正三、八、一三)

明治四十三年勅令第三百二十五號

明治四十三年勅令第三百二十九號

- 刑法大全第五百一十一條ノ罪ヲ犯シタルニ因リ明治四十三年五月十日刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ同年八月ノ大赦ニ因リ其效力ヲ認ムヘカラサルニ至リタルモノナレハ右ノ者カ更ニ罪ヲ犯シ有斯般役ニ處スヘキトキト雖累犯ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス (大正四、四、八)
- (臨時恩賜公債證券ニ關スル件)
- 明治四十三年八月勅令第三百二十九號ニ依リ朝鮮各府郡ニ下付セラレタル恩賜金ノ管理及之ニ依リテ經營スヘキ事業並ニ其經理ニ關スル一切ノ事務ハ道ノ公務ナリトス (大正五、二、七)
- 臨時恩賜金事業トシテ道廳ニ於テ改良蠶種成繭ノ共同販賣ノ委託ヲ受ケ共同販賣ノ斡旋ヲ爲スハ道ノ公務ナリトス (大正五、二、七)

民刑訴訟規則

(明治四十五年制令第七號)
(朝鮮民事令ニ依リ廢止)

第一章 通則

- 民刑訴訟規則上刑事判決ニ於テ其判斷ノ資料トナリタル證據ノ名目ノミチ舉ケ内容ヲ說示セサルモ違法ニ非ス (明治四三、一〇、一九)
- 鑑定ノ結果ヲ採用スルト否トハ一ニ裁判官ノ自由ニ屬スルモノナレハ其採否ノ當不當ハ上告ノ理由トナラス (明治四四、二、一五)
- 民刑訴訟規則上被告ノミ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ原判決ヲ被告ノ不利益ニ變更スルモ違法ニアラス (明治四四、八、二二)

第三節 刑事訴訟手續

- 共犯人ノ逮捕、訊問ナキモ他ノ共犯人ニ對スル處分ヲ妨ケサルモノトス (明治四四、一、一九)

○ 民刑訴訟規則上數個ノ犯罪ヲ認ムルニハ其證據ハ單一ニ括シテ列示セハ足ルモノトス

民刑訴訟規則

| | | | | | |
|----|----|----|----|-----|-----|
| 明四 | 明四 | 明四 | 明四 | 大五 | 大五 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 |
| 二八 | 二六 | 二七 | 二七 | 二九四 | 二九四 |

| | | | | | |
|----|----|----|----|-----|-----|
| 明四 | 明四 | 明四 | 明四 | 大五 | 大五 |
| 一 | 一 | 一 | 一 | 三 | 三 |
| 一八 | 一七 | 一六 | 一 | 二九四 | 二九四 |

(明治四四、四、一)

朝鮮管刑令

(大正九年制令第
五號ニ依リ廢止)

○朝鮮管刑令ノ規定ハ單ニ懲役又ハ拘留ニ處スヘキ場合若クハ單ニ罰金又ハ科料ニ處スヘキ場合ニ限リテ管刑ニ處スルヲ得ヘキ趣旨ニシテ懲役及罰金ヲ併科スヘキ場合ノ如キハ管刑ニ處スルコトヲ得サルモノトス (大正五、三、三〇)

○朝鮮管刑令第一條第二條ニ據リ被告ヲ管刑ニ處シタルトキハ本刑タル懲役其他ノ刑ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做スヘキモノニ非スシテ現實ノ刑タル管刑ノ言渡ヲ受ケタルモノトス (大正五、五、二三)

統監府警察犯處罰令

(明治四十五年總督府令第四十號)
(警察犯處罰規則施行ニ依リ失効)

○警察犯處罰令第一條第二ニ規定セル密賣淫ノ容止ニ關スル罰則ハ料理店營業者ヲ除外スルノ法意ニ非スシテ何人ニ對シテモ之ヲ適用シ得ヘキモノトス (明治四五、三、一五)

結數連名簿規則

(大正三年總督府令第四十二號)
(地稅令施行規則ニ依リ廢止)

○結數連名簿ハ刑法第五百七條第一項ニ規定スル所ノ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ該當スルモノニ非ス (大正三、一二、二八)

○結數連名簿上ニ土地ノ所有者トシテ登錄セラレタル事實ハ財産上利益ノ取得ト言フヲ得サルニ因リ公務員ヲ欺キ登錄セシムルモ刑法第二百四十六條第二項ヲ適用スルヲ得ス (大

| | | | |
|---|----|---|-----|
| 明 | 四四 | 一 | 八二 |
| 大 | 五 | 三 | 三四〇 |
| 大 | 五 | 三 | 三九六 |
| 明 | 四五 | 一 | 二二八 |
| 大 | 三 | 二 | 三五〇 |

正三、一二、二八)

大正六年朝鮮總督府令第六十五號

(昭和五年一月
十一日廢止)

(金銀貨幣又ハ金銀地金ノ輸出ニ關スル件)

○稅關ノ免許及朝鮮總督ノ許可ヲ受ケスシテ金地金ヲ輸出シタル行爲ハ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス (大正七、一一、二二)

| | | | |
|---|---|---|-----|
| 大 | 三 | 三 | 三五〇 |
| 大 | 七 | 二 | 三〇九 |

附
錄

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY
540 EAST 57TH STREET
CHICAGO, ILL. 60637
U.S.A.

凡例

- 一、判例調査會ハ高等法院判事ニ依リ組織セラレタルモノ
ニシテ公ノ機關ニ非サルモ其ノ決議事項ハ參考トシテ
大正十二年創設以來之ヲ司法協會雜誌ニ掲載發表シ來
レリ本附録ハ則チ之カ要旨ヲ摘録彙集シタルモノナリ
- 一、索出ニ便スル爲下部ニ司法協會雜誌ノ卷號及其ノ頁數
ヲ附記シタリ

朝鮮高等法院民事判例要旨類集附錄目次

判例調査會決議

民法

查定前ニ爲シタル證明ノ第三者ニ對スル效力……………一

民法第七十七條ニ所謂第三者ノ意義……………一

泥生地ノ所有權取得ニ關スル慣習……………一

流抵當……………二

流抵當特約ノ效力ニ就テ……………二

假登記所有權者ノ抵當權滌除……………二

履行不能ノ意義……………三

填補賠償……………三

虛偽ノ意思表示ト民法第四百二十四條ノ取消權トノ關係……………三

虛偽ノ申告ニ因ル查定……………四

朝鮮人ノ親族ノ範圍……………四

內鮮人間ノ入夫婚姻ニ關スル件……………一五

次養子ニ關スル慣習ニ就テ……………一五
 相續人ニ關スル慣習……………一五
 未婚ノ男戸主死亡シタル場合ノ相續……………一五

民事訴訟法

民事裁判所ノ職務權限……………一六
 養子確認ノ訴ノ相手方……………一六
 裁判上ノ自白……………一六
 民事訴訟法第二百一十一條第二百十二條ニ規定スル辯論中止ノ申
 立ニ印紙ヲ要スルヤ……………一七
 當事者ノ申立テタル事物ノ範圍……………一七
 民事判決ノ說示方……………一七
 判決ノ誤謬更正……………一七
 自作文書ノ效力……………一八
 第三者ノ作成ニ係ル私署證書ノ效力……………一八
 舊民事訴訟法第三百四十六條第一項ノ證據方法ノ申立
 當事者本人ノ訊問……………一九

控訴審ニ於ケル第一審訴訟資料ニ關スル辯論……………二〇
 舊民事訴訟法第三百九十八條……………二〇
 新民事訴訟法ニ於ケル證人ノ勾引ニ就テ……………二〇

刑法

刑法第五十四條第一項第五十五條ノ適用……………二〇
 代理名義ノ冒用ニ關スル文書偽造罪……………二二
 刑法第二百四十條……………二三

刑事訴訟法

改正刑事訴訟法第五十六條……………二三
 刑事判決ニ於ケル證據說明……………二三
 被告人ノ不利益變更……………二三
 法廷内ノ處罰事犯ノ上告手續……………二三
 改正刑事訴訟法第五百五十六條上訴理由ノ有無……………二四

雜

朝鮮刑事令第六條ニ所謂移送決定ヲ爲スヘキ裁判所ノ意義ニ

就テ……………二五

民法施行法第十九條ノ法人……………二六

共通法ノ解釋……………二六

登記申請ノ代理……………二六

裁判上ノ和解ニ因ル登記申請……………二七

判例調査會決議要旨

民法

○査定前ニ爲シタル證明ノ第三者ニ對スル效力
 他人ニ所有權ヲ信託移轉シ受託者名義ヲ以テ土地調査令ニ依ル所有權申
 告ヲ爲シ且其ノ名義ニ於テ査定確定シ而シテ其ノ申告後信託者ニ於テ信
 託ヲ解除シテ所有權ヲ回復シタルトキハ其ノ回復シタル所有權ニ付更ニ
 證明又ハ登記ヲ爲スニ非サレハ假令其ノ申告前所有權取得ノ證明ヲ經由
 シ現ニ其ノ證明名義人ナリトスルモ之ヲ以テ査定名義人ヨリ所有權ヲ取
 得シタル第三者ニ對抗スルコト能ハサルモノトス (大正一三、七、三)

○民法第七十七條ニ所謂第三者ノ意義
 被相續人カ其ノ所有ニ係ル不動産ニ付物權ノ設定又ハ移轉ヲ爲シ未タ登
 記ヲ經サルニ家督相續開始シ其ノ後相續人カ更ニ爲シタル處分ニ因リテ
 物權ヲ取得シタル者モ亦民法第七十七條ニ所謂第三者ニ該當ス (大正
 一三、七、一六)

○泥生地ノ所有權取得ニ關スル慣習

司法協會雜誌
卷號 頁

三
七
四五

三
八
六七

朝鮮ニ於テ河川ニ沿ヒタル土地カ洪水ノ爲陷落(江落)シ附近又ハ對岸ニ泥生地ヲ生シタルトキハ陷落地ノ從前ノ所有者カ當然泥生地ノ所有權ヲ取得ストノ慣習ハ土地査定ノ終リタル大正七年頃ヨリ廢滅ニ歸シタルモノトス (大正一三、九、二四)

○流 抵 當

債務ノ履行ニ代ヘテ給付スヘキコトヲ約シタル物又ハ權利ノ價額カ債務額ヲ超過シ著シク不權衡ナル場合ニ於テ其ノ契約カ債務者其ノ他ノ者ノ輕率無經驗又ハ急迫ナル困窮ニ乘シテ締結セラレタルモノト認ムルトキハ公序良俗ニ反スルモノトシテ之ヲ無効ト爲スヘキモノトス (大正一三、六、四)

○流 抵 當 特 約 ノ 効 力 ニ 就 テ

流 抵 當 ノ 特 約 ハ 別 段 ノ 意 思 表 示 ナ キ 限 リ 期 限 經 過 ト 同 時 ニ 代 物 辨 濟 ノ 効 力 ヲ 生 ス ル コ ト ナ ク 抵 當 不 動 產 ニ 付 所 有 權 移 轉 ノ 登 記 ヲ 爲 シ タ ル ト キ ニ 於 テ 其 ノ 効 力 ヲ 生 セ シ ム ル 約 旨 ノ モ ノ ト 觀 ル ヲ 相 當 ト ス (昭 和 四、一〇、一六)

○假登記所有權者ノ抵當權滌除

假登記所有權者ハ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得ス (大正一四、二、一八)

○履行不能ノ意義

不 動 產 ノ 所 有 者 カ 其 ノ 不 動 產 ヲ 他 ニ 讓 渡 シ タ ル 後 更 ニ 第 三 者 ニ 讓 渡 シ 其 ノ 所 有 權 移 轉 登 記 ヲ 了 シ タ ル ト キ ハ 之 ヲ 第 三 者 ヲ 回 復 シ テ 最 初 ノ 買 主 ニ 移 轉 ス ル コ ト ハ 物 理 的 ニ ハ 不 能 ナ リ ト 謂 フ コ ト ヲ 得 サ ル モ 取 引 上 ノ 通 念 ニ 於 テ 一 應 不 能 ナ リ ト 解 ス ル ヲ 相 當 ト ス ル ニ 依 リ 最 初 ノ 買 主 ニ 對 シ テ 負 擔 ス ル 賣 主 ノ 債 務 ハ 敝 上 ノ 如 キ 事 由 ノ 發 生 ニ 因 リ 履 行 不 能 ノ 狀 態 ニ 陷 リ タ ル モ ノ ト 推 定 ス ヘ キ モ ノ ト ス (大 正 一 二、六、一四)

○填補賠償

債 務 者 カ 契 約 上 ノ 債 務 履 行 ヲ 遲 滯 シ タ ル 場 合 ニ 於 テ 債 權 者 ハ 直 ニ 履 行 ニ 代 ハ ル 損 害 賠 償 (填 補 賠 償) ヲ 請 求 ス ル コ ト ヲ 得 ス 但 シ

- (一) 履 行 不 能 ナ ル ト キ
- (二) 契 約 ノ 性 質 若 ハ 當 事 者 ノ 意 思 表 示 ニ 依 リ 期 限 後 ノ 履 行 ニ 依 リ テ ハ 契 約 ヲ 爲 シ タ ル 目 的 ヲ 達 ス ル コ ト 能 ハ サ ル ト キ
- (三) 期 限 後 ノ 履 行 ハ 債 權 者 ノ 利 益 ト 爲 ラ ス 且 其 ノ 事 情 ノ 債 務 者 ニ 於 テ 豫 知 シ 得 ヘ キ ト キ
- (四) 債 權 者 カ 相 當 ノ 期 間 ヲ 定 メ テ 履 行 ヲ 催 告 シ タ ル ニ 拘 ラ ス 其 ノ 期 間 内 ニ 履 行 ヲ 爲 サ サ ル ト キ

二
八
七

| | | |
|----|---|---|
| 三 | 三 | 三 |
| 一〇 | 二 | 四 |
| 六 | 二 | 五 |
| 六 | 二 | 五 |

等ノ如キハ契約ヲ解除スルコトナクシテ直ニ履行ニ代ハル損害賠償ヲ請求スルコトヲ得(三及四ノ場合ニ於テモ履行ヲ拒絶シ得ヘキハ當然ナリ)
(大正一三、一、三〇)

○虚偽ノ意思表示ト民法第四百二十四條ノ

取消權トノ關係

債權者ハ債務者カ其ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ他ト通シテ爲シタル虚偽ノ法律行爲ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得 (大正一三、三、二〇)

○虚偽ノ申告ニ因ル査定

申告者カ所有權ヲ有セサルニ拘ラス虚偽ノ申告ヲ爲シ査定ノ結果申告者ノ所有ト確定シタルトキ其ノ査定カ申告者ノ不法行爲ニ原因スルコト判然タル場合ニ於テハ假令其ノ申告者ハ査定ノ效果トシテ所有權ヲ取得スルニ至リタルニモセヨ眞實ノ所有者ニ對シテハ其ノ權利ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ不法行爲ニ因ル損害ヲ賠償スルノ責任アリ (大正一二、八、一一)

○朝鮮人ノ親族ノ範圍

朝鮮ニ於ケル慣習上ノ親族ノ範圍ハ極メテ廣汎ニシテ本宗及異姓ノ有服親ハ勿論祖免親及無服親ノ全體ヲ謂フモノナルモ开ハ同始祖ノ祭祀若ハ

三
二
四九

三
一
五〇

二
九
五〇

血族以外ノ者ノ喪禮等ニ因ル相互間ノ誼禮ヲ本トスルモノニシテ全部親族トシテ特別ノ法律關係ヲ認メタルモノニ非ス斯クノ如ク儀奠風習上ノ規範ト異ナリ法的生活ノ規範關係トシテハ特ニ血族及姻族ノ有服親ニ限局セラレ來リシコトハ顯著ナル處ニシテ乃チ有服ノ近親ノミヲ法令上ノ親族ト爲ス慣習ナリト謂ハサルヘカラス而シテ有服親ノ範圍左ノ如シ

- (一) 父
- (二) 祖父
- (三) 曾祖父
- (四) 高祖父
- (五) 夫
- (六) 子
- (七) 子婦
- (八) 孫女
- (九) 曾孫
- (十) 長曾孫婦
- (十一) 玄孫女
- (十二) 兄弟

- (一) 母
- (二) 祖母
- (三) 曾祖母
- (四) 高祖母
- (五) 妻
- (六) 女
- (七) 孫
- (八) 孫婦
- (九) 曾孫女
- (十) 玄孫
- (十一) 長玄孫婦
- (十二) 姊妹

- (一)兄弟ノ妻
- (二)姪女
- (三)從孫(=姪孫)
- (四)從孫婦
- (五)從會孫女
- (六)伯叔母(伯叔父ノ妻ヲ云フ)
- (七)從兄弟
- (八)從兄弟ノ妻
- (九)從姪女
- (十)再從孫(從姪孫)
- (十一)從祖父(伯叔祖父)
- (十二)大姑(伯叔祖母即チ伯叔父ノ妻ヲ云フ)
- (十三)從伯叔母(伯叔從父ノ妻ヲ云フ)
- (十四)再從兄弟
- (十五)再從姪
- (十六)從會祖父(曾祖伯叔父)
- (十七)會大姑(曾祖伯叔母即チ曾祖伯叔父ノ姉妹ヲ云フ)

- (一)姪
- (二)姪婦
- (三)從孫女
- (四)從會孫(曾姪孫)
- (五)伯叔父
- (六)姑(伯叔母即チ伯叔父ノ姉妹ヲ云フ)
- (七)從姊妹
- (八)從姪
- (九)從姪婦
- (十)再從孫女
- (十一)從祖母(伯叔祖父ノ妻ヲ云フ)
- (十二)從伯叔父(伯叔從父)
- (十三)從姑(伯叔從母即チ伯叔父ノ姉妹ヲ云フ)
- (十四)再從姊妹
- (十五)再從姪女
- (十六)從會祖母(曾祖伯叔父ノ妻ヲ云フ)
- (十七)再從祖父(從祖伯叔父)

- (一)再從祖母(從祖伯叔父ノ妻ヲ云フ)
- (二)再從伯叔父
- (三)再從姑
- (四)三從姊妹
- (五)外祖母(外叔父ノ妻ヲ云フ)
- (六)外從兄弟(外叔父ノ子ヲ云フ)
- (七)外從兄弟(外叔父ノ子ヲ云フ)
- (八)姨從兄弟(外叔母ノ子ヲ云フ)
- (九)女壻
- (十)外孫女
- (十一)甥姪
- (十二)甥姪婦
- (十三)內從姊妹(伯叔母即チ伯叔父ノ姉妹ノ女ヲ云フ)
- (十四)妻ノ母
- (十五)夫ノ母
- (十六)夫ノ祖母
- (十七)夫ノ曾祖母

- (一)再從大姑(從祖伯叔母即チ從祖伯叔父ノ姉妹ヲ云フ)
- (二)再從伯叔母
- (三)三從兄弟
- (四)外祖父
- (五)外叔父
- (六)姨母(外叔母即チ外叔父ノ姉妹ヲ云フ)
- (七)外從姊妹(外叔父ノ女ヲ云フ)
- (八)外從姊妹(外叔母ノ女ヲ云フ)
- (九)外孫
- (十)外孫婦
- (十一)甥姪女
- (十二)內從兄弟(伯叔母即チ伯叔父ノ姉妹ノ子ヲ云フ)
- (十三)妻ノ父
- (十四)夫ノ父
- (十五)夫ノ祖父
- (十六)夫ノ曾祖父
- (十七)夫ノ高祖父

- (三) 夫ノ高祖母
- (四) 夫ノ姉妹
- (五) 夫ノ姪
- (六) 夫ノ姪婦
- (七) 夫ノ從孫女
- (八) 夫ノ從曾孫
- (九) 夫ノ伯叔父
- (一〇) 夫ノ姑
- (一一) 夫ノ從姊妹
- (一二) 夫ノ從姪
- (一三) 夫ノ從姪婦
- (一四) 夫ノ再從孫女
- (一五) 夫ノ從祖母
- (一六) 夫ノ從伯叔父
- (一七) 夫ノ從姑

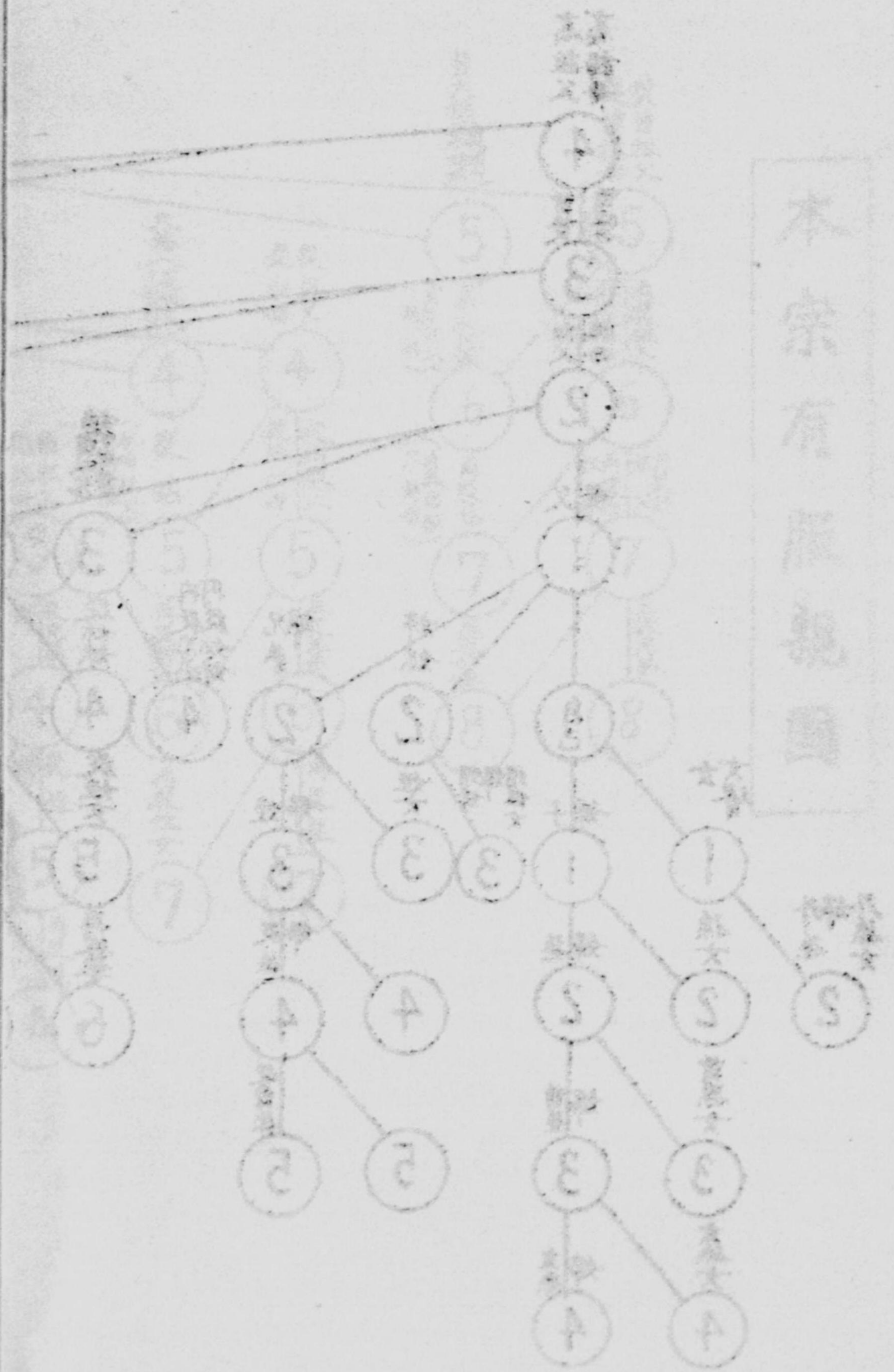
- (一八) 夫ノ兄弟
- (一九) 夫ノ兄弟ノ妻
- (二〇) 夫ノ姪女
- (二一) 夫ノ從孫
- (二二) 夫ノ從孫婦
- (二三) 夫ノ從曾孫女
- (二四) 夫ノ伯叔母
- (二五) 夫ノ從兄弟
- (二六) 夫ノ從兄弟ノ妻
- (二七) 夫ノ從姪女
- (二八) 夫ノ再從孫
- (二九) 夫ノ從祖父
- (三〇) 夫ノ大姑
- (三一) 夫ノ從伯叔母
- (三二) 夫ノ再從姪

- (三三) 夫ノ再從姪女
- (三四) 夫ノ外祖母

- (三五) 夫ノ外祖父
- (三六) 夫ノ外叔父

以上ノ親等關係等ヲ明白ナラシムル爲圖解スレハ別表ノ如シ (大正一三、
一一、一九)

本宗有服親圖



圖一 本宗有服親圖

圖一 本宗有服親圖

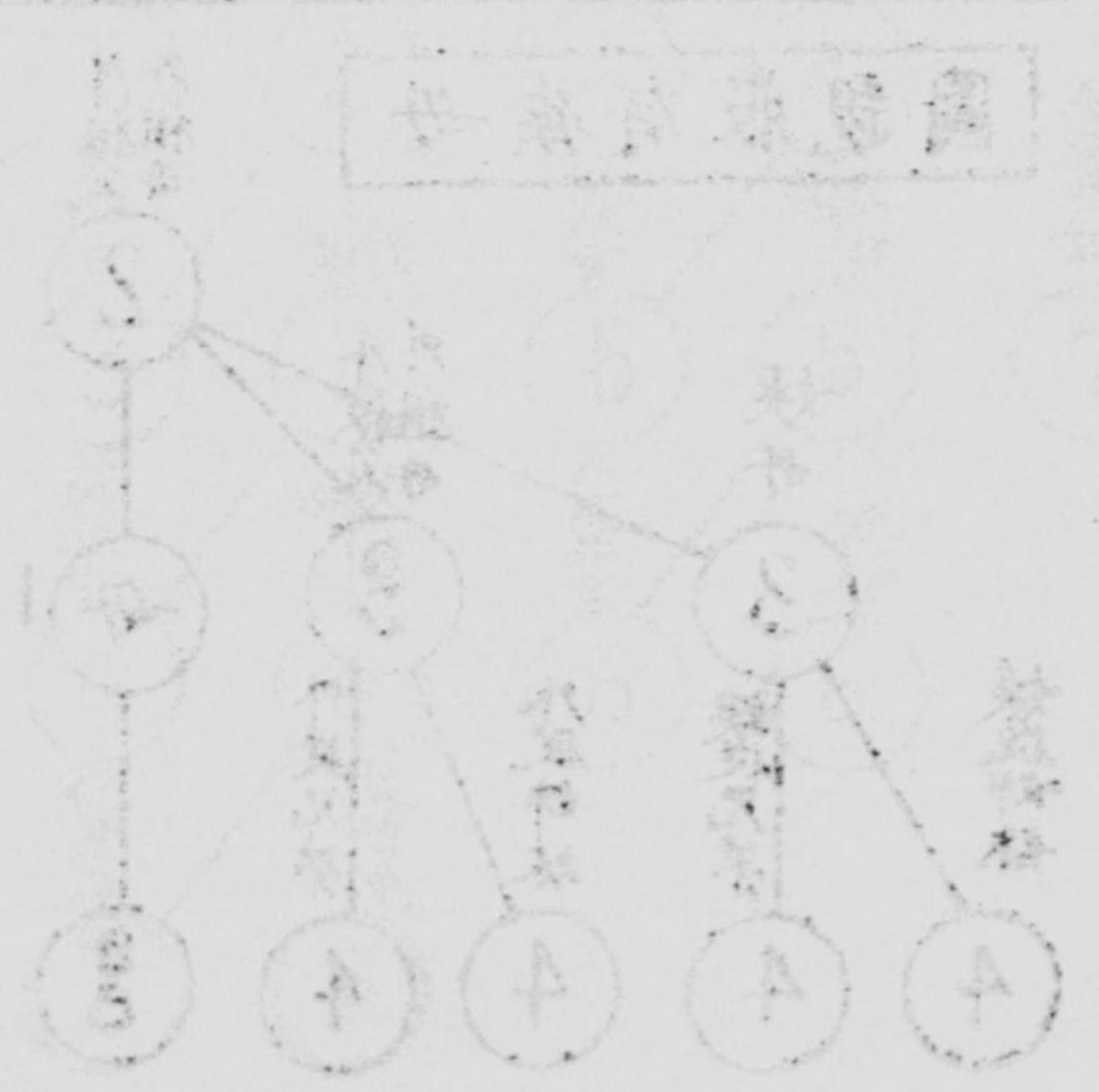
Vertical text on the right page, likely a title or a list of names, including characters like 宗, 親, 圖, 一, 本.

天 國 通 承 系 圖



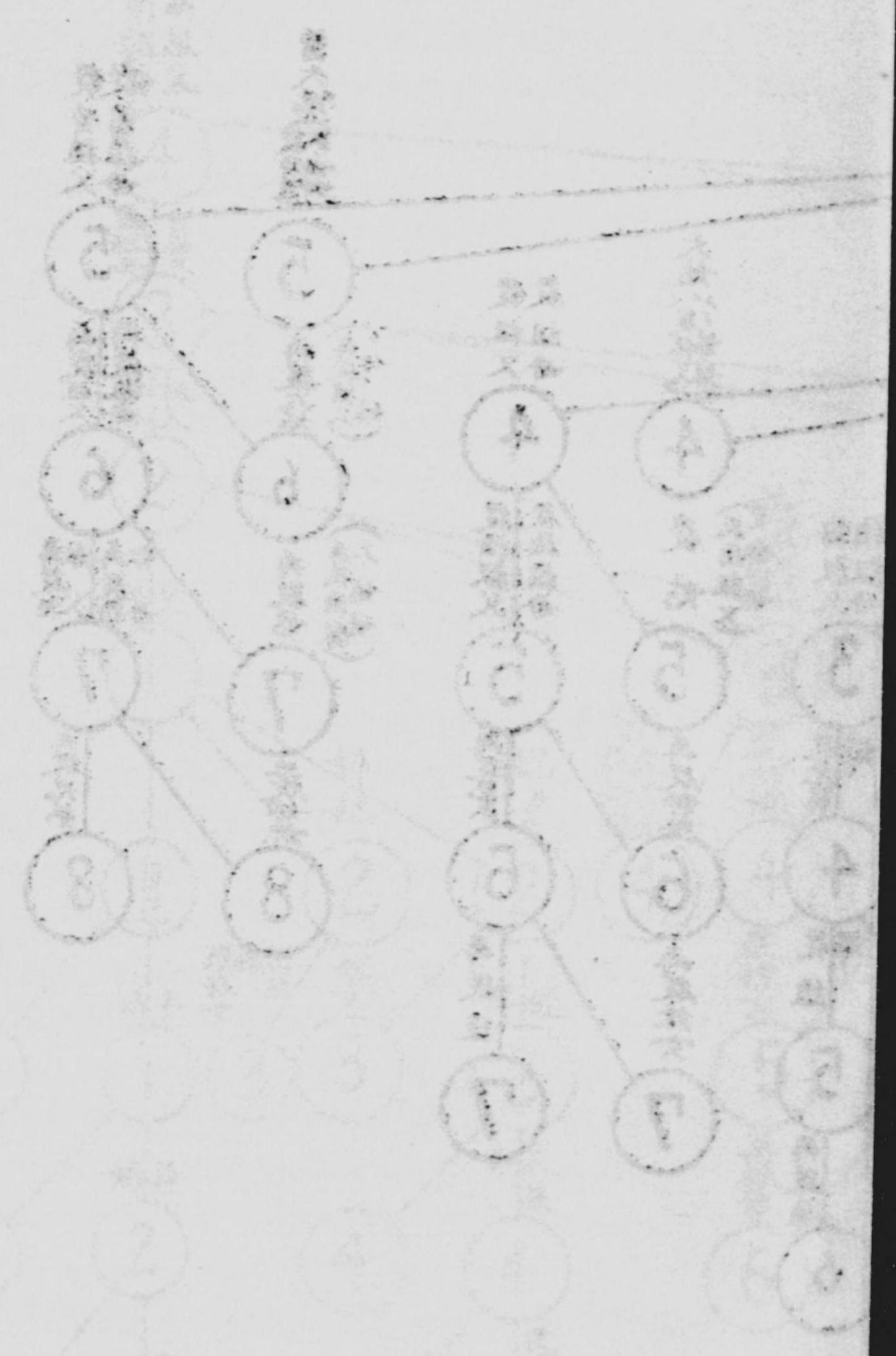
天 國 通 承 系 圖

國 通 承 系 圖



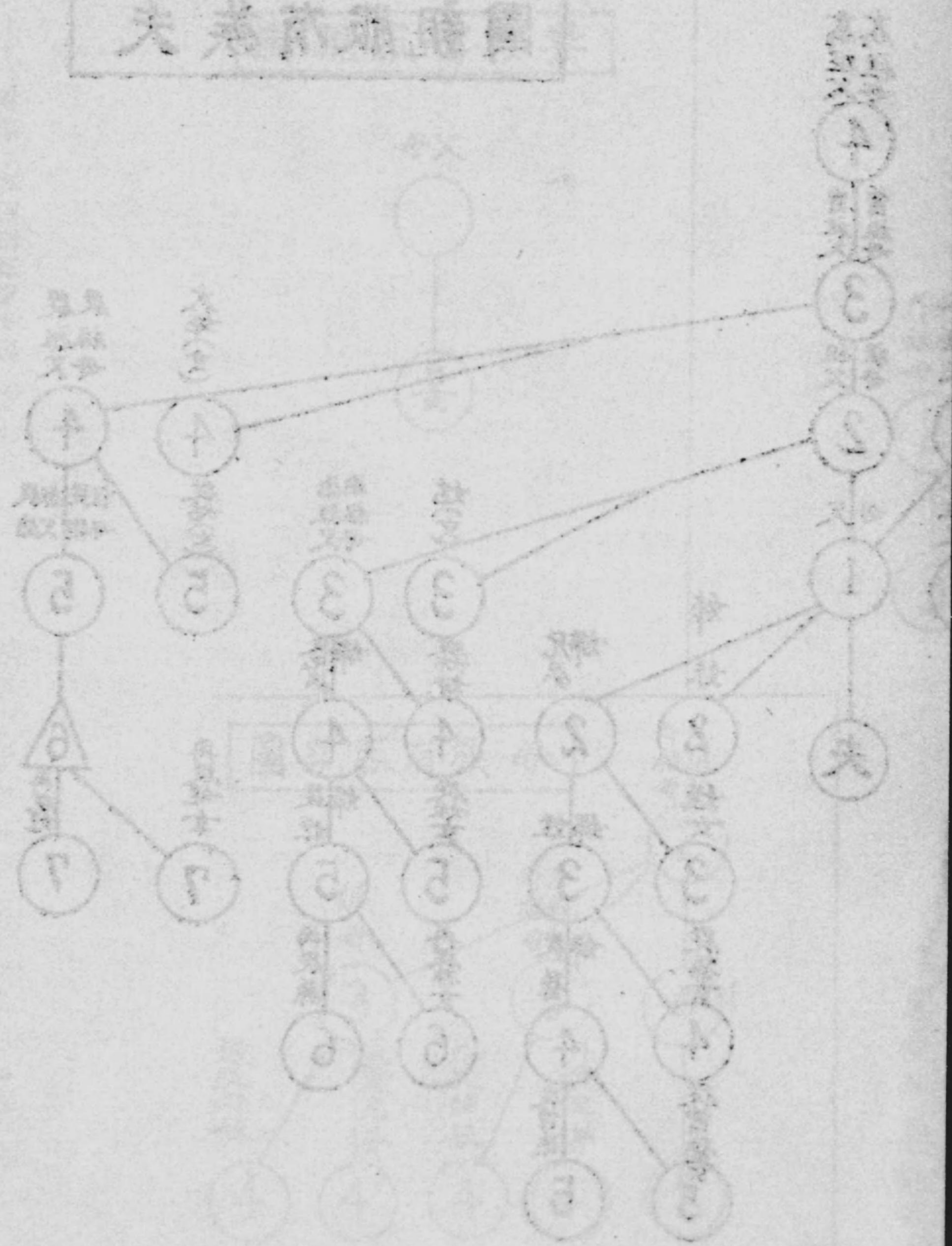
國 通 承 系 圖

國 通 承 系 圖



國 通 承 系 圖

夫若前婚時圖



○内鮮人間ノ入夫婚姻ニ關スル件

現ニ祭祀者タリ又ハ將來祭祀者タルヘキ朝鮮人男カ入夫婚姻ニ因リ内地人女戸主ノ家ニ入ラントスル場合ニ於テ市町村長カ其ノ届出ヲ受理シタルトキハ朝鮮人男ハ従前ノ家ヲ去ルモノトス (昭和四、七、七)

○次養子ニ關スル慣習ニ就テ

次養子ハ戸主相續財産相續其ノ他親族法上ノ事項ニ關シテハ之ヲ普通ノ養子ト認ムヘキモノトス (昭和二、九、二一)

○相續人ニ關スル慣習

朝鮮ニ在リテハ未婚ノ男戸主死亡シタル場合ニ於テ其ノ弟アルトキハ所謂兄亡弟及ノ法則ニ從ヒテ弟其ノ家ノ祭祀相續ヲ爲シ亡兄ノ戸主權及財産ヲ承繼スルノ慣習存ス但シ祭祀關係ニ於テハ未婚ノ前戸主ヲ世代ニ加ヘス弟ハ直接前々戸主タリシ亡父ヲ承繼シタルモノト看做サルモノトス (大正一三、一、一六)

○未婚ノ男戸主死亡シタル場合ノ相續

未婚ノ男戸主死亡シタル場合ニ認知シタル庶出ノ男子アルトキハ此ノ庶子ヲシテ相續(戸主相續及祭祀相續)セシムヘキモノトス (大正一五、一二、二二)

| | | | | |
|----|----|----|----|---|
| 六 | 三 | 六 | 八 | 二 |
| 一 | 一 | 一〇 | 七 | 五 |
| 三九 | 二九 | 四三 | 三七 | 四 |

民事訴訟法

○民事裁判所ノ職務權限
 民事裁判所ハ必要アルトキハ他ノ裁判所々在地ニ於テ其ノ職務ヲ行使スルコトヲ得 (大正一三、五、二一)

○養子確認ノ訴ノ相手方
 朝鮮ニ於テ亡戸主ノ養子タルコトヲ主張スル者ヨリ提起スル養子確認ノ訴ハ亡戸主ノ配偶者ヲ以テ相手方トスヘク亡戸主ノ配偶者カ死亡シタル後ハ檢事ヲ以テ相手方トスヘキモノトス (大正一四、七、一)

○裁判上ノ自白
 裁判上ノ自白ハ相手方ノ主張セル自己ニ不利益ナル事實ニ付之ヲ眞實ナリトシテ裁判ノ基礎タラシムル意思表示ナリ自白ノ對象ハ當事者ノ一方ニ不利益ナル相手方ノ主張事實ニ限ル而シテ自白ヲ組成スヘキ陳述ハ一般ニ相手方ノ主張ノ後ニ爲サルヲ通例トスレトモ其ノ以前ニ於テ爲サレタル陳述ト雖相手方ニ於テ之ニ適應スル主張ヲ爲シ之ヲ裁判ノ基礎ト爲サントスルニ當リ當事者ノ一方カ遲滯ナク以前ノ陳述ヲ撤回セサルトキハ之ニ因リ其ノ陳述ハ自白ヲ構成スルモノトス (大正一二、七、二六)

| | | |
|---|---|----|
| 三 | 六 | 六 |
| 四 | 七 | 三 |
| 二 | 九 | 四九 |

○民事訴訟法第二百一十一條第二百二十二條ニ規定スル辯論中止ノ申立ニ印紙ヲ要スルヤ

民事訴訟用印紙法第十條ニ所謂申立又ハ申請トハ裁判所ニ對シ一定ノ行動ヲ要求スル意思表示ニシテ裁判所カ此ノ申立又ハ申請ニ基キ一定ノ行動ヲ執ルヘキ場合ヲ指稱シ辯論中止ノ申立ノ如ク裁判所ノ職權行動ヲ促シ裁判所カ職權ヲ以テ一定ノ行動ヲ執ルヘキ場合ヲ包含スルモノニ非サルニ依リ辯論中止ノ申立ニハ同條所定ノ印紙ヲ要セサルモノトス (大正一三、三、一九)

○當事者ノ申立テタル事物ノ範圍

原告カ被告ヨリ或物ニ付所有權ヲ取得シタルト主張シタル場合ニ於テハ其ノ共有持分ニ付權利ヲ取得シタル旨ノ主張ヲモ之ニ包含スルモノト解スヘキモノトス (大正一五、一、二〇)

○民事判決ノ說示方

民事判決ノ理由ニ於テ事實認定ヲ說示スルニハ各個ノ爭點若ハ一爭點ニ屬スル各個ノ事項ニ付之ニ關スル證據ヲ分別舉示シ以テ之カ取捨判斷ヲ明示スヘキモノトス (大正一五、一、二七)

○判決ノ誤謬更正

| | | |
|---|---|----|
| 三 | 六 | 六 |
| 五 | 二 | 五 |
| 六 | 二 | 三九 |

判決言渡後判決中ノ著シキ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ誤謬カ
裁判所ノ過失ニ基キタルモノナルト又ハ當事者ノ申立ノ誤謬ニ因リ生シ
タルモノナルトヲ問ハス裁判所ハ民事訴訟法第二百四十一條第一項ニ依
リ之ヲ更正シ得ヘキモノトス (大正一三、一、一六)

○自作文書ノ效力

舉證者カ訴訟ノ爲ニ作成シタル文書ハ證據力ナシ
舉證者ノ作成シタル其ノ他ノ文書ハ其ノ成立カ真正ナル場合ニ限り證據
方法トシテ使用シ得ヘク若其ノ成立ニ付争アルトキハ舉證者ハ之ヲ立證
スルコトヲ要ス

前項ノ文書ハ其ノ記載内容カ眞實ニ適合スルコトヲ信セシムヘキ特別ノ
事情(辯論ノ全趣旨又ハ證據)アル場合ニ限り採用シ得ヘキモノトス
(大正一二、一一、一五)

○第三者ノ作成ニ係ル私署證書ノ效力

第三者ノ作成ニ係ル私署證書ノ成立ノ眞否ニ付争アルトキハ裁判所ハ證
據調ノ結果ニ依ルカ又ハ辯論ノ全趣旨其ノ他證書ノ形式(會社ノ商業帳
簿銀行ノ預金通帳等ノ如キ形式)ヲ斟酌シテ其ノ成立ノ眞正ナルコトヲ
認定セサルヘカラス (大正一三、九、三)

| | |
|----|----|
| 三 | 一 |
| 二〇 | 二九 |
| 三 | 二二 |
| 三 | 四六 |

○民事訴訟法第三百四十六條第一項ノ證據方法ノ申立

舉證者ノ使用セムトスル證書ニシテ受訴裁判所ノ保管ニ現存(受訴裁判
所ニ於テ現ニ保管セストモ其ノ同廳内裁判所若ハ檢事局ニ現存シ特ニ囑
託ナル手續ヲ須キス便宜交渉ノ上即時ニ入手シ得ヘキトキヲ包含ス)シ
受訴裁判所カ其ノ日ノ口頭辯論ヲ中絶セシムルコトナク之ヲ法廷ニ顯出
セシメテ證據調ヲ爲シ得ヘキ場合ニハ舉證者ハ民事訴訟法第三百四十六
條第一項ニ依ル證據方法ノ申立ニ據ラス單ニ其ノ證書ヲ表示シ顯出ヲ求
メテ之ヲ援用スルヲ以テ足ル (大正一二、九、六)

○當事者本人ノ訊問

當事者本人ノ訊問ハ補充的證據方法ナルカ故ニ他ノ許スヘキ證據ヲ取調
ヘタル後事實ノ眞否ニ付心證ヲ得ルニ足ラサルトキ之ヲ爲スヘキモノニ
シテ何等ノ證據ヲ取調ヘサル場合ニ之ヲ爲スヘキモノニ非ス又本人訊問
ノ結果ハ他ノ證據ト綜合シテ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得ルモ單獨ニ
テ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得ス

當事者ノ一方ハ本人自ラ訴訟ヲ爲ス場合ナルト訴訟代理人ニ委任シ訴訟
行爲ヲ爲ス場合ナルトヲ問ハス相手方本人ノ訊問ヲ申立ツルコトヲ得ル
モ自己本人ノ訊問ヲ申立ツルコトヲ得ス (大正一二、一一、一)

| | |
|----|----|
| 二 | 二〇 |
| 二二 | 五七 |
| 四五 | |

○控訴審ニ於ケル第一審訴訟資料ニ關スル辯論

控訴裁判所ハ當事者ヲシテ不服ノ申立ヲ理由アリトシ若ハ原判決ヲ正當ナリトスルニ必要ナル限度ニ於テ第一審ノ判決及其ノ基礎トナリタル總テノ訴訟關係竝ニ證據調ノ結果ニ付辯論ヲ爲サシムルコトヲ要ス而シテ之ニ因リテ第一審ニ於ケル事實ノ主張(自白ヲ含ム)及證據調ハ控訴審ニ於テ亦當然其ノ效力ヲ有スルモノトス (大正一四、一〇、二八)

○民事訴訟法第三百九十八條

當事者ノ責ニ歸スヘキ原因ナクシテ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲ニノミ出頭スルコト能ハサル事由存スルトキハ當事者ニ故障ヲ許ササル闕席判決ノ言渡ヲ受クヘキ法律上ノ事由存セサルモノトス (大正一二、六、七)

○民事訴訟ニ於ケル證人ノ勾引ニ就テ

新民事訴訟法第二百七十八條ノ規定スル證人ノ勾引ニ付テハ執達吏職務取扱者ニ於テ之カ令狀ノ執行ヲ爲スヘキモノトス (昭和四、一一、二〇)

刑 法

○刑法第五十四條第一項第五十五條ノ適用

- (一)數個ノ罪名ニ觸ルル行爲カ他ノ行爲トノ間ニ連續犯タル關係アル場合
- (二)相互間ニ手段結果ノ牽連關係アル行爲ノ一若ハ總テカ他ノ行爲トノ間ニ連續犯タル關係アル場合又ハ(三)牽連關係アル行爲ノ一若ハ總テカ同時ニ一面數個ノ罪名ニ觸レ且他面連續犯タル關係アル場合ニ於テハ之等ノ關係ニ對シテハ夫々(一)刑法第五十四條第一項前段第五十五條(二)刑法第五十四條第一項後段第五十五條(三)刑法第五十四條第一項前段及後段第五十五條ヲ適用綜括シ其ノ最重キ刑ニ依リ一罪トシテ處斷スルヲ以テ足リ各個ノ當該關係ニ付個々ニ之等條項ノ適用ヲ爲スヲ要セサルノミナラス其ノ適用ノ順序如何ハ法律ノ問フ所ニ非ス (大正一二、八、二五)

○代理名義ノ冒用ニ關スル文書偽造罪

他人ノ代表者又ハ代理人カ一定ノ行爲ヲ爲スノ權限上其ノ代表若ハ代理名義ヲ用キ又ハ直接ニ本人ノ署名若ハ商號ヲ用キテ文書ヲ作成スルコトヲ得ル場合ナルトキハ偶々其ノ地位ヲ濫用シテ單ニ自己又ハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ其ノ代表若ハ代理名義又ハ本人ノ署名若ハ商號ヲ冒用シテ文書ヲ作成シタルトキト雖文書偽造罪ヲ構成セスト爲スヲ妥當トス之ニ反シ全然權限外ノ事項ニ屬スルモノニ係ルトキハ私法上本人ニ對シテ效力ヲ生セサルハ勿論他人ノ作成名義ヲ冒用シテ文書ヲ作成シ

| | | |
|---|---|---|
| 六 | 二 | 八 |
| 二 | 八 | 二 |
| 六 | 二 | 七 |
| 八 | 二 | 七 |

| | | |
|---|----|---|
| 二 | 一〇 | 五 |
|---|----|---|

タルト異ナラサルニ依リ文書偽造罪ヲ構成ス
代理人カ權限ヲ超越シテ爲シタル事項ニ付名義冒用ニ因ル文書ヲ作成シ
タルトキ例之千圓ヲ借入ルヘキ權限ヲ有スル者カ自己又ハ第三者ノ利益
ヲ圖ル目的ヲ以テ擅ニ五千圓ヲ借入レ同金額ノ借用證書ヲ作成シタルト
キハ包括的ニ觀察シテ五千圓ニ對スル文書偽造罪ヲ構成ス

代理人カ代理權ノ制限ニ反シテ爲シタル事項ニ付名義冒用ニ因ル文書ヲ
作成シタル場合ニ於テ其ノ代理權ニ加ヘタル制限ニシテ第三者ニ對抗ス
ルコトヲ得サルモノナルトキハ其ノ代理人ノ爲シタル行爲ノ效力ハ當然
本人ニ及ヒ其ノ第三者ニ對スル關係ニ於テハ宛モ權限内ノ行爲ヲ爲シタ
ルト異ナル所チキニ歸スルヲ以テ文書偽造罪ヲ構成セス (大正一二、七、五)

○刑法第二百四十條

強盜ヲ爲ス者故意ヲ以テ人ヲ殺シタル場合ニハ第二百四十條ノミヲ適用
シ被結合罪タル殺人罪ノ法條(第九十九條)ハ之ヲ適用スヘカラス
(大正一二、五、三)

刑事訴訟法

○改正刑事訴訟法第五十六條

改正刑事訴訟法施行後ニ於テ通事ヲ經テ被告人被疑者又ハ證人等ヲ訊問
シタル場合ニ於テ同法第五十六條ニ依リ其ノ訊問調書ニ供述者トシテ署
名捺印セシムヘキ者ハ被告人、被疑者又ハ證人等本人ナリトス (大正一
二、九、二七)

○刑事判決ニ於ケル證據說明

有罪ヲ言渡ス判決ニ於テ證據ニ依リ罪トナルヘキ事實ヲ認メタル理由ヲ
説明スルニハ必スシモ證據方法ノ内容ヲ舉示スルコトヲ要セス (大正一
三、一、一六)

○被告人ノ不利益變更

刑事訴訟法第四百三條及第四百五十二條ニ被告人上訴ヲ爲シ又ハ被告人
ノ爲ニ上訴ヲ爲シタル事件ニ付テハ原判決ノ言渡シタル刑ヨリ重キ刑ヲ
言渡スコトヲ得スト規定セルハ單ナル附隨處分ノ如キハ原判決ニ拘ラス
其ノ相當ト認ムル所ニ從ヒテ判定スルヲ妨ケサルモ刑ノ實質ヲ重カラシ
ムルコトハ總テ之ヲ禁シタルモノト解スヘキモノトス故ニ刑其ノモノヲ
重カラシムルコトハ勿論刑ノ執行猶豫ニ關シ原審ヨリ重キ負擔ヲ言渡ス
コトモ亦同條ニ依リ許サレサルモノト謂ハサルヘカラス (大正一三、四、二)

○法廷内ノ處罰事犯ノ上告手續

三
五
八七

三
一
二七

二
三
四五

二
八
七

二
九
四七

裁判所カ裁判所構成法第九條ニ依リ罰金若ハ拘留ノ處分ヲ言渡シタル場合ニ此ノ處罰ニ對シ同條第三項ノ規定ニ從ヒ上告ノ申立アリタルトキハ其ノ手續ハ刑事訴訟ニ於ケル上告手續ニ依リテ完結スルヲ以テ該處罰ノ目的ニ最モ適合スルモノト認ムヘキニ依リ本案カ民事事件ナルトキト雖右上告ニハ刑事訴訟法ヲ適用スヘキモノトス (大正二、六、一四)

○改正刑事訴訟法第五百五十六條上訴理由ノ有無

(一) 檢事ニ非サル者ノ控訴ニ基キ控訴裁判所ノ刑ヲ言渡シタル判決ニシテ左ノ各項ニ該當スルモノハ刑事訴訟法第五百五十六條第一項第二號ニ所謂控訴ノ理由アリタルモノトス

イ、主刑、附加刑、刑ノ執行猶豫、追徴金、罰金若ハ科料ニ代ル勞役場留置期間又ハ控訴申立前ノ未決勾留日數ノ通算(訴訟費用ノ負擔、押收物ノ還付處分ヲ除ク)ニ關シ第一審判決ニ比シ被告ニ利益ナルトキロ、主文同一ナルモ第一審判決カ法令ノ適用ニ付法律上判決ニ影響ヲ及ホスヘキ瑕疵アリタルトキ

(二) 檢事ニアラサル者ノ上訴ニ基キ上告審カ判決ヲ爲シタル場合ニ於テ

(1) 其ノ判決カ上告ヲ棄却シタルモノナルトキハ上訴申立後ノ未決勾留日數中上告申立後ノ分ハ本刑ニ通算セス控訴申立後ノ分ハ控訴ノ理

由ノ有無ニ依リ通算ト否トヲ決スヘク

(2) 其ノ判決カ上告理由アリトシ控訴審判決ヲ破毀シタルモノナルトキハ同上日數中上告申立後ノ分ハ本刑ニ通算シ控訴申立後ノ分ハ

イ、若上告審カ自判シテ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ此ノ判決ト第一審判決トヲ對照シ一ノイ、ロ、ニ準シ控訴理由ノ有無ヲ定メテ通算ト否トヲ決スヘク

ロ、又若上告審カ自判セスシテ控訴審ニ差戻シ控訴審カ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ此ノ新控訴審判決ト第一審判決トヲ對照シ一ノイ、ロ、ニ依リ控訴理由ノ有無ヲ定メテ通算ト否トヲ決スヘキモノトス

(三) 檢事及檢事ニアラサル者ノ雙方ノ上訴ニ基キ上訴審カ刑ヲ言渡ス判決ヲ爲シタル場合ハ檢事ノ上訴申立後其ノ上訴存續中ノ未決勾留日數ハ檢事ニアラサル者ノ上訴理由ノ有無ニ拘ラス之ヲ本刑ニ通算スヘク而シテ右檢事ノ上訴ハ附帶ナルト否トヲ問ハサルモノトス (大正二、一、二、二〇)

雜

○朝鮮刑事令第六條ニ所謂移送決定ヲ爲スヘキ裁判所

ノ意義ニ就テ

事件カ豫審ニ繫屬スル場合ニ於テ朝鮮刑事令第六條ニ依リ移送決定ヲ爲スヘキ裁判所ハ地方法院合議部ニシテ同法院單獨判事ニ非ス (昭和四、九、九)

○民法施行法第十九條ノ法人

民法施行前ヨリ獨立ノ財産ヲ有スル社團又ハ財團ニシテ民法第三十四條ノ目的ヲ有スルモノハ其ノ代表者カ民法施行法第十九條第二項所定ノ主務官廳ノ認可ヲ請ハスシテ法定期間ヲ經過シタルトキト雖法人格ヲ存續ス右社團又ハ財團ハ前記認可前ニ於テハ民法施行法第二十條ノ登記ヲ爲サスシテ法人設立ヲ他人ニ對抗スルコトヲ得ヘク又其ノ代表者ニ變更アルモ登記ヲ爲サスシテ其ノ變更ヲ他人ニ對抗スルコトヲ得ヘシ (大正一二、八、一六)

○共通法ノ解釋

一ノ地域ニ於テ生シタル會社登記ノ懈怠事件ニ付他ノ地域ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得 (大正一三、一一、五)

○登記申請ノ代理

登記ノ申請ハ其ノ權利者及義務者ニ於テ各其ノ相手方ノ代理人ト爲リ又

八
九
五

二
九
五〇

六
二
三七

ハ雙方ヨリ同一ノ代理人ニ委任シテ之カ手續ヲ爲スコトヲ得 (大正一五、一、二〇)

○裁判上ノ和解ニ因ル登記申請

裁判上ノ和解ニ因ル登記ハ判決ニ因ル登記ニ準シ不動産登記法第二十七條ニ依リ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得 (大正一五、一〇、一九)

五
二
五二

五
二
四一

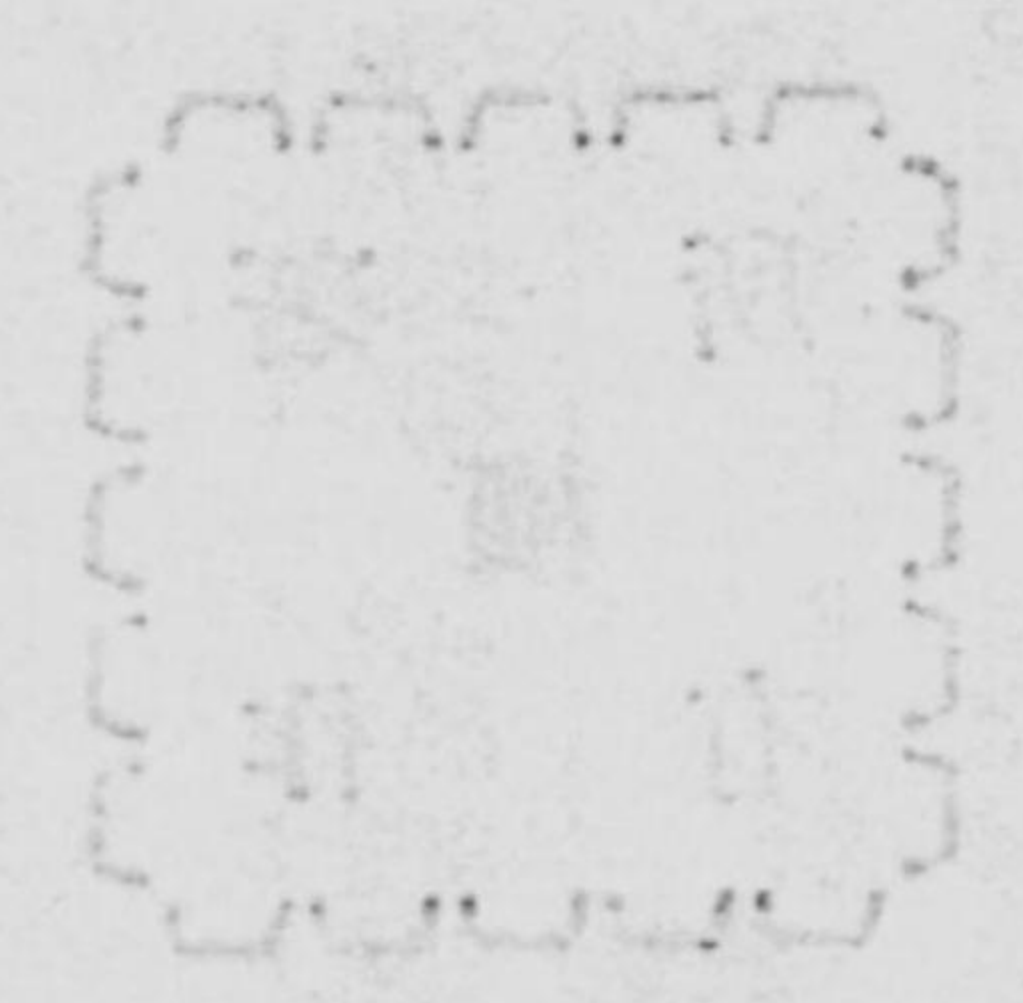
曆對照表 (明治元年以降)

| 日 | 本 | 西 | 曆 | 朝 | 鮮 | 清 | 國 | 干 | 支 |
|------|---------|---------|-----|-------|---|------|---|---|---|
| 明治 1 | 紀元2.528 | 紀元1.868 | | 開國477 | | 同治 7 | | 戊 | 辰 |
| 2 | 2.529 | 1.869 | | 478 | | 8 | | 巳 | 巳 |
| 3 | 2.530 | 1.870 | | 479 | | 9 | | 庚 | 午 |
| 4 | 2.531 | 1.871 | | 480 | | 10 | | 辛 | 未 |
| 5 | 2.532 | 1.872 | | 481 | | 11 | | 壬 | 申 |
| 6 | 2.533 | 1.873 | | 482 | | 12 | | 癸 | 酉 |
| 7 | 2.534 | 1.874 | | 483 | | 13 | | 甲 | 戌 |
| 8 | 2.535 | 1.875 | | 484 | | 光緒 1 | | 乙 | 亥 |
| 9 | 2.536 | 1.876 | | 485 | | 2 | | 丙 | 子 |
| 10 | 2.537 | 1.877 | | 486 | | 3 | | 丁 | 丑 |
| 11 | 2.538 | 1.878 | | 487 | | 4 | | 戊 | 寅 |
| 12 | 2.539 | 1.879 | | 488 | | 5 | | 己 | 卯 |
| 13 | 2.540 | 1.880 | | 489 | | 6 | | 庚 | 辰 |
| 14 | 2.541 | 1.881 | | 490 | | 7 | | 辛 | 巳 |
| 15 | 2.542 | 1.882 | | 491 | | 8 | | 壬 | 午 |
| 16 | 2.543 | 1.883 | | 492 | | 9 | | 癸 | 未 |
| 17 | 2.544 | 1.884 | | 493 | | 10 | | 甲 | 申 |
| 18 | 2.545 | 1.885 | | 494 | | 11 | | 乙 | 酉 |
| 19 | 2.546 | 1.886 | | 495 | | 12 | | 丙 | 戌 |
| 20 | 2.547 | 1.887 | | 496 | | 13 | | 丁 | 亥 |
| 21 | 2.548 | 1.888 | | 497 | | 14 | | 戊 | 子 |
| 22 | 2.549 | 1.889 | | 498 | | 15 | | 己 | 丑 |
| 23 | 2.550 | 1.890 | | 499 | | 16 | | 庚 | 寅 |
| 24 | 2.551 | 1.891 | | 500 | | 17 | | 辛 | 卯 |
| 25 | 2.552 | 1.892 | | 501 | | 18 | | 壬 | 辰 |
| 26 | 2.553 | 1.893 | | 502 | | 19 | | 癸 | 巳 |
| 27 | 2.554 | 1.894 | | 503 | | 20 | | 甲 | 午 |
| 28 | 2.555 | 1.895 | | 504 | | 21 | | 乙 | 未 |
| 29 | 2.556 | 1.896 | 建陽1 | 505 | | 22 | | 丙 | 申 |
| 30 | 2.557 | 1.897 | 光武1 | 506 | | 23 | | 丁 | 酉 |
| 31 | 2.558 | 1.898 | 2 | 507 | | 24 | | 戊 | 戌 |
| 32 | 2.559 | 1.899 | 3 | 508 | | 25 | | 己 | 亥 |

曆對照表〔續〕 (明治元年以降)

| 日 | 本 | 西 | 曆 | 朝 | 鮮 | 清 | 國 | 干 | 支 |
|-----|-------|-------|-----|-------|-----|-----|----|---|------|
| 33 | 2.560 | 1.900 | 光武4 | 509 | 光緒 | 26 | 庚 | 子 | 丑寅卯 |
| 34 | 2.561 | 1.901 | 5 | 510 | 27 | 辛 | 壬 | 癸 | 辰巳午未 |
| 35 | 2.562 | 1.902 | 6 | 511 | 28 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 36 | 2.563 | 1.903 | 7 | 512 | 29 | 隆熙1 | 30 | 戊 | 己庚辛 |
| 37 | 2.564 | 1.904 | 8 | 513 | 31 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 38 | 2.565 | 1.905 | 9 | 514 | 32 | 丙 | 丁 | 戊 | 己庚辛 |
| 39 | 2.566 | 1.906 | 10 | 515 | 33 | 宣統 | 34 | 壬 | 癸 |
| 40 | 2.567 | 1.907 | 隆熙1 | 516 | 1 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 41 | 2.568 | 1.908 | 2 | 517 | 2 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 42 | 2.569 | 1.909 | 3 | 518 | 3 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 43 | 2.570 | 1.910 | 4 | 519 | 4 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 44 | 2.571 | 1.611 | 中華 | 5 | 5 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 45 | 2.572 | 1.912 | 1 | 2.572 | 6 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 1 | 2.573 | 1.913 | 2 | 2.573 | 7 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 2 | 2.574 | 1.914 | 3 | 2.574 | 8 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 3 | 2.575 | 1.915 | 4 | 2.575 | 9 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 4 | 2.576 | 1.916 | 5 | 2.576 | 10 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 5 | 2.577 | 1.917 | 6 | 2.577 | 11 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 6 | 2.578 | 1.918 | 7 | 2.578 | 12 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 7 | 2.579 | 1.919 | 8 | 2.579 | 13 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 8 | 2.580 | 1.920 | 9 | 2.580 | 14 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 9 | 2.581 | 1.921 | 10 | 2.581 | 15 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 10 | 2.582 | 1.922 | 11 | 2.582 | 16 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 11 | 2.583 | 1.923 | 12 | 2.583 | 17 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 12 | 2.584 | 1.924 | 13 | 2.584 | 18 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 13 | 2.585 | 1.925 | 14 | 2.585 | 19 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 14 | 2.586 | 1.926 | 15 | 2.586 | 20 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 15 | 2.587 | 1.927 | 16 | 2.587 | 21 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 16 | 2.588 | 1.928 | 17 | 2.588 | 22 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 17 | 2.589 | 1.929 | 18 | 2.589 | 23 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 18 | 2.590 | 1.930 | 19 | 2.590 | 24 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 19 | | | 20 | | 25 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 20 | | | 21 | | 26 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 21 | | | 22 | | 27 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 22 | | | 23 | | 28 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 23 | | | 24 | | 29 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 24 | | | 25 | | 30 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 25 | | | 26 | | 31 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 26 | | | 27 | | 32 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 27 | | | 28 | | 33 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 28 | | | 29 | | 34 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 29 | | | 30 | | 35 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 30 | | | 31 | | 36 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 31 | | | 32 | | 37 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 32 | | | 33 | | 38 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 33 | | | 34 | | 39 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 34 | | | 35 | | 40 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 35 | | | 36 | | 41 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 36 | | | 37 | | 42 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 37 | | | 38 | | 43 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 38 | | | 39 | | 44 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 39 | | | 40 | | 45 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 40 | | | 41 | | 46 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 41 | | | 42 | | 47 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 42 | | | 43 | | 48 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 43 | | | 44 | | 49 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 44 | | | 45 | | 50 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 45 | | | 46 | | 51 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 46 | | | 47 | | 52 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 47 | | | 48 | | 53 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 48 | | | 49 | | 54 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 49 | | | 50 | | 55 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 50 | | | 51 | | 56 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 51 | | | 52 | | 57 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 52 | | | 53 | | 58 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 53 | | | 54 | | 59 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 54 | | | 55 | | 60 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 55 | | | 56 | | 61 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 56 | | | 57 | | 62 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 57 | | | 58 | | 63 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 58 | | | 59 | | 64 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 59 | | | 60 | | 65 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 60 | | | 61 | | 66 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 61 | | | 62 | | 67 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 62 | | | 63 | | 68 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 63 | | | 64 | | 69 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 64 | | | 65 | | 70 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 65 | | | 66 | | 71 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 66 | | | 67 | | 72 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 67 | | | 68 | | 73 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 68 | | | 69 | | 74 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 69 | | | 70 | | 75 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 70 | | | 71 | | 76 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 71 | | | 72 | | 77 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 72 | | | 73 | | 78 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 73 | | | 74 | | 79 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 74 | | | 75 | | 80 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 75 | | | 76 | | 81 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 76 | | | 77 | | 82 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 77 | | | 78 | | 83 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 78 | | | 79 | | 84 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 79 | | | 80 | | 85 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 80 | | | 81 | | 86 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 81 | | | 82 | | 87 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 82 | | | 83 | | 88 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 83 | | | 84 | | 89 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 84 | | | 85 | | 90 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 85 | | | 86 | | 91 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 86 | | | 87 | | 92 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 87 | | | 88 | | 93 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 88 | | | 89 | | 94 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 89 | | | 90 | | 95 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 90 | | | 91 | | 96 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 91 | | | 92 | | 97 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 92 | | | 93 | | 98 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 93 | | | 94 | | 99 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 94 | | | 95 | | 100 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 95 | | | 96 | | 101 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 96 | | | 97 | | 102 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 97 | | | 98 | | 103 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 98 | | | 99 | | 104 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 99 | | | 100 | | 105 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 100 | | | 101 | | 106 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 101 | | | 102 | | 107 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 102 | | | 103 | | 108 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 103 | | | 104 | | 109 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 104 | | | 105 | | 110 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 105 | | | 106 | | 111 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 106 | | | 107 | | 112 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 107 | | | 108 | | 113 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 108 | | | 109 | | 114 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 109 | | | 110 | | 115 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 110 | | | 111 | | 116 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 111 | | | 112 | | 117 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 112 | | | 113 | | 118 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 113 | | | 114 | | 119 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 114 | | | 115 | | 120 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 115 | | | 116 | | 121 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 116 | | | 117 | | 122 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 117 | | | 118 | | 123 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 118 | | | 119 | | 124 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 119 | | | 120 | | 125 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 120 | | | 121 | | 126 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 121 | | | 122 | | 127 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 122 | | | 123 | | 128 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 123 | | | 124 | | 129 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 124 | | | 125 | | 130 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 125 | | | 126 | | 131 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 126 | | | 127 | | 132 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 127 | | | 128 | | 133 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 128 | | | 129 | | 134 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 129 | | | 130 | | 135 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 130 | | | 131 | | 136 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 131 | | | 132 | | 137 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 132 | | | 133 | | 138 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 133 | | | 134 | | 139 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 134 | | | 135 | | 140 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 135 | | | 136 | | 141 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 136 | | | 137 | | 142 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 137 | | | 138 | | 143 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 138 | | | 139 | | 144 | 壬 | 癸 | 甲 | 乙 |
| 139 | | | 140 | | 145 | 丙 | 丁 | 戊 | 己 |
| 140 | | | 141 | | 146 | 庚 | 辛 | 壬 | 癸 |
| 141 | | | 142 | | 147 | 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
| 142 | | | 143 | | 148 | 戊 | 己 | 庚 | 辛 |
| 143 | | | 144 | | | | | | |

中華民國二十二年十月十日



大谷口吳

中華民國二十二年十月十日

大谷口吳

大谷口吳

大谷口吳

大谷口吳

